

第3次 米子市総合計画

(米子いきいきプラン 2016)

数値目標進捗状況報告書



平成30年11月

総合政策部総合政策課

目 次

● 第3次総合計画数値目標の進捗状況

| | | |
|---|--|----|
| 1 | 第3次総合計画の数値目標について | 1 |
| 2 | 平成29年度の数値目標進捗状況調査の実施 | 1 |
| | (1) 調査目的 | 1 |
| | (2) 調査対象 | 1 |
| 3 | 評価方法（目標達成度） | 2 |
| 4 | 調査結果 | 3 |
| | (1) 平成29年度（計画2年目）の目標達成状況 | 3 |
| | (2) 平成29年度（計画2年目）の進捗状況 | 4 |
| | (3) まちづくりの目標（基本計画）の進捗状況 | 5 |
| | (4) まちづくりの目標（基本計画）ごとの数値目標進捗状況 及び調査結果一覧 | 6 |
| ① | 1 『あした』がいきいき 未来の活力とにぎわいを生み出す、 魅力あふれるまちづくり | 6 |
| ② | 2 『ひと』がいきいき ともに支え合い、子どもも大人も生涯健やかに 暮らせるまちづくり | 9 |
| ③ | 3 『こころ』がいきいき 豊かな心と人を育み、人を大切にするまちづくり | 11 |
| ④ | 4 『ふるさと』がいきいき 人と自然が共生し、安心・安全でいつまでも快適に 住み続けられるまちづくり | 13 |
| ⑤ | 5 いきいきとした『まちづくり』 市民とともに、まちづくりを進める市役所づくり | 15 |
| 5 | 数値目標別進捗状況 | 18 |

第3次米子市総合計画（米子いきいきプラン2016）数値目標の進捗状況

1 第3次総合計画の数値目標について

平成23年に策定した第2次米子市総合計画（米子いきいきプラン2011）では計画の指標となる「数値目標」を設定し、以降毎年度、数値目標に対する実績の調査を行い、総合計画の推進に役立ててきました。

平成28年3月に策定した第3次米子市総合計画（米子いきいきプラン2016）（以下「第3次総合計画」）においても、引き続き、まちづくりの目標（基本計画）の指標として、130項目の数値目標を設定し、総合計画の進捗状況の把握に活用するとともに、計画期間（目標年度 平成32年度）内での数値目標の達成に努め、本市の発展に向けた取り組みを進めることとしています。

2 平成29年度の数値目標進捗状況調査の実施

（1）調査目的

平成32年度を目標とする第3次総合計画の数値目標の現在の進捗状況を把握するため、平成29年度末の実績に基づく数値目標の目標達成度等について、平成30年6月から9月に調査を行いました。

（2）調査対象

第3次総合計画の基本計画に掲げる130項目の数値目標を調査対象としました。

【数値目標進捗状況調査対象項目数】

| まちづくりの目標（基本計画） | 数値目標 |
|--|------|
| 1 『あした』がいきいき 未来の活力とにぎわいを生み出す、魅力あふれるまちづくり | 31 |
| 2 『ひと』がいきいき ともに支え合い、子どもも大人も生涯健やかに暮らせるまちづくり | 27 |
| 3 『こころ』がいきいき 豊かな心と人を育み、人を大切にするまちづくり | 23 |
| 4 『ふるさと』がいきいき 人と自然が共生し、安心・安全でいつまでも快適に住み続けられるまちづくり | 29 |
| 5 いきいきとした『まちづくり』 市民とともに、まちづくりを進める市役所づくり | 20 |
| 合 計 | 130 |

なお、米子市が施策や事業を推進していくうえでより適切な数値目標とするため、指標および目標値を見直した数値目標（3項目）については、変更後の数値目標で調査を実施しました。

指標を変更した数値目標および目標値を変更した数値目標は次のとおりです。

【指標を変更した数値目標】

| 指標名 | 基準値 | 目標値 H32 | 理由 |
|-------------------------------|-------------|-------------|---|
| (変更前) 市ホームページ年間閲覧数（トップページ） | 731,438 件 | 768,000 件 | トップページ経由ではなくキーワード検索により該当ページへ直接アクセスする手法が一般的であるため |
| (変更後) 市ホームページ年間閲覧数（全体） | 4,819,326 件 | 5,060,292 件 | |

【目標値を変更した数値目標】 変更箇所 太字・下線 () 内は変更前

| 指標名 | 基準値 | H29実績値 | 目標値 H32 | 理由 |
|----------------------|-------------|--------------|---------------------------------------|----------------------------------|
| 障がい者就労施設等からの物品等の調達実績 | 6,830,217 円 | 16,570,147 円 | 16,600,000 円 (10,000,000 円) | 計画2年目の実績値が目標値を大きく上回ったため、目標値を上方修正 |
| 介護保険料の徴収率（現年分） | 98.56% | 98.95% | 98.95% (98.80%) | 計画2年目の実績値が目標値を大きく上回ったため、目標値を上方修正 |

3 評価方法（目標達成度）

調査対象とした130項目を、つぎの「A～D」の4つの区分に分類し、目標達成度を評価しました。

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値（平成26年度または平成27年度の現状値）を下回っている

なお、目標達成率の算出方法は次のとおりです。

$$\text{【達成率（％）】} = \frac{\text{平成 29 年度実績値} - \text{基準値（平成 26 年度又は平成 27 年度の現状値）}}{\text{目標値（平成 32 年度）} - \text{基準値（同 上）}} \times 100$$

4 調査結果

(1) 平成 29 年度（計画 2 年目）の目標達成状況

平成 29 年度（計画 2 年目）に目標値を達成（目標達成度 A）した数値目標は 43 項目で、目標達成率は 33.1%となりました。

まちづくりの目標ごとの目標達成率は、次のとおりです。

【計画 2 年目の目標達成率】 (達成率 単位 % 小数第 2 位 四捨五入)

| まちづくりの目標（基本計画） | 調査対象 項目数① | 達成度 A 項目数② | 達成率 ②/① % |
|--|--------------|---------------|----------------|
| 1 『あした』がいきいき 未来の活力とにぎわいを生み出す、魅力あふれる まちづくり | 31 (31) | 6 (4) | 19.4 (12.9) |
| 2 『ひと』がいきいき ともに支え合い、子どもも大人も生涯健やかに 暮らせるまちづくり | 27 (27) | 5 (3) | 18.5 (11.1) |
| 3 『こころ』がいきいき 豊かな心と人を育み、人を大切に作るまちづくり | 23 (23) | 10 (9) | 43.5 (39.1) |
| 4 『ふるさと』がいきいき 人と自然が共生し、安心・安全でいつまでも快適に 住み続けられるまちづくり | 29 (29) | 11 (9) | 37.9 (31.0) |
| 5 いきいきとした『まちづくり』 市民とともに、まちづくりを進める市役所づくり | 20 (20) | 11 (8) | 55.0 (40.0) |
| 合 計 | 130 (130) | 43 (33) | 33.1 (25.4) |

※ () 内は、前年度（平成 28 年度）の数字です。

(2) 平成29年度(計画2年目)の進捗状況

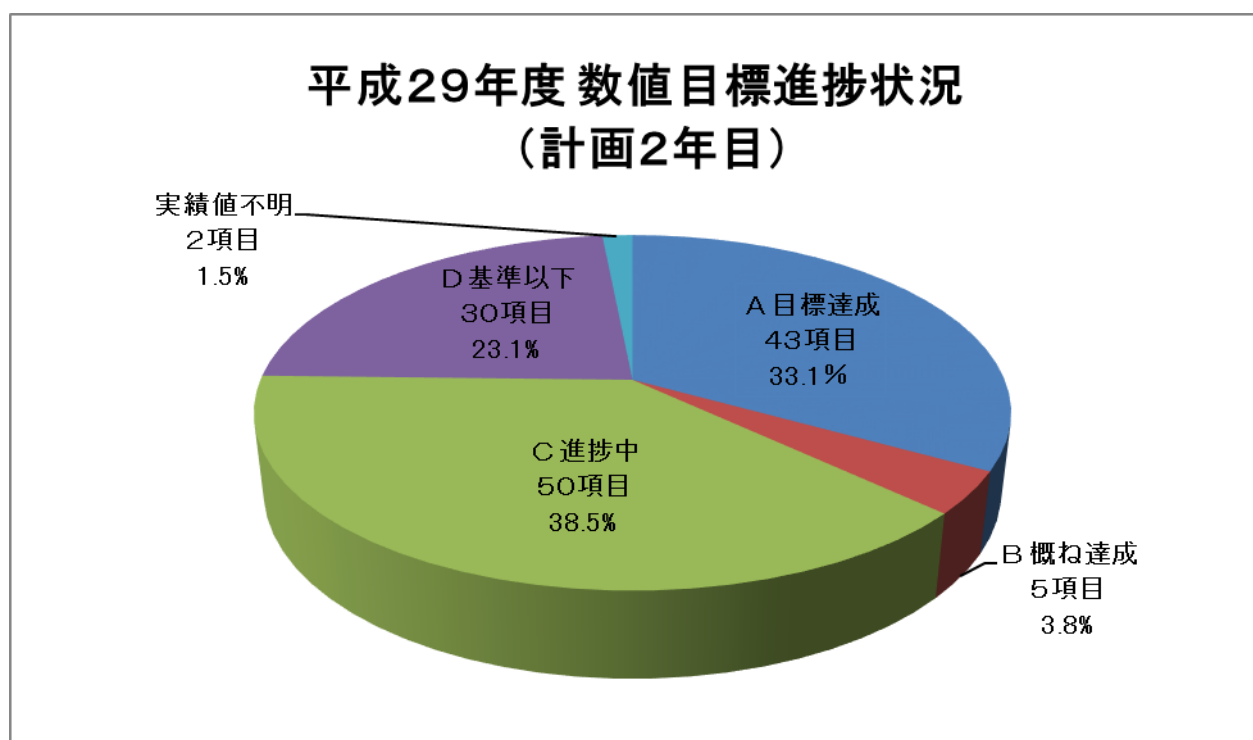
計画2年目(平成29年度)の数値目標の進捗状況は全体の3割を上回る43項目(33.1%)で「目標値を達成(目標達成度A)」しました。

また、「概ね目標を達成している(目標達成度B)」が5項目(3.8%)あり、これらを合わせると全体の4割弱の48項目(36.9%)が目標達成・目標達成見込みとなりました。

しかしながら、その一方で、「進捗はしているが、目標を達成するために引き続き取組が必要である(目標達成度C)」が50項目(38.5%)、「基準値を下回った(目標達成度D)」が30項目(23.1%)あり、これらの数値目標については、計画2年目の取組み状況を検証するとともに、目標実現に向けた取組み方策やスケジュールの再確認を行う必要があります。なお、今後の方策等につきましては、「5数値目標別進捗状況」に記載しております。

また、実績値が算出できないものが2項目(1.5%)ありました。

前年度(平成28年度)と比較すると、目標達成度D(基準以下)が37項目から30項目へ7項目減り、目標達成度A(達成済み)の項目が33項目から43項目へ10項目増加しました。

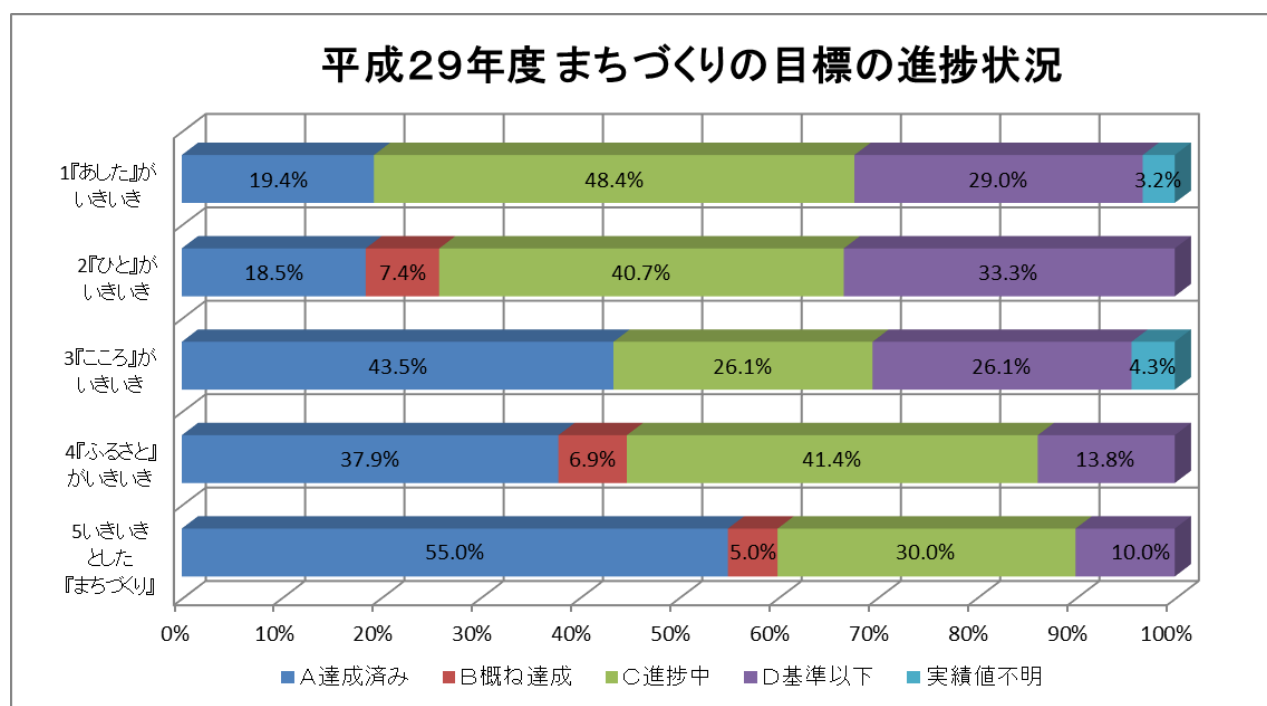


※ 目標達成度A~Dの割合(%)は、小数第2位を四捨五入しています。

(3) まちづくりの目標(基本計画)の進捗状況

まちづくりの目標(基本計画)の数値目標の進捗状況をみると、目標達成度A(目標値を達成したもの)と目標達成度B(概ね目標値を達成しているもの)の割合がもっとも高いのは、「5 いきいきとした『まちづくり』」の60.0%で、次に「4『ふるさと』がいきいき」の44.8%と続きました。

一方、目標達成度D(基準値を下回ったもの)の割合が高いまちづくりの目標は、「2『ひと』がいきいき」で33.3%、「1『あした』がいきいき」で29.0%となっています。



※ 目標達成度A～Dの割合(%)は、小数第2位を四捨五入しています。

(4) まちづくりの目標（基本計画）ごとの数値目標進捗状況及び調査結果一覧

【まちづくりの目標の進捗状況】

| まちづくりの目標（基本計画） | 達成度 A 達成済み | 達成度 B 概ね達成 | 達成度 C 進捗中 | 達成度 D 基準以下 | 実績値 不明 |
|--|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------|
| 1 『あした』がいきいき 未来の活力とにぎわいを生み出す、 魅力あふれるまちづくり | 6 (19.4%) | — | 15 (48.4%) | 9 (29.0%) | 1 (3.2%) |
| 2 『ひと』がいきいき ともに支え合い、子どもも大人も 生涯健やかに暮らせるまちづくり | 5 (18.5%) | 2 (7.4%) | 11 (40.7%) | 9 (33.3%) | — |
| 3 『こころ』がいきいき 豊かな心と人を育み、人を大切に するまちづくり | 10 (43.5%) | — | 6 (26.1%) | 6 (26.1%) | 1 (4.3%) |
| 4 『ふるさと』がいきいき 人と自然が共生し、安心・安全でいつま でも快適に住み続けられるまちづくり | 11 (37.9%) | 2 (6.9%) | 12 (41.4%) | 4 (13.8%) | — |
| 5 いきいきとした『まちづくり』 市民とともに、まちづくりを進める 市役所づくり | 11 (55.0%) | 1 (5.0%) | 6 (30.0%) | 2 (10.0%) | — |
| 合 計 (130) | 43 (33.1%) | 5 (3.8%) | 50 (38.5%) | 30 (23.1%) | 2 (1.5%) |

※ 目標達成度 A～D の割合 (%) は、小数第 2 位を四捨五入しています。

① 1 『あした』がいきいき

未来の活力とにぎわいを生み出す、魅力あふれるまちづくり

【『あした』がいきいきの進捗状況】 (達成率 小数第 2 位四捨五入)

| 年 度 | 達成度 A 達成済み | 達成度 B 概ね達成 | 達成度 C 進捗中 | 達成度 D 基準以下 | 実績値 不明 |
|----------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------|
| 平成 28 年度 | 4(12.9%) | 1(3.2%) | 13(41.9%) | 13(41.9%) | — |
| 平成 29 年度 | 6(19.4%) | — | 15(48.4%) | 9(29.0%) | 1(3.2%) |

今回調査した数値目標は、31項目で、目標を達成した6項目(19.4%)は「小規模事業者経営改善資金等利子補給補助金利用者数」「ビジネスマッチング商談会エントリー企業数」「皆生温泉の外国人宿泊客数」「年間漁業販売金額」「人工生産する稚鮎数」、「ソーシャルメディア上の公式アカウント

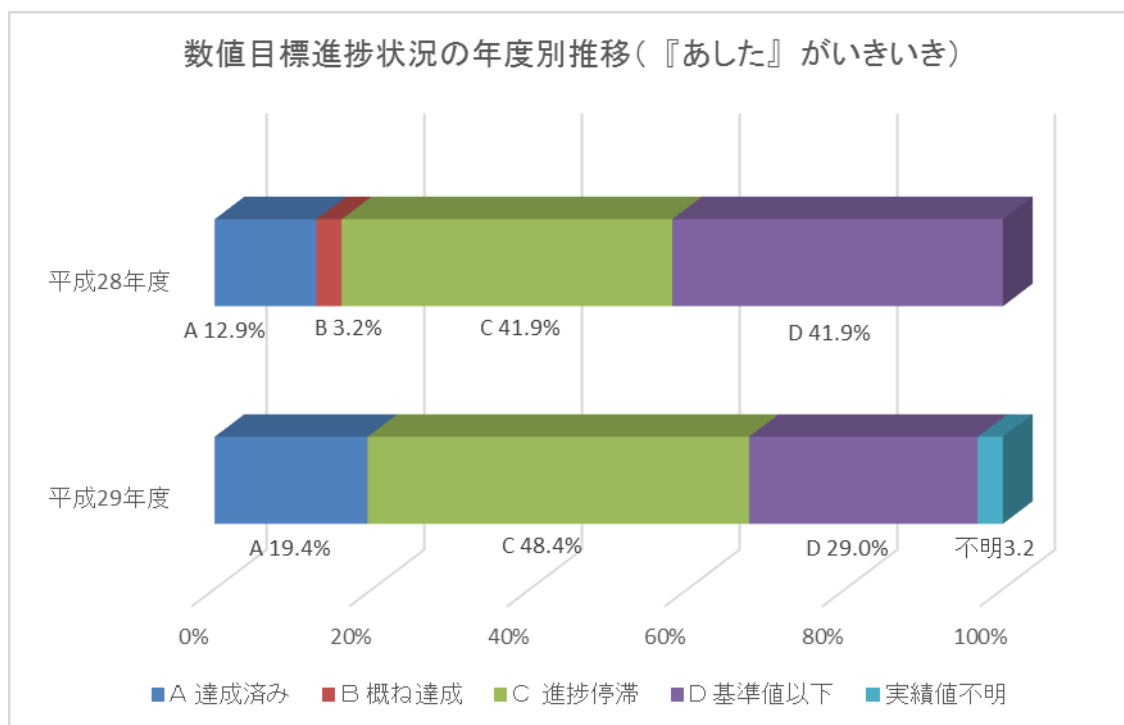
数」でした。

また、進捗中のものが15項目（48.4%）ありました。

その一方で、進捗状況が停滞し、基準値を下回ったものが9項目（29.0%）、実績値不明だったものが1項目（3.2%）ありました。

基準値を下回った9項目は、「商店街振興組合などが環境整備を行った件数」、「米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数」、「皆生温泉宿泊者数」、「淀江地区の観光施設、歴史文化施設の年間入込み客数」、「コンベンション参加者数」、「歩行者等通行量」、「駐車場の年間利用台数」、「文化施設の年間利用者数」、「国際理解講座等への参加者数」でした。

なお、実績値不明の1項目は、「合同就職ガイダンスへの米子市出身者参加数」で、平成29年度は合同就職ガイダンスを実施していないため、実績値不明となりました。



【調査結果一覧】

| 1 『あした』がいきいき 未来の活力とにぎわいを生み出す、魅力あふれるまちづくり | | | | | | | |
|---|--------------------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| No. | 指標名 | 現状値 26or27年度 | 28年度 実績値 | 29年度 実績値 | 目標値 32年度 | 目標 達成度 | 実績値 比較 |
| 1 | 小規模事業者経営改善資金等利子補給補助金利用者数 | 18件 | 49件 | 71件 | 69件 | A | ↗ |
| 2 | 中心市街地商店街空き店舗への出店数 | 78店舗 | 81店舗 | 83店舗 | 113店舗 | C | ↗ |
| 3 | 商店街振興組合などが環境整備を行った件数 | 6件 | 6件 | 6件 | 13件 | D | → |
| 4 | 米子市内での新規創業件数 | 25件 | 20件 | 28件 | 45件 | C | ↗ |

| No. | 指 標 名 | 現状値 26or27年度 | 28年度 実績値 | 29年度 実績値 | 目標値 32年度 | 目標 達成度 | 実績値 比較 |
|-----|----------------------------------|-----------------|---------------|----------------|------------------|-----------|-----------|
| 5 | 工場等の新增設件数 | 18件 | 22件 | 23件 | 33件 | C | |
| 6 | ビジネスマッチング商談会エントリー企業数 | 95企業 | 117企業 | 143企業 | 120企業 | A | |
| 7 | 米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数 | 158.7万人 | 123万人 | 109.5万人 | 178万人 | D | |
| 8 | 皆生温泉の外国人宿泊客数 | 10,628人 | 18,068人 | 26,746人 | 18,800人 | A | |
| 9 | 皆生温泉宿泊者数（入湯税対象者数） | 44.0万人 | 41.7万人 | 38.8万人 | 47.5万人 | D | |
| 10 | 淀江地区の観光施設、歴史文化施設の年間入込み客数 | 30.6万人 | 27.5万人 | 29.2万人 | 40万人 | D | |
| 11 | コンベンション誘致件数 | 93件 | 131件 | 117件 | 131件 | C | |
| 12 | コンベンション参加者数 | 27,132人 | 31,124人 | 20,599人 | 35,000人 | D | |
| 13 | 多様な担い手の数 | 129経営体 | 127経営体 | 131経営体 | 179経営体 | C | |
| 14 | 農地の流動化面積 | 543ha | 706ha | 713ha | 793ha | C | |
| 15 | 荒廃農地の面積 | 160ha | 144 ha | 129ha | 60ha | C | |
| 16 | 年間漁業販売金額 | 2.6億円 | 2.9億円 | 2.99億円 | 2.9億円 | A | |
| 17 | 新規漁業就業者の育成件数 | 0人 | 1人 | 2人 | 5人 | C | |
| 18 | 人工生産する稚鮎数 | 310万尾 | 297万尾 | 325万尾 | 320万尾 | A | |
| 19 | 歩行者等通行量（自転車を含む） | 12,945人 | 11,645人 | 9,773人 | 13,200人 | D | |
| 20 | 駐車場の年間利用台数（時間貸しのみ） | 1,498,308台 | 1,475,194台 | 1,421,417台 | 1,515,000台 | D | |
| 21 | 文化施設の年間利用者数 | 1,138,317人 | 1,130,249人 | 1,111,950人 | 1,140,000人 | D | |
| 22 | 下町観光ガイドの年間利用者数 | 956人 | 1,210人 | 1,157人 | 1,380人 | C | |
| 23 | 中心市街地の人口の社会増減 | -5人 | 2人 | -5人 | 1人以上 | C | |
| 24 | 地元企業の産学金官連携事業の数 | 28件 | 30件 | 33件 | 38件 | C | |
| 25 | 新規農商工連携・6次産業化取組件数 | 9件 | 12件 | 14件 | 19件 | C | |
| 26 | 誘致企業数 | 29社 | 29社 | 31社 | 39社 | C | |
| 27 | 合同就職ガイダンスへの米子市出身者参加数 | 42人 | 20人 | — | 142人 | — | — |
| | （参考値）とっとり就職フェア米子会場参加数 | — | 263人 | 219人 | — | — | |
| 28 | 県外からの移住者数 | — | 505人 | 1,038人 | 1,500人 | C | |
| 29 | 婚活イベントやセミナーなどの参加者数 ※（ ）は全参加者数 | 69人 (265人) | 59人 (199人) | 102人 (270人) | 500人 (1,500人) | C | |
| 30 | ソーシャルメディア上の公式アカウント数 | 5個 | 6個 | 11個 | 10個 | A | |
| 31 | 国際理解講座等への参加者数 | 3,110人 | 3,401人 | 2,810人 | 3,610人 | D | |

※ 実績値比較は、28年度実績値と29年度実績値の数値の比較を矢印で表しています。

② 2 『ひと』がいきいき

ともに支え合い、子どもも大人も生涯健やかに暮らせるまちづくり

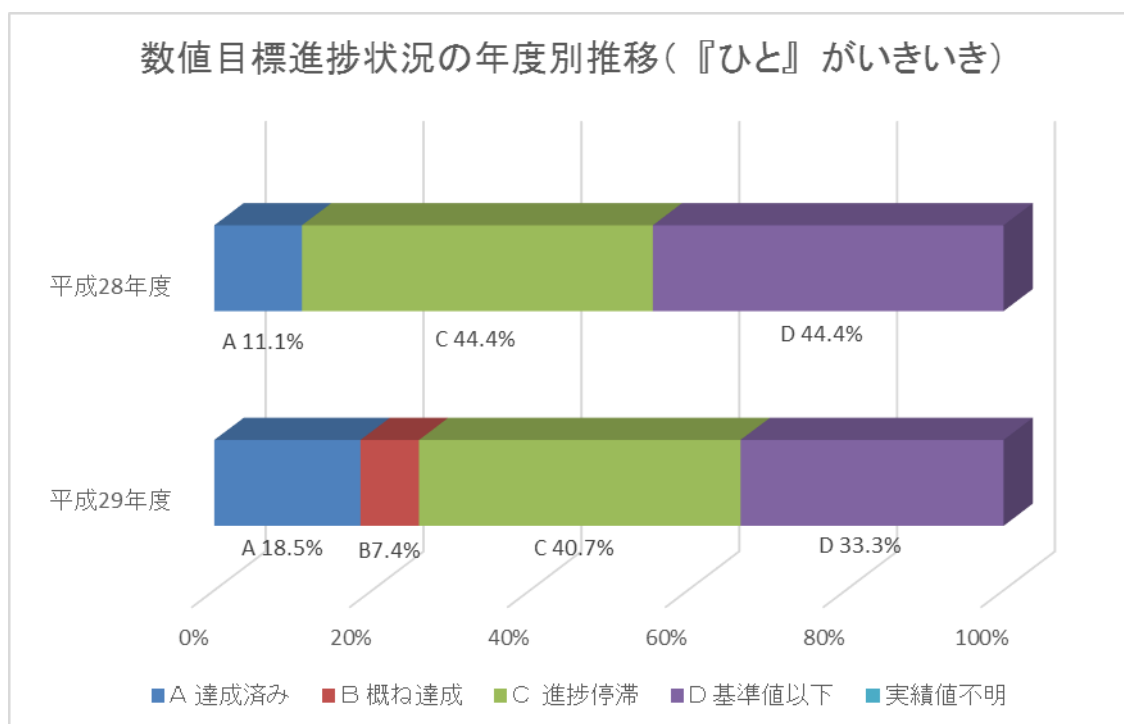
【『ひと』がいきいきの進捗状況】 (達成率 小数第2位四捨五入)

| 年 度 | 達成度 A 達成済み | 達成度 B 概ね達成 | 達成度 C 進捗中 | 達成度 D 基準以下 | 実績値 不明 |
|----------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------|
| 平成 28 年度 | 3 (11.1%) | — | 12 (44.4%) | 12 (44.4%) | — |
| 平成 29 年度 | 5 (18.5%) | 2 (7.4%) | 11 (40.7%) | 9 (33.3%) | — |

今回調査した数値目標は、27項目で、目標を達成した5項目(18.5%)は「地域包括ケアシステム構築に係る活動件数」、「認知症早期発見に係るアプローチ数」、「コミュニケーション支援(要約筆記者)利用件数」、「消費者教育講座参加者数」、「消費生活相談解決率」でした。また、概ね順調に進捗しており、概ね目標を達成しているものは2項目(7.4%)、進捗中のものが11項目(40.7%)ありました。

その一方で、進捗状況が停滞し、基準値を下回ったものが9項目(33.3%)ありました。

基準値を下回った9項目は、「妊娠届時の妊婦の同居人の喫煙割合」、「大腸がん検診の受診率」、「乳がん検診の受診率」、「高齢者インフルエンザ予防接種の接種率」、「地域組織間連携で地域保健事業に取り組んだ活動者数」、「健康づくり地域サポーターの人数」、「通所型運動機能向上事業の利用者数」、「コミュニケーション支援(手話通訳者)利用件数」、「発達支援事業利用者アンケート結果で『相談してよかった』と回答した人の割合」でした。



【調査結果一覧】

| 2 『ひと』がいきいき ともに支え合い、子どもも大人も生涯健やかに暮らせるまちづくり | | | | | | | |
|---|--|-----------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| No. | 指 標 名 | 現状値 26or27年度 | 28年度 実績値 | 29年度 実績値 | 目標値 32年度 | 目標 達成度 | 実績値 比較 |
| 1 | 妊婦健診の受診率 | 94.5% | 93.3% | 98.7% | 100% | C | |
| 2 | 1歳6か月健康診査の受診率 | 98.1% | 99.2% | 99.0% | 100% | C | |
| 3 | 乳児家庭全戸訪問事業の実施率 | 96.5% | 97.3% | 97.7% | 100% | C | |
| 4 | 認定こども園・保育所などの受入れ人数 | 2,017人 | 2,168人 | 2,210人 | 2,233人 | B | |
| 5 | 放課後児童クラブの受入れ人数 | 1,430人 | 1,577人 | 1,696人 | 2,260人 | C | |
| 6 | 妊娠届時の妊婦の喫煙割合 | 2.5% | 2.6% | 2.3% | 0% | C | |
| 7 | 妊娠届時の妊婦の同居人の喫煙割合 | 36.7% | 37.8% | 41.7% | 20% | D | |
| 8 | 特定健康診査の受診率 | 29.9% | 28.8% | 30.9% | 60% | C | |
| 9 | 大腸がん検診の受診率 | 28.9% | 27.3% | 27.5% | 50% | D | |
| 10 | 乳がん検診の受診率 | 30.9% | 32.2% | 30.6% | 50% | D | |
| 11 | 高齢者インフルエンザ予防接種の接種率 | 63.2% | 61.7% | 61.0% | 68% | D | |
| 12 | ゲートキーパー研修の受講者数 | 545人 | 549人 | 826人 | 1,500人 | C | |
| 13 | 地域組織間連携で地域保健事業に取り組んだ活動者数 | 911人 | 724人 | 712人 | 1,500人 | D | |
| 14 | 介護支援ボランティア登録者数 | 60人 | 89人 | 79人 | 110人 | C | |
| 15 | 健康づくり地域サポーターの人数 | 360人 | 294人 | 278人 | 410人 | D | |
| 16 | 通所型運動機能向上事業の利用者数 | 700人 | 632人 | 617人 | 1,200人 | D | |
| 17 | 介護保険の居宅介護サービス利用率 | 82.2% | 81.8% | 82.7% | 84.0% | C | |
| 18 | 地域包括ケアシステム構築に係る活動件数 | 6,347件 | 6,862件 | 7,082件 | 6,850件 | A | |
| 19 | 認知症サポーター養成講座の受講者数 | 12,400人 | 14,637人 | 16,059人 | 22,900人 | C | |
| 20 | 認知症早期発見に係るアプローチ数 | 410人 | 442人 | 518人 | 460人 | A | |
| 21 | コミュニケーション支援（手話通訳者） 利用件数 | 1,199件 | 1,226件 | 1,032件 | 1,400件 | D | |
| 22 | コミュニケーション支援（要約筆記者） 利用件数 | 12件 | 24件 | 20件 | 20件 | A | |
| 23 | 障がい者就労施設等からの物品等の調達実績 | 6,830,217円 | 10,248,947円 | 16,570,147円 | 1,660,000円 | B | |
| 24 | 発達支援事業利用者アンケート結果で 「相談してよかった」と回答した人の割合 | 100.0% | 99.2% | 99.3% | 100% | D | |
| 25 | 地区版地域福祉活動計画策定地区数 | 7地区 | 7地区 | 9地区 | 17地区 | C | |
| 26 | 消費者教育講座参加者数 | 1,254人 | 869人 | 1,605人 | 1,500人 | A | |
| 27 | 消費生活相談解決率 | 85.8% | 87.5% | 97.6% | 95% | A | |

※ 実績値比較は、28年度実績値と29年度実績値の数値の比較を矢印で表しています。

③ 3 『こころ』がいきいき
豊かな心と人を育み、人を大切にすまちづくり

【『こころ』がいきいきの進捗状況】 (達成率 小数第2位四捨五入)

| 年 度 | 達成度 A 達成済み | 達成度 B 概ね達成 | 達成度 C 進捗中 | 達成度 D 基準以下 | 実績値 不明 |
|----------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------|
| 平成 28 年度 | 9 (39.1%) | — | 8 (34.8%) | 6 (26.1%) | — |
| 平成 29 年度 | 10 (43.5%) | — | 6 (26.1%) | 6 (26.1%) | 1 (4.3%) |

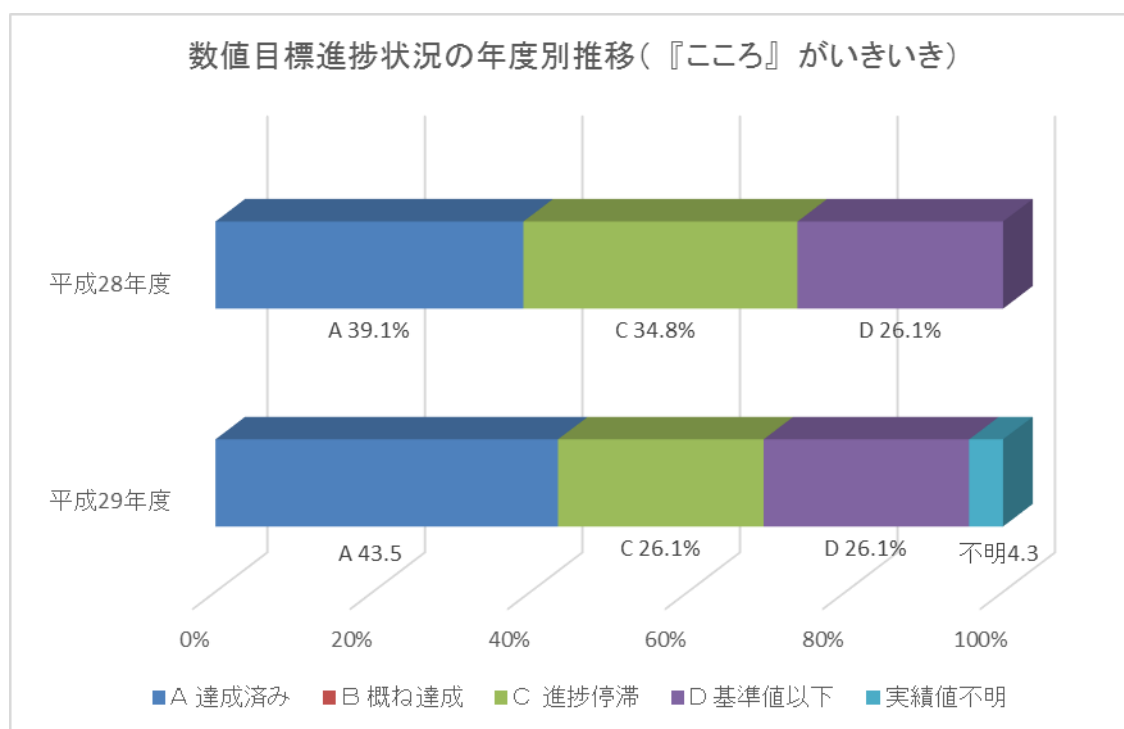
今回調査した数値目標は、23項目で、目標を達成した10項目(43.5%)は「学校施設の耐震化率」、「児童文化センターの年間利用者数」、「市民等による芸術文化の発表の場となる主な事業への参加団体数」、「米子市ホームページ「文化の窓」に掲載する団体数」、「歴史関係施設の年間利用者数」、「図書館の年間個人貸出冊数」、「各種スポーツ大会の年間参加者数」、「体育表彰受賞者数」、「体育表彰受賞団体数」、「人権問題に関する講演会、研究集会、懇談会等の参加者数」でした。

また、進捗中のものが6項目(26.1%)ありました。

その一方で、進捗状況が停滞し、基準値を下回ったものが6項目(26.1%)、実績値不明だったものが1項目(4.3%)ありました。

基準値を下回った6項目は、「子ども会加入者の小学校児童数に対する割合」、「美術館・ホール各館で行う鑑賞事業の年間入館者数」、「市民等による芸術文化の発表の場となる主な事業への出品数」、「公民館の年間利用者数」、「審議会等委員に占める女性の割合」、「かぶりあ祭参加人数」でした。

なお、実績値不明の1項目は、「国際交流体験事業の参加者数」で、平成29年度は台の影響によりイベントが実施されなかったため、実績値不明となりました。



【調査結果一覧】

| 3 『こころ』がいきいき 豊かな心と人を育み、人を大切にするまちづくり | | | | | | | |
|--|-------------------------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| No. | 指標名 | 現状値 26or27年度 | 28年度 実績値 | 29年度 実績値 | 目標値 32年度 | 目標 達成度 | 実績値 比較 |
| 1 | 学校施設の耐震化率 | 98.2% | 100% | — | 100% | A | → |
| 2 | 児童文化センターの年間利用者数 | 168,325人 | 184,854人 | 173,937人 | 170,000人 | A | ↘ |
| 3 | 国際交流体験事業の参加者数 | 500人 | 600人 | — | 600人 | — | — |
| 4 | 子ども会加入者の小学校児童数に対する割合 | 90.2% | 87.9% | 87.5% | 91% | D | ↘ |
| 5 | 街頭指導、巡回パトロールの回数 | 79回 | 93回 | 89回 | 100回 | C | ↘ |
| 6 | 「こどもかけこみ110番」の設置箇所数 | 2,055箇所 | 2,208箇所 | 2,208箇所 | 2,265箇所 | C | → |
| 7 | 少年指導委員人数 | 214人 | 216人 | 214人 | 268人 | C | ↘ |
| 8 | 美術館・ホール各館で行う鑑賞事業の年間入館者数 | 51,700人 | 36,455人 | 48,191人 | 53,000人 | D | ↗ |
| 9 | 市民等による芸術文化の発表の場となる主な事業への出品数 | 305点 | 300点 | 277点 | 320点 | D | ↘ |
| 10 | 市民等による芸術文化の発表の場となる主な事業への参加団体数 | 116団体 | 133団体 | 132団体 | 122団体 | A | ↘ |
| 11 | 米子市ホームページ「文化の窓」に掲載する団体数 | 8団体 | 9団体 | 44団体 | 33団体 | A | ↗ |
| 12 | 指定文化財および登録文化財件数 | 64件 | 69件 | 70件 | 74件 | C | ↗ |
| 13 | 歴史関係施設の年間利用者数 | 20,429人 | 25,826人 | 27,717人 | 25,000人 | A | ↗ |
| 14 | 公民館の年間利用者数 | 360,968人 | 331,012人 | 322,917人 | 370,000人 | D | ↘ |

| No. | 指 標 名 | 現状値 26or27年度 | 28年度 実績値 | 29年度 実績値 | 目標値 32年度 | 目標 達成度 | 実績値 比較 |
|-----|----------------------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| 15 | 図書館の年間個人貸出冊数 | 621,000冊 | 640,544冊 | 654,178冊 | 640,000冊 | A | |
| 16 | 小学生大会の年間参加者数 | 1,006人 | 1,015人 | 1,028人 | 1,400人 | C | |
| 17 | 各種スポーツ大会の年間参加者数 | 1,108人 | 1,579人 | 1,597人 | 1,200人 | A | |
| 18 | 体育表彰受賞者数 | 169件 | 173件 | 199件 | 180件 | A | |
| 19 | 体育表彰受賞団体数 | 39団体 | 51団体 | 58団体 | 43団体 | A | |
| 20 | 人権問題に関する講演会、研究集会、懇談会等の参加者数 | 4,000人 | 4,041人 | 4,223人 | 4,200人 | A | |
| 21 | 審議会等委員に占める女性の割合 | 32.0% | 30.1% | 29.9% | 40% | D | |
| 22 | 啓発講座参加率 | 76.9% | 114.6% | 83.3% | 100% | C | |
| 23 | かぶりあ祭参加人数 | 450人 | 500人 | 400人 | 500人 | D | |

※ 実績値比較は、28年度実績値と29年度実績値の数値の比較を矢印で表しています。

④ 4 『ふるさと』がいきいき

人と自然が共生し、安心・安全でいつまでも快適に住み続けられる
まちづくり

【『ふるさと』がいきいきの進捗状況】 (達成率 小数第2位四捨五入)

| 年 度 | 達成度 A 達成済み | 達成度 B 概ね達成 | 達成度 C 進捗中 | 達成度 D 基準以下 | 実績値 不明 |
|----------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------|
| 平成 28 年度 | 9 (31.0%) | 1 (3.4%) | 14 (48.3%) | 4 (13.8%) | 1 (3.4%) |
| 平成 29 年度 | 11 (37.9%) | 2 (6.9%) | 12 (41.4%) | 4 (13.8%) | — |

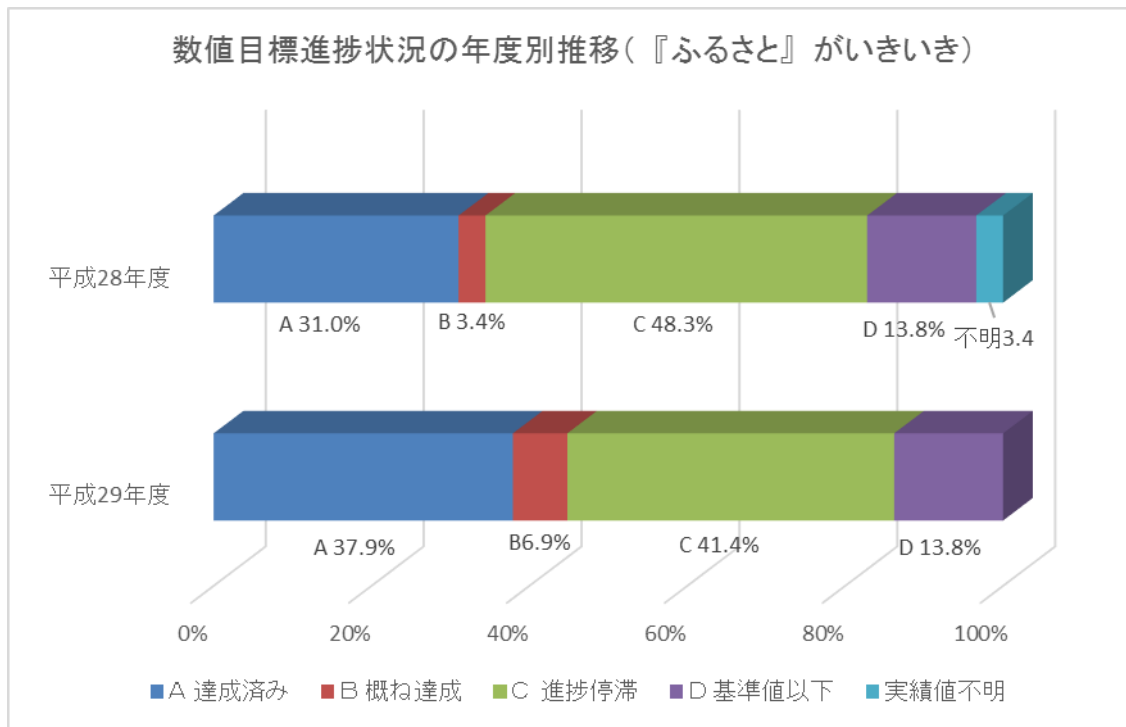
今回調査した数値目標は、29項目で、目標を達成した11項目(37.9%)は「市街化区域内の都市的土地利用率」、「公共下水道水洗化戸数率」、「1人1日あたりのごみ排出量」、「ごみの最終処分率」、「中海・宍道湖一斉清掃(米子会場)の参加者数」、「中海水質保全計画の水質目標値①COD(75%値)」、「市域面積における総林野面積の占有率」、「自主防災組織の結成率」、「交通事故年間発生件数」、「米子市を通るバス路線数」、「羽田線の搭乗者数」でした。

また、順調に進捗しており、概ね目標を達成しているものは2項目(6.9%)、進捗中のものが12項目(41.4%)ありました。

その一方で、進捗状況が停滞し、基準値を下回ったものが4項目(13.8%)ありました。

基準値を下回った4項目は、「ごみのリサイクル率」、「よなご環境フェスタの入場者数」、「米子水鳥公園ネイチャーセンター入館者」、「中海水質保全

計画の水質目標値③全りん（平均値）」でした。



【調査結果一覧】

| 4 『ふるさと』がいいき 人と自然が共生し、安心・安全でいつまでも快適に住み続けられるまちづくり | | | | | | | |
|---|----------------------------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| No. | 指標名 | 現状値 26or27年度 | 28年度 実績値 | 29年度 実績値 | 目標値 32年度 | 目標 達成度 | 実績値 比較 |
| 1 | 市街化区域内の都市的土地利用率 | 84.9% | — | 88.7% | 87% | A | ↗ |
| 2 | 米子駅南北自由通路等整備事業の進捗率 | 1.9% | 4.0% | 6.4% | 65.9% | C | ↗ |
| 3 | 公共下水道水洗化戸数率 | 87.3% | 88.5% | 88.9% | 88.8% | A | ↗ |
| 4 | 水道管の耐震化率 | 13.38% | 15.45% | 16.13% | 16.75% | B | ↗ |
| 5 | 幹線市道安倍三柳線の整備延長 | 1,380m | 1,380m | 1,380m | 1,800m | C | → |
| 6 | 米子市公園施設オーナー認定制度（樹木のオーナー募集）による植樹数 | 67本 | 97本 | 127本 | 142本 | B | ↗ |
| 7 | 緑化活動団体への活動支援件数 | 127件 | 146件 | 154件 | 187件 | C | ↗ |
| 8 | 準用河川堀川の整備延長 | 1,179m | 1,260m | 1,281m | 1,370m | C | ↗ |
| 9 | 長寿命化改善事業の実施棟数 | 0棟 | 1棟 | 1.6棟 | 8棟 | C | ↗ |
| 10 | 市内の太陽光発電設備（10kw未満）導入容量 | 11,469kw | 12,305 kw | 12,981kw | 16,200kw | C | ↗ |
| 11 | 1人1日あたりのごみ排出量 | 996g/人・日 | 965g/人・日 | 946g/人・日 | 980g/人・日 | A | ↗ |
| 12 | ごみのリサイクル率 | 17.7% | 18.1% | 17.6% | 17.7% | D | ↘ |

| No. | 指 標 名 | 現状値 26or27年度 | 28年度 実績値 | 29年度 実績値 | 目標値 32年度 | 目標 達成度 | 実績値 比較 |
|-----|---|-----------------|-------------|-------------|--------------------|-----------|-----------|
| 13 | ごみの最終処分率 | 6.4% | 6.9% | 5.5% | 5.7% | A | ↗ |
| 14 | 環境学習で米子水鳥公園を利用した市内小学生の人数 | 544人 | 795人 | 1,023人 | 1,300人 | C | ↗ |
| 15 | よなご環境フェスタの入場者数 | 1,200人 | 2,200人 | 430人 | 1,600人 | D | ↘ |
| 16 | 米子水鳥公園ネイチャーセンター入館者 | 19,831人 | 18,167人 | 19,409人 | 23,000人 | D | ↗ |
| 17 | 中海・宍道湖一斉清掃（米子会場）の参加者数 | 1,029人 | 1,184人 | 1,264人 | 1,050人 | A | ↗ |
| 18 | 中海水質保全計画の水質目標値 ①COD（75%値） | 5.0mg/L | 4.9mg/L | 4.9mg/L | 5.1mg/L （暫定値） | A | → |
| 19 | 中海水質保全計画の水質目標値 ②全窒素（平均値） | 0.58mg/L | 0.59mg/L | 0.51mg/L | 0.46mg/L （暫定値） | C | ↗ |
| 20 | 中海水質保全計画の水質目標値 ③全りん（平均値） | 0.052mg/L | 0.064mg/L | 0.054mg/L | 0.046mg/L （暫定値） | D | ↗ |
| 21 | 浄化槽の法定検査受検率 | 47.64% | 49.20% | 52.74% | 55% | C | ↗ |
| 22 | 市域面積における総林野面積の占有率 | 21.6% | 21.6% | 21.6% | 21% | A | → |
| 23 | 消防団員数 | 518人 | 518人 | 519人 | 530人 | C | ↗ |
| 24 | 自主防災組織の結成率 | 54% | 57% | 64% | 64% | A | ↗ |
| 25 | 防災行政無線施設の屋外拡声子局の新設・更新設置箇所数 | — | 42箇所 | 50箇所 | 258箇所 | C | ↗ |
| 26 | 地域防災計画（原子力災害対策編）および広域住民避難計画の住民説明会年間開催回数 | 18回 | 20回 | 21回 | 25回 | C | ↗ |
| 27 | 交通事故年間発生件数 | 389件 | 294件 | 321件 | 350件 | A | ↘ |
| 28 | 米子市を通るバス路線数 | 39路線 | 39路線 | 39路線 | 39路線 | A | → |
| 29 | 羽田線の搭乗者数 | 463,000人 | 571,815人 | 579,899人 | 513,000人 | A | ↗ |

※ 実績値比較は、28年度実績値と29年度実績値の数値の比較を矢印で表しています。

⑤ 5 いきいきとした『まちづくり』

市民とともに、まちづくりを進める市役所づくり

【いきいきとした『まちづくり』の進捗状況】（達成率 小数第2位四捨五入）

| 年 度 | 達成度 A 達成済み | 達成度 B 概ね達成 | 達成度 C 進捗中 | 達成度 D 基準以下 | 実績値 不明 |
|----------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------|
| 平成 28 年度 | 8(40.0%) | 1(5.0%) | 9(45.0%) | 2(10.0%) | — |
| 平成 29 年度 | 11(55.0%) | 1(5.0%) | 6(30.0%) | 2(10.0%) | — |

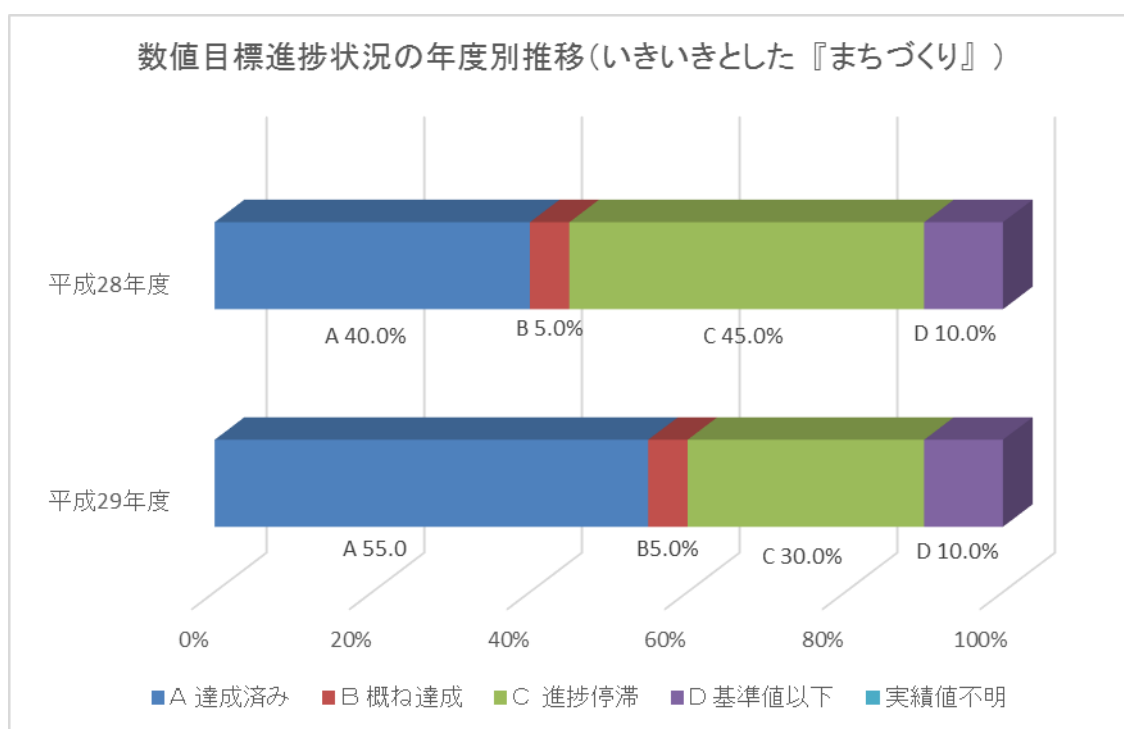
今回調査した数値目標は、20項目で、目標を達成した11項目（55.0%）は「ボランティアセンター登録団体数」、「ボランティアセンター登録人数」、「市ホームページ（全体）年間閲覧数」、「市債未償還残高の低減」、

「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「実質公債費比率」、「将来負担比率」、「市税の徴収率（現年分）」、「介護保険料の徴収率（現年分）」、「基幹業務システムの運用経費の削減」でした。

また、順調に進捗しており、概ね目標を達成しているものは1項目（5.0%）、進捗中のものが6項目（30.0%）ありました。















その一方で、進捗状況が停滞し、基準値を下回ったものが2項目（10.0%）ありました。

基準値を下回った2項目は、「『地域づくりマニュアル』を活用して地域づくりに取り組む地区数」、「自治会加入率」でした。



【調査結果一覧】

| 5 いきいきとした『まちづくり』 市民とともに、まちづくりを進める市役所づくり | | | | | | | |
|--|------------------------------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| No. | 指 標 名 | 現状値 26or27年度 | 28年度 実績値 | 29年度 実績値 | 目標値 32年度 | 目標 達成度 | 実績値 比較 |
| 1 | まちづくり活動支援交付金交付団体数 | 64団体 | 71団体 | 75団体 | 104団体 | C | ↗ |
| 2 | ボランティアセンター登録団体数 | 91団体 | 98団体 | 110団体 | 106団体 | A | ↗ |
| 3 | ボランティアセンター登録人数 | 3,330人 | 3,898人 | 4,201人 | 3,630人 | A | ↗ |
| 4 | 「地域づくりマニュアル」を活用して 地域づくりに取り組む地区数 | 2地区 | 2地区 | 2地区 | 12地区 | D | → |
| 5 | 自治会加入率 | 63.98% | 62.84% | 62.36% | 65%以上 | D | ↘ |
| 6 | 市ホームページ（全体）年間閲覧数 | 4,819,326件 | 5,059,056件 | 5,070,296件 | 5,060,292件 | A | ↗ |

| No. | 指標名 | 現状値 26or27年度 | 28年度 実績値 | 29年度 実績値 | 目標値 32年度 | 目標 達成度 | 実績値 比較 |
|-----|-----------------------------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|-----------|---|
| 7 | 市債未償還残高の低減（臨時財政対策債等特別債を除く普通会計） | 427億円 | 392億円 | 378億円 | 380億円以下 | A |  |
| 8 | 財政健全化判断比率の健全性の維持 ①実質赤字比率 | 0%未満 | 0%未満 | 0%未満 | 0%未満 | A |  |
| 9 | 財政健全化判断比率の健全性の維持 ②連結実質赤字比率 | 0%未満 | 0%未満 | 0%未満 | 0%未満 | A |  |
| 10 | 財政健全化判断比率の健全性の維持 ③実質公債費比率 | 16.8% | 13.6% | 11.9% | 14%未満 | A |  |
| 11 | 財政健全化判断比率の健全性の維持 ④将来負担比率 | 153.5% | 124.8% | 117.2% | 135%未満 | A |  |
| 12 | 市税の徴収率（現年分） | 98.94% | 99.06% | 99.35% | 99.00%以上 | A |  |
| 13 | 国民健康保険料（後期高齢者医療保険料含む）の徴収率（現年分） | 91.96% | 92.75% | 94.04% | 95.56%以上 | C |  |
| 14 | 介護保険料の徴収率（現年分） | 98.56% | 98.90% | 98.95% | 98.95%以上 | A |  |
| 15 | 特定研修機関における研修受講率 | 33.0% | 33.6% | 34.6% | 43%以上 | C |  |
| 16 | 中堅職員の能力開発・向上研修受講率 | 9.7% | 29.2% | 33.3% | 100% | C |  |
| 17 | 基幹業務システムの運用経費の削減 | 1億5,292万円 | 1億2,487万円 | 1億2,760万円 | 10%以上削減 | A |  |
| 18 | オンライン行政手続の利用件数 | 24,464件 | 51,300件 | 65,707件 | 80,000件 | C |  |
| 19 | オープンデータ、地理空間情報の公開数 | 0項目 | 2項目 | 2項目 | 20項目 | C |  |
| 20 | 米子がいな創生総合戦略に掲げた取組（施策）を実施または着手した割合 | — | 94.1% | 87.9% | 100% | B |  |

※ 実績値比較は、28年度実績値と29年度実績値の数値の比較を矢印で表しています。

5 数値目標別進捗状況

1 『あした』がいきいき

| 1 活力を生み出す商工業の振興 | | ① 中小企業対策の推進 | | 担当課 | 経済部 商工課 |
|---|--|--------------|--------------|--------------|------------|
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 小規模事業者経営改善資金等利子補給補助金利用者数 | 18件 | 49件 | 71件 | 69件 | A |
| 指標の説明 | 小規模事業者や理美容業などの生活衛生関係業者の資金繰りを支援する経営改善資金の利用者に対して利子の一部を補助することにより制度の利用を促進し、中小企業者の経営の安定を図ります。制度の新規利用者数を毎年2件ずつ増やし、28件にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>商工団体の融資相談窓口による制度の紹介や市ホームページ等による制度の周知により、補助制度の利用促進を図った。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>今後も引き続き、関係機関と連携しながら、当該制度の周知を図り、制度利用者数の増加を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|----------------|----------------|----------------|--------------|
| 1 活力を生み出す商工業の振興 | | ② 商業の活性化 | | 担当課 | 経済部 商工課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 中心市街地商店街空き店舗への出店数 | 78 店舗 | 81 店舗 | 83 店舗 | 113 店舗 | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>本市が取組をはじめた平成14年度以降の出店数の総数です。 空き店舗に出店する商業者などへの支援、新規商業者参入者の支援を行うことにより、毎年7店舗ずつ増やし、113店舗にすることを目標とします。 ※基準値は、平成14年度～平成26年度の累計値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 年間を通じて、補助制度の周知に努めた。 商店街連合会、米子市商工会議所などの関係団体と連携し、出店を希望するものに対して出店しやすい環境整備に努めた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 年間を通じて、補助制度の周知に努める。 商店街連合会、米子市商工会議所などの関係団体と連携し、出店を希望するものに対して出店しやすい環境整備に努める。 店舗改装費等の補助により空き店舗に出店する商業者などへ支援する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|----------------|----------------|----------------|--------------|
| 1 活力を生み出す商工業の振興 | | ② 商業の活性化 | | 担当課 | 経済部 商工課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 商店街振興組合 などが環境整備 を行った件数 | 6 件 | 6 件 | 6 件 | 13 件 | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>本市が取組をはじめた平成 21 年度以降に商店街振興組合などが環境整備を行った総数です。</p> <p>既存の商店街をブラッシュアップし、魅力を高める環境整備の取組を実施する商店街振興組合を支援することにより、5 年間で新たに 7 件の環境整備を図り、13 件にすることを目標とします。</p> <p>※基準値は、平成 21 年度～平成 26 年度の累計値</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>「まちなか振興ビジネス支援事業補助金」、「魅力ある商店街づくり事業補助金」について広報したが、環境整備する商店街はなかった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>「まちなか振興ビジネス支援事業補助金」、「魅力ある商店街づくり事業補助金」を活用し、既存の商店街をブラッシュアップし、魅力を高める環境整備の取組を実施する商店街振興組合を支援する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|----------------|----------------|----------------|--------------|
| 1 活力を生み出す商工業の振興 | | ② 商業の活性化 | | 担当課 | 経済部 商工課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 米子市内での新規創業件数 | 25 件 | 20 件 | 28 件 | 45 件 | C |
| 指 標 の 説 明 | 鳥取県西部 9 市町村で策定した創業支援事業計画に基づき官民一体となって支援を行うことにより、新規創業件数を年間 45 件にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商工課において、創業相談窓口を設置し、創業希望者の各種相談に応じた。(30 件) ・ 制度融資の創業支援資金、中小企業小口融資資金等により創業に係る資金を支援した。(52 件) ・ 日本政策金融公庫と連携し、市立図書館で「起業・事業融資相談会」を開催した。(12 回) ・ チャレンジショップ事業を実施し、新規創業者を育成支援し、創業の促進を図った。 | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>鳥取県西部 9 市町村で策定した創業支援事業計画に基づき、新規創業に必要な資金に対する支援や若年層へのビジネスマインドの醸成、創業に関する知識習得や意識向上につながる施策について、これまでの取組の充実を図る。</p> <p>特に総合相談の充実を図るため、商工団体や金融機関等で連携方法等を協議し、各団体で実施している創業に関する取組みをわかりやすくまとめる等、創業者が相談しやすい体制づくりを行う。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|--------------|--------------|--------------|------------|
| 1 活力を生み出す商工業の振興 | | ③工業の振興 | | 担当課 | 経済部 商工課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 工場等の新增設 件数 | 18件 | 22件 | 23件 | 33件 | C |
| 指標の説明 | <p>本市が取組をはじめた平成11年度以降の工場等の新增設の総数です。</p> <p>地元企業の工場などの新增設に伴う設備投資や新規雇用への支援を行うことにより、毎年3件ずつの新增設を図り、33件にすることを目標とします。</p> <p>※基準値は、平成11年度～平成27年度の累計値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子市企業立地促進補助金により1件の増設があり、それに伴って最低3人の新規雇用が見込まれる。</p> <p>〈工場新增設の推移について〉</p> <p>H26年度：1件 H27年度：1件 H28年度：4件 H29年度：1件</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>工場等の新增設についての相談や情報があれば、直接その企業へ補助制度の活用についての説明を行うとともに、必要に応じて、関係機関との調整など側面的支援を行って、新增設を支援していく。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------|--------------|--------------------|--------------|
| 1 活力を生み出す商工業の振興 | | ③工業の振興 | | 担当課 | 経済部 商工課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| ビジネスマッチング商談会エントリー企業数 | 95 企業 | 117 企業 | 143 企業 | 120 企業 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>中海・宍道湖・大山圏域市長会の中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業として実施するビジネスマッチング商談会にエントリーした本市の企業数です。過去3年間（平成24年度～平成26年度）の平均値から30%引き上げ、120件にすることを目標とします。</p> <p>※基準値は、過去3年間（平成24年度～平成26年度）の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子商工会議所と連携し、HP、パンフレット等を活用し、市内企業へ参加を呼びかけた結果、H29年度143企業のエントリーとなった。</p> <p>〈エントリー企業の推移について〉</p> <p>H26年度：93企業 H27年度：94企業 H28年度：117企業 H29年度：143企業</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業実行委員会で決定するエントリー受け付け開始（6月下旬）から米子商工会議所と連携して、HP、パンフレット等を活用し、市内企業へ参加を呼びかける。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）
- C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上 | | ② 観光客の誘致 | | 担当課 | 経済部 観光課 |
|--|--|------------------|------------------|------------------|--------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | 実 績 値 (H28 年) | 実 績 値 (H29 年) | 目 標 値 (H32 年) | 目 標 達 成 度 |
| 米子・皆生温泉 周辺の観光客入 込み客数 ※年 間の数値 (1月～12月) | (H22年～H26 年平均値) 158.7万人 | 123万人 | 109.5万人 | 178万人 | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>広域観光の推進や皆生温泉の観光的魅力の情報発信などを行うことにより、観光客入込み客数を過去5年間（平成22年～平成26年）の最高値と同レベルまで引き上げることを目標とします。</p> <p>※基準値は、過去5年間（平成22年～平成26年）の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子市観光協会、皆生温泉旅館組合、とっとりコンベンションビューロー等と連携し、観光資源の整備と活用、コンベンションの誘致と利用促進を図った。</p> <p>皆生温泉の活性化策として、米子市、鳥取県、皆生温泉旅館組合で共同実施している「皆生温泉にぎわい創出事業」による温泉地の魅力向上、滞在促進、情報発信等の事業に取り組みながら、宿泊者の増加を目指した。また、地方創生拠点整備交付金を活用して、米子市観光センターの改修工事を行い、観光客等の滞留拠点としての利便性及び機能強化を図った。</p> <p>中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構（平成29年7月設立）や山陰インバウンド機構などと広域観光連携を取りながらPR活動、情報発信などにより誘客促進を図った。</p> <p>地域振興の推進として、がいな祭、トライアスロン、皆生・大山シートゥーサミットを支援したほか、米子映画事変などのイベントやポップカルチャー関連イベントを集約したヨナゴワンダーを市民と協働により開催した。</p> <p>「地域おこし協力隊活用事業」として、ポップカルチャー・SNSを活用した独自のインターネットによる情報発信を進めた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、皆生温泉の活性化策として、米子市、鳥取県、皆生温泉旅館組合で共同実施している「皆生温泉にぎわい創出事業」による温泉地の魅力向上、滞在促進、情報発信等の事業に取り組みながら、宿泊者の増加を目指す。</p> <p>中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構等との連携を強化し、山陰観光の宿泊拠点都市として、滞在型観光の推進を図る。エコ・スポーツツーリズムを推進する</p> | | | | | |

とともに、米子ソウル便、香港便、DBSクルーズ、大型クルーズ客船利用客を中心に、訪日外国人の誘客に努める。

平成30年度の伯耆の国「大山開山1300年祭」、山陰デスティネーションキャンペーン等により、国内外に圏域の魅力を発信するとともに、これらを契機として、鳥取県西部圏域における観光連携組織設立を目指した取り組みを進め、広域観光の推進を図る。

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上 | | ② 観光客の誘致 | | 担当課 | 経済部 観光課 |
|---|--|-----------------|-----------------|-----------------|--------------|
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | 実績値 (H28年) | 実績値 (H29年) | 目標値 (H32年) | 目 標 達 成 度 |
| 皆生温泉の外国人宿泊客数 <u>※年間の数値</u> (1月～12月) | (H22年～H26年平均値) 10,628人 | H28年 18,068人 | H29年 26,746人 | H32年 18,800人 | A |
| 指 標 の 説 明 | 誘致活動を促進することにより、皆生温泉旅館組合に加盟する旅館・ホテルに宿泊する外国人宿泊客数を毎年10%ずつ増やし、18,800人にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| <p>平成29年7月に設立された中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構（11月に日本版DMO候補法人登録）や山陰インバウンド機構などと広域連携や交流を取りながらPR活動、情報発信などにより誘客促進を図った。</p> <p>米子市観光センターの改修工事を行い、外国人観光客にも利用しやすいよう洋式トイレに改修する等、観光客等の滞留拠点としての利便性及び機能強化を図った。</p> <p>中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構において、圏域の観光を紹介する英文ホームページ「A TRIP TO THE HEART OF THE SAN' IN REGION」を公開した。</p> | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| <p>外国人誘客対策事業を実施している中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構などと広域連携を推進し、海外での認知度向上を図り、皆生温泉の魅力発信や観光関連施設の受入態勢の整備など、インバウンド集客につながる誘客活動を促進する。</p> <p>また、観光案内所での外国人対応、観光案内標識やパンフレットの整備など、受入環境の整備及び充実を図る。</p> <p>※今後、平成32年の目標値については、状況を見ながら上方修正を検討する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上 | | ③ 皆生温泉の魅力づくり | | 担当課 | 経済部 観光課 |
|---|--|------------------|------------------|------------------|------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | 実 績 値 (H28 年) | 実 績 値 (H29 年) | 目 標 値 (H32 年) | 目 標 達 成 度 |
| 皆生温泉宿泊者数（入湯税対象者数） ※年間の数値 | (H22年～H26年平均値) 44.0万人 | H28年 41.7万人 | H29年 38.8万人 | H32年 47.5万人 | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>皆生温泉の宿泊者数は平成9年をピークに減少し続けており、平成14年から50万人を下回る状態が続いていることから、観光客の誘致を促進する取組を行うことによって、過去5年間（平成22年～平成26年）の最高値と同レベルまで引き上げることを目標とします。</p> <p>※基準値は、過去5年間（平成22年～平成26年）の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>皆生温泉にぎわい創出事業において、重点的に皆生温泉の宣伝PR、イベントを開催するとともに、ホームページによる情報発信を推進し、皆生温泉旅館組合と一緒に活性化に取り組んできた。</p> <p>米子市観光センターを観光客等の滞留拠点とし、皆生温泉のにぎわいを創出するため、地方創生拠点整備交付金を活用して、観光センターの改修工事を行い、1階展示スペース模様替え、エレベーター設置、トイレ洋式化等の利便性及び機能強化を図った。（工期：平成29年9月～平成30年3月末）</p> <p>また、観光センター内にエコ・スポーツツーリズムを推進するためのツアーデスク機能をもった「皆生ツアーステーション」を設置し、ホームページ開設等による情報発信や皆生温泉の誘客につながるツアー情報の調査等を実施した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>米子市観光センターを観光客の滞留拠点とする街づくりを進め、「皆生温泉にぎわい創出事業」を皆生温泉旅館組合と一緒に実施することで、引き続き皆生温泉の活性化に向けて取り組む。また、皆生温泉の若手旅館経営者等で構成する皆生温泉まちづくり会議を定期的を開催し、皆生温泉のまちづくりの基本構想を作成する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|---|--|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上 | | ④ 淀江地区の魅力づくり | | 担当課 | 総合政策部 淀江振興課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 淀江地区の観光施設、歴史文化施設の年間入込み客数 | 30.6万人 | 27.5万人 | 29.2万人 | 40万人 | D |
| 指 標 の 説 明 | 淀江地区の観光施設、歴史文化施設の連携を進め、淀江ゆめ温泉、伯耆古代の丘公園、上淀白鳳の丘展示館、どんぐり村、妻木晩田史跡公園への延べ入込み客数を、ピーク時（平成21年度）の40万人まで引き上げることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| <p>観光施設、文化施設、関係団体等と連携し実行委員会を組織し、イベント等を実施した。また、SNS等を利用し淀江の魅力を発信するなど誘客の増加に引き続き取り組んだ。</p> <p>伯耆古代の丘公園では園内の桜や蓮にスポットを当てたイベントを開催するなど、既存の資源を活用することで入園者数の増加につながるなど一定の成果がみられたが、周辺に類似施設等ができてきていることもあり、目標値を達成するまでには至らなかった。</p> | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| <p>観光施設と文化施設そして関係団体が一体となって、相互に協力し、補完したイベント等を開催するなど淀江地区の魅力をさらに拡充し、併せて新たな観光ルートの開拓や、インターネット（SNS）等を活用した淀江の魅力発信を行うことで誘客活動を展開する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------|--------------|--------------|------------|
| 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上 | | ⑤コンベンションの誘致 | | 担当課 | 経済部 観光課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| コンベンション 誘致件数 | 93件 | 131件 | 117件 | 131件 | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>各種コンベンションの開催により、大きな経済波及効果が期待できることから、誘致活動の支援などを図り、米子コンベンションセンター（ビッグシップ）で開催されるコンベンションの誘致件数を、過去5年間（平成22年度～平成26年度）の最高値と同レベルまで引き上げることを目標とします。</p> <p>※基準値は、過去5年間（平成22年度～平成26年度）の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>本市へのコンベンション誘致を促進するため、誘致活動や広報宣伝を行っているコンベンションビューローの運営を支援した。</p> <p>また、誘致にかかる意見交換のため「コンベンション誘致会議」に参加したほか、誘致団体が開催地を検討する際や開催時に活用される飲食店マップの作成、配布及び観光パンフレットの提供を行うことにより開催支援、誘致活動支援を行った。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>全国大会や大規模な大会の開催を誘致するために情報収集や誘致活動が重要であるため、引き続き公益財団法人とっとりコンベンションビューローへの支援を積極的に行う。</p> <p>また、米子国際会議場の管理、コンベンションセンター用の無料駐車場としての米子駅前簡易駐車場の適切な管理運営及び観光パンフレットの提供等による利用促進を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 2 圏域観光の宿泊拠点としての魅力の向上 | | ⑤コンベンションの誘致 | | 担当課 | 経済部 観光課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| コンベンション 参加者数 | 27,132人 | 31,124人 | 20,599人 | 35,000人 | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>コンベンションの参加者数の増加は観光産業や地域経済の活性化につながると考えられていることから、過去5年間（平成22年度～平成26年度）の最高値と同レベルまで引き上げることが目標とします。</p> <p>※基準値は、過去5年間（平成22年度～平成26年度）の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>本市へのコンベンション誘致を促進するため、誘致活動や広報宣伝を行っているコンベンションビューローの運営を支援した。</p> <p>また、誘致にかかる意見交換のため「コンベンション誘致会議」に参加したほか、誘致団体が開催地を検討する際や開催時に活用される飲食店マップの作成、配布及び観光パンフレットの提供を行うことにより開催支援、誘致活動支援を行った。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>全国大会や大規模な大会の開催を誘致するために情報収集や誘致活動が重要であるため、引き続き公益財団法人とっとりコンベンションビューローへの支援を積極的に行う。</p> <p>また、米子国際会議場の管理、コンベンションセンター用の無料駐車場としての米子駅前簡易駐車場の適切な管理運営及び観光パンフレットの提供等による利用促進を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------------|----------------|----------------|--------------|
| 3地域を支える農業・漁業の振興 | | ①次世代につなぐ持続可能な農業の推進 | | 担当課 | 経済部 農林課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 多様な担い手の数 | 129 経営体 | 127 経営体 | 131 経営体 | 179 経営体 | C |
| 指 標 の 説 明 | 農業を持続的に発展させ、次世代につないでいくためには、多様な担い手（認定農業者・認定新規就農者・農業生産法人・集落営農組織など）を育成・確保することが必要であることから、毎年10経営体ずつ増やし、179経営体にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成29年度は、新たな認定農業者1人、認定新規就農者3人の計4人増となったほか、個人の認定農業者が法人化したもの1件、新規就農者が認定農業者へ移行したものの1件があった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>新規の認定農業者や認定新規就農者を確保するとともに、認定新規就農者の認定農業者へのステップアップや企業の新規参入を支援することとしている。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A=目標値を達成している

B=概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C=進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D=基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|--------------------|-----------------|--------------------|--------------|
| 3 地域を支える農業の推進 | | ①次世代につなぐ持続可能な農業の推進 | | 担当課 | 経済部 農林課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 農地の流動化面積 | 543ha | 706ha | 713ha | 793ha | C |
| 指 標 の 説 明 | 担い手農家への農地集積・集約化による生産性向上や農地の有効利用を図るため、農地中間管理事業および利用権設定等促進事業により、農地の流動化面積を毎年 50ha 増やし、793ha にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>企業の CSR（社会貢献）活動を活用し、荒廃農地の解消を行い、担い手農家への農地集積にも取り組んだ。</p> <p>また、新たな農作物として期待される、芝の生産に取り組む法人への農地集積にも取り組んだ。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き農地中間管理事業による農地集積を推進するため、農地所有者への事業周知や新規就農者や新たな法人の農業分野への進出などを支援するとともに、農地中間管理事業の活用による農地の基盤整備事業にも取り組み、農地の集積を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------------|--------------|--------------|------------|
| 3 地域を支える農業・漁業の振興 | | ①次世代につなぐ持続可能な農業の推進 | | 担当課 | 経済部 農林課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 荒廃農地の面積 | 160ha | 144ha | 129ha | 60ha | C |
| 指標の説明 | 農地の保全と有効利用を図るため荒廃農地の削減に努め、毎年20haずつ解消し、60haにすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>農地中間管理事業を主体とした担い手への農地集積による農地の荒廃化抑制や解消に取り組んだほか、企業のCSR（社会貢献）活動を活用した荒廃農地解消にも取り組んだ。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>農地の荒廃化の抑制や解消を推進するため、さらなる農地集積のための、新規就農者や新たな法人の農業分野への進出などを支援するとともに、農地の基盤整備事業にも取り組み、荒廃農地の解消を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 3 地域を支える農業・漁業の振興 | | ③海面漁業の振興 | | 担当課 | 経済部 水産振興室 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 年間漁業販売金額 | 2.6億円 | 2.9億円 | 2.99億円 | 2.9億円 | A |
| 指標の説明 | 鳥取県西部の漁協や行政機関で構成する「鳥取県西部地域水産業再生委員会」が、平成26年度に策定した「浜の活力再生プラン」の目標に従い、米子市漁協と鳥取県漁協淀江支所の年間漁業販売金額を10%引き上げ、2.9億円にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 稚魚稚貝等放流事業（868千円） 水産資源を育成するための稚魚稚貝等の人口種苗放流事業への助成を行った。 ・ 米子市漁業協同組合運営事業費（7,200千円） 米子市漁協の運営及び所有施設の維持管理並びに実施する放流事業への助成を行った。 ・ 水産多面的機能発揮対策事業（61千円） 漁業者が行う多面的機能の効果的・効率的な発揮に資する地域の取組への助成を行った。 ・ 漁港管理事務費（14,811千円） 米子市が管理する皆生漁港及び崎津漁港の維持管理を行った。 ・ 航路浚渫事業（9,396千円） 漁船航行の安全性の確保及び出漁日数の増加を図るための漁港内の浚渫を行った。 ・ 水産物供給基盤機能保全事業（崎津漁港8,851千円） 米子市が管理する漁港施設の老朽化状況を調べる機能診断を実施。皆生漁港は30年度へ繰越。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁港が実施する人口種苗の放流に係る経費を助成し、資源量・漁獲量の増大を図り、漁業振興を推進する。 ・ 漁港航路に堆積した漂砂を浚渫し、漁船航行の安全性を確保する。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|--------------|
| 3 地域を支える農業・漁業の振興 | | ③海面漁業の振興 | | 担当課 | 経済部 水産振興室 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 新規漁業就業者 の育成件数 | 0 人 | 1 人 | 2 人 (1 人) | 5 人 | C |
| 指 標 の 説 明 | 市内の漁協が実施する担い手研修（3年間）を修了し、高齢化した漁業従事者に代わる担い手として新規就業する漁業者を、計画期間内に5人育成することを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| <p>・ 漁業就業者確保育成事業（902,010円）</p> <p>新規漁業就業希望者に漁業技術等の研修を行う漁業協同組合等への研修費の助成を行う。</p> <p>漁業への新規参入者を確保し、沿岸漁業の健全な発展と漁業生産力の増大を図った。</p> | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 市のホームページにおいても、新たに漁業を始めようと考えている方への問合せ先等を広報していく。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|---|--|---------------|---------------|--------------------|--------------|
| 3 地域を支える農業・漁業の振興 | | ④内水面漁業の振興 | | 担当課 | 経済部 水産振興室 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28 年度 実績値 | H29 年度 実績値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 人工生産する稚鮎数 | 310 万尾 | 297 万尾 | 325 万尾 | 320 万尾 | A |
| 指 標 の 説 明 | 健康的な稚魚の安定的な生産技術の確立を図る必要があることから、人工生産する稚鮎数を 10 万尾増やし、320 万尾にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 淡水魚育成施設改修事業（1,731 千円） 育成池水槽内部を塗装することで、傷がつかない健康な稚鮎の育成と生産性を高めた。 ・ 淡水魚育成放流事業（3,000 千円） 個体数の増加を図るため、淡水魚稚魚の放流事業に助成を行うことで個体数の増加が図られた。 ・ 淡水魚試験研究育成事業（7,600 千円） 鮎や鮭等の種苗の生産費や漁場管理に係る経費の一部を助成した。 ・ 淡水魚育成施設ポンプ設備改修事業 取水棟揚水ポンプ 2 台及び操作盤の更新（設計委託料 1,228 千円） | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 稚魚の安定的な生産に寄与するため、淡水魚試験研究育成施設を適正に管理する。 ・ 漁協が実施する放流等の種苗生産、増殖及び試験研究に係る経費に対して助成する。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 4 中心市街地の活性化 | | ①中心市街地活性化の推進 | | 担当課 | 総合政策部 都市創造課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 歩行者等通行量 (自転車を含む) | 12,945人 | 11,645人 | 9,773人 | 13,200人 | D |
| 指 標 の 説 明 | 中心市街地（調査地点12箇所）の平日・休日（各1回）の2日間に通行した歩行者（自転車を含む）の合計人数です。にぎわいのある中心市街地の形成を図ることによって、歩行者などの通行量を255人増やし、13,200人にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>角盤町エリアでの事業全体の再構築のため、米子市中心市街地活性化協議会に設置された「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」で検討を重ね、平成30年3月「やよいデパート」跡地が「ひまわり駐車場」として供用開始された。また、米子駅周辺エリアでは「道笑町2丁目ゲストハウス」など空き家活用も徐々に増えていることから、今後、両エリアを中心とした賑わいの再生と歩行者等通行量の増加が期待できる。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>角盤町エリアが、「やよいデパート」の撤退以降大きく減少している中で、角盤町エリアを除いたエリアの合計値は過去9年間（平成21年度～29年度）ほぼ同程度を維持している。</p> <p>「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」で事業を検討し、実現可能なものから実施することで当該エリアの賑わいの創出を図るとともに、その効果を他のエリアに波及させる。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）
- C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| 4 中心市街地の活性化 | | ① 中心市街地活性化の推進 | | 担当課 | 総合政策部 都市創造課 |
|---|---|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 駐車場の年間 利用台数(時間 貸しのみ) | 1,498,308 台 | 1,475,194 台 | 1,421,417 台 | 1,515,000 台 | D |
| 指 標 の 説 明 | 中心市街地の有料駐車場(9箇所)の年間利用台数です。人が集い、にぎわいのある中心市街地の形成を図ることによって、駐車場の利用台数を16,692台増やし、1,515,000台にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| 角盤町エリアでの事業全体の再構築のため、米子市中心市街地活性化協議会に設置された「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」で検討を重ね、「やよいデパート」跡地が「ひまわり駐車場」として供用開始された。また、米子駅周辺エリアでは「道笑町2丁目ゲストハウス」など空き家活用も徐々に増えていることから、今後、両エリアを中心とした賑わいの再生と駐車場利用台数の増加が期待できる。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 米子駅周辺の駐車場利用台数は好調に推移している。 角盤町エリアの駐車場利用台数は、「やよいデパート」撤退の影響もあって下降気味であったが、今後、「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」で事業を検討し実現可能なものから実施することで、賑わい創出による駐車場利用台数の回復を図るとともに、その効果を他のエリアに波及させる。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※ 目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| 4 中心市街地の活性化 | | ① 中心市街地活性化の推進 | | 担当課 | 総合政策部 都市創造課 |
|---|--|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 文化施設の年間利用者数 | 1,138,317 人 | 1,130,249 人 | 1,111,950 人 | 1,140,000 人 | D |
| 指 標 の 説 明 | 文化ホール、公会堂、コンベンションセンター、山陰歴史館、美術館、図書館、児童文化センターの利用者数です。歴史や文化に触れることができ、魅力をもった中心市街地の形成を図ることによって、文化施設の年間利用者数を1,683人増やし、1,140,000人にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| 米子市立図書館では平成29年10月より公式SNSを開設し、幅広い年齢層の利用者拡大に努め、徐々に効果が現れ始めている。また公会堂では、周辺商店街と連携した「山陰いいものマルシェ」など各種イベントを開催し、利用促進を図った。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 引き続き、米子市立図書館の運営、公会堂利用促進事業に官民連携して取り組む。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|---------------|--------------|--------------|----------------|
| 4 中心市街地活性化の推進 | | ① 中心市街地活性化の推進 | | 担当課 | 総合政策部 都市創造課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 下町観光ガイド の年間利用者数 | 956人 | 1,210人 | 1,157人 | 1,380人 | C |
| 指 標 の 説 明 | 中心市街地を訪れる観光客を案内する「下町観光ガイド」の年間利用者数です。歴史や文化に触れることができ、魅力をもった中心市街地の形成を図ることによって、下町観光ガイドの利用者数を424人増やし、1,380人にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| 米子市観光協会とタイアップした「まちなかを巡るモニターツアー」の開催や「ブロガーを活用した情報発信」等、官民連携による取り組みを行ったが、団体客の減少により利用者数は微減となった。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 平成30年4月より、実施主体が米子市観光協会から米子観光まちづくり公社に変更となり、歴史体験コースの新設などメニューのスケールアップが図られることとなった。これに加え、引き続き、同公社とタイアップした「まちなかを巡るモニターツアー」の開催や「ブロガーを活用した情報発信」、コンベンション開催時におけるPRを図ることにより、利用者の増加を図ります。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|---------------|--------------|--------------|----------------|
| 4 中心市街地の活性化 | | ① 中心市街地活性化の推進 | | 担当課 | 総合政策部 都市創造課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 中心市街地の人口の社会増減 | -5人 | 2人 | -5人 | 1人以上 | C |
| 指標の説明 | <p>中心市街地の各年3月末時点の人口の社会増減数です。住む場所としての魅力が感じられる中心市街地の形成を図ることによって、中心市街地の人口の社会増減を-5人（平成22年～平成27年の平均）から、1人以上（平成28年～平成33年の平均）にすることを目標とします。</p> <p>※H29実績値はH28～H29平均値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>移住定住推進事業（お試し住宅）、交通バリアフリー推進事業、だんだんバス運行事業、民間共同住宅建設事業、まちなか空き家活用プロジェクト、空き家見守りサービス事業等、官民が連携して取り組んだ。</p> <p>民間共同住宅については、1棟（3戸）建設された。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>今後も中心市街地の高い機能性や利便性について情報発信し、民間共同住宅の建設を促すとともに、雇用の場の確保、生活の利便性や暮らしの快適性、まちの機能性の向上に努め、中心市街地への転入を促し、転出を抑制する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）
- C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|---|--|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 5 時代をひらく新たな産業の育成 | | ①産学金官連携の推進 | | 担当課 | 経済部 経済戦略課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 地元企業の産学金官連携事業の数 | 28件 | 30件 | 33件 | 38件 | C |
| 指標の説明 | <p>本市が取組をはじめた平成14年度以降の連携事業の総数です。</p> <p>公益財団法人鳥取県産業振興機構などと連携して取り組んでいる地元企業の産学金官連携事業の新規連携事業を毎年2件ずつ増やし、38件にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>鳥取県、鳥取県産業振興機構、鳥取県産業技術センター、鳥取大学、米子高専等と連携し、新産業創出や市内産業の高付加価値化を目指すとともに、鳥取大学地域連携関係機関西部連絡会等に参加し、情報交換や意見交換を深めることにより、地元企業の産学金官連携事業の推進を図った。</p> <p>また、産学官しごとの種（シーズ）づくり支援事業により、米子市内企業と県内の高等学術機関や公設研究機関とが連携して行う事業に対して支援を行った。</p> <p>産学官しごとの種（シーズ）づくり件数 3件</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き鳥取大学地域連携関係機関西部連絡会等に参加し、情報交換・意見交換を行うと共に、鳥取県産業振興機構配置専任職員を中心に地元企業や関係機関との連携を密にし、産学金官連携による新規事業の創出を図る。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|----------------|--------------|--------------|------------|
| 5 時代をひらく新たな産業の育成 | | ②新たな産業・成長産業の創出 | | 担当課 | 経済部 農林課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 新規農商工連携・6次産業化取組件数 | 9件 | 12件 | 14件 | 19件 | C |
| 指標の説明 | <p>本市が取組をはじめた平成23年度以降の取組総数です。</p> <p>農林水産業就業者自らが加工・製造・流通・販売まで主体的に取り組む6次産業化や農林水産業と商業・工業が連携して商品開発などに取り組む農商工連携による新たな事業への取組件数（補助制度を活用するもの）を毎年2件程度増やし、19件にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>新規取組事業者に対し、6次産業化（農商工連携）推進プラン作成のサポートを行った。また、審査会で認定されたプランの実施事業者に対する事業計画の実現を支援するための6次産業化総合支援事業費補助金を交付し、農商工連携・6次産業化の推進を図った。</p> <p>さらに、6次産業化・農商工連携販路開拓支援事業補助金を交付し、6次化製品の大きな課題の1つであった販路開拓について支援を行った。</p> <p>○6次産業化総合支援事業費補助金交付件数：新規2件、継続1件</p> <p>○6次産業化・農商工連携販路開拓支援事業費補助金交付件数：2件</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>今後も継続して6次産業化又は農商工連携による取組を考えている事業者等を発掘していくと共に、6次産業化総合支援事業、6次産業化・農商工連携販路開拓支援事業の実施により支援を行う。</p> <p>また、新規取組みの推進にあたり、鳥取県、鳥取県産業振興機構、市内農林水産業者団体等のみならず、中国経済産業局、中四国農林局等と広く連携し、地域資源を活かした産業の創出を目指す。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|---|--|-----------------|-----------------|--------------------|--------------|
| 6 企業立地の促進 | | ① 企業誘致の促進 | | 担当課 | 経済部 経済戦略課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達成度 |
| 誘致企業数 | 29 件 | 29 社 | 31 社 | 39 社 | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>本市が取組をはじめた平成元年以降の誘致企業の総数です。 地域経済の活性化や地域外への人口流出を抑制するなどの波及効果が期待できることから、毎年2社を誘致し、39社にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>鳥取県と連携し、鳥取県西部地域振興協議会、市関西事務所等も活用しながら、進出可能性のある企業への誘致活動を行った。本年度において進出企業数は2社であり、単年の目標値は達成したが、最終目標に迫れるよう、引き続き取り組みに努めていく。</p> <p>(成果)</p> <p>平成29年度進出企業 . . . 2社</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>若年人口の流出抑制や、長期的な地域経済への波及効果が期待できる企業について、年間2社の誘致を目標として、積極的な誘致活動を実施する。また、併せて受け皿となり得る工業用地の確保に努める。</p> <p>(事業計画等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業訪問の実施 ・ 鳥取県西部地域振興協議会、市関西事務所及びふるさと経済活性化委員会の活用による情報収集及びPR。 ・ 企業立地促進補助金等の優遇助成制度の積極的な活用 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|---------------|---------------|--------------------|----------------|
| 7 雇用環境の整備 | | ①雇用の安定と創出 | | 担当課 | 経済部 経済戦略課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28 年度 実績値 | H29 年度 実績値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 度 達 成 度 |
| (参考) とっとり就職フ ェア米子会場参 加数 | - | 263 人 | 219 人 | - | - |
| 指 標 の 説 明 | (参考) ふるさと鳥取県定住機構、鳥取労働局および鳥取県が主催する とっとり就職フェアの米子会場での参加者数です。 | | | | |
| 【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 平成 29 年度より合同就職ガイダンスは実施せず。 参考としてとっとり就職フェア米子会場での参加者数を計上。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 中海圏域就業支援連携事業で主催するガイダンスは開催しないことが決定した ため、目標値の設定は不可能である。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| 8 新たなにぎわいの創出と地域情報の発信 | | ① 移住定住の促進 | | 担当課 | 総合政策部 総合政策課 |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 県外からの移住者数 | - | 505 人 | 1,038 人 | 1,500 人 | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>県外から本市へ移住定住された人数です。</p> <p>移住定住につながる取組の充実を図ることによって、県外からの移住者を毎年 300 人ずつ、5 年間で 1,500 人増やすことを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>1 移住定住相談窓口に移住定住相談員を配置し、I J U ターン希望者の相談に対し、就職、子育て、医療、高齢者サービス、住宅の紹介等をワンストップサービスで行った。また、東京及び大阪で開催された移住定住相談会に参加し、I J U ターン希望者の相談業務を行った。</p> <p>(1) 移住相談件数：317 件</p> <p>(2) 移住者数：533 人</p> <p>2 移住希望者等が米子市での生活を体験するための 3 軒のお試し住宅の運営を行った。</p> <p>お試し住宅利用状況 利用者数 52 人 稼働率 54.9%</p> <p>3 市ホームページでの移住支援施策等の紹介や、移住定住ガイドブック「ほわつとよなご」改訂版の配布等を通して、米子市の魅力を発信した。</p> <p>4 移住定住の促進に一層取り組むため、「移住希望者に対する住宅情報の提供（空き家情報バンク）」、「県外からの移住者が、空き家情報バンクに登録された空き家に入居することになった場合の、家財道具処分経費に対する助成（空き家情報バンク登録空き家家財道具処分費補助金）」及び「県外からの移住者に対する住宅取得等経費の助成（移住定住者住宅取得支援補助金）」の施策を実施した。</p> <p>(1) 空き家情報バンクの整備：登録件数 5 件</p> <p>(2) 空き家情報バンク登録空き家家財道具処分費補助金：1 件 33 千円</p> <p>(3) 移住定住者住宅取得支援補助金：19 件 8,311 千円</p> <p>5 移住者や移住検討者等、人と人との交流を目的に交流会を開催し、伝統文化や、日野川でのマリンスポーツの体験を行った。</p> <p>交流会参加者数 12 人</p> | | | | | |

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

引き続き、以下の取組を行う、

- 1 移住定住相談窓口での移住定住相談員の配置
- 2 移住定住相談会への参加
- 3 お試し住宅の運営、利用促進
- 4 移住定住に関する情報発信の実施
- 5 移住者を支えるネットワークづくり（移住者との交流会の開催等）
- 6 とっとり暮らしアドバイザー制度を活用した移住者の受入れ・フォローアップ

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| 8 新たなにぎわいの創出と地域情報の発信 | | ① 移住定住の促進 | | 担当課 | 総合政策部 総合政策課 |
|--|--|-----------------|------------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 婚活イベントやセミナーなどの参加者数 ※ () は、米子市外からの参加者数も含めた全参加者数です。 | 69 人 (265 人) | 59 人 (199 人) | 102 人 (270 人) | 500 人 (1,500 人) | C |
| 指 標 の 説 明 | 結婚を希望する人などへ出会いの場を提供することを目的として市が主催・共催する婚活イベントやセミナーなどへの本市参加者を5年間で500人にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| <p>中海・宍道湖・大山圏域出会いの場づくり事業実行委員会において、婚活イベント「Un-Paku meeting 2017」を米子および松江の各会場で実施。計151名の参加者のうち、2組が交際中（平成29年12月時点）。</p> <p>米子市単独で「アイマスク DE 恋活」および、ワークライフバランス推進月間記念イベントとして「ライフプランセミナー」を実施。20名の参加者のうち、2組のカップルが成立。</p> | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 引き続き、出会いの場づくり事業実行委員会による婚活イベント、若年層向けの結婚等に関するセミナー・婚活イベントを実施することとしている。また、より多くのノウハウを持つ民間事業者との協力し、案内方法等を工夫することによって参加しやすいイベントになるように努める。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|-------------------|---------------|--------------------|----------------|
| 8 新たなにぎわいの創出と地域情報の発信 | | ②地域イメージアップと認知度の向上 | | 担当課 | 総合政策部 情報政策課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28 年度 実績値 | H29 年度 実績値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| ソーシャルメディア上の公式アカウント数 | 5 個 | 6 個 | 11 個 | 10 個 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>本市が取組をはじめた平成 21 年度以降の本市公式アカウントの総数です。</p> <p>ソーシャルメディア上で本市の公式アカウントを適切に運用することで、個人を巻き込んだ多面的な地域のイメージアップと認知度の向上を図ります。</p> <p>ソーシャルメディア上で常時運用している公式アカウント数を 5 個増やし、10 個にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>図書館等で新たに公式アカウントを開設し、情報発信を開始した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>当初の目標値は達成したため、今後は現在運用中のソーシャルメディアを活用し、タイムリーな情報発信を続けていく。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

1 『あした』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 9 国際交流の推進 | | ① 国際交流の推進 | | 担当課 | 総合政策部 地域振興課 |
| 指標名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 国際理解講座等 への参加者数 | 3,110人 | 3,401人 | 2,810人 | 3,610人 | D |
| 指標の説明 | 市が主催する各種の国際理解講座やイベントの内容をさらに充実させることによって、年間参加者数を500人増やし、3,610人にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成27年度から開催している「おもてなし講座」を継続して行い、外国人観光客のおもてなしを想定した会話練習やインバウンドの状況や外国人観光客対応の取組みなどの紹介を行った。</p> <p>第3回目となる「よなご国際交流フェスティバル2017」の開催に向けて実行委員会（参加団体 32団体）で取り組んだものの、開催日当日は台風の影響により中止したため、基準値を下回った。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成27年度から実施している「おもてなし講座」や「よなご国際交流フェスティバル」をはじめ、国際理解のための活動を継続するとともに、国際理解講座について小学校や公民館等に周知を図っていく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 1 安心して子どもを産み、育てられる環境づくり | | ①妊娠・出産環境の整備 | | 担当課 | 福祉保健部 健康対策課 |
|--|---|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 妊婦健診の受診率 | 94.5% | 93.3% | 98.7% | 100% | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>定期的に妊婦健診を受けることは、安心して出産するために必要なことから、全ての妊婦が健診を受けることを目標とします。 ※受診率は、初回受診券の利用率です。</p> <p>転入者の妊婦を含む 他市町村で初回妊婦健診を受診した転入者を除く受診率は98.8%（受診者数/初回受診券交付数）</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>29 年度は初回受診券交付者数 1,352 件、受診者数 1334 人（内、里帰り 5 件）であった。妊婦健診受診票は妊娠届出時に交付、受診票は 14 回分（多胎はプラス 5 回分）を交付することで、自己負担は殆どなく定期的に健診を受けられる状況であるが、流産等により、受診に至らないケースもあったと考えられる。</p> <p>里帰り出産希望者には市外で受診した健診費用の還付も行い、転入者にも受診票の差替えを行った。</p> <p>28 年度から個室で妊娠届出・母子手帳交付をすることで、表面的に表れにくい心配事などの相談を受けられる環境を整えた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き妊婦健診受診票を交付し、当事者の負担が少なく定期的に健診を受けられるようにする。また、個室で母子手帳交付をすることで、心配事などを相談できる環境を整え、安心して出産できるようサポートする。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80% 以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80% 未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 1 安心して子ども産み、育てられる環境づくり | | ②乳幼児保健・育児支援施策の充実 | | 担当課 | 福祉保健部 健康対策課 |
|---|---|------------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 1 歳 6 か月健康 診査の受診率 | 98.1% | 99.2% | 99.0% | 100% | C |
| 指 標 の 説 明 | 定期的に健康診査を受けることは、乳幼児の健康的な発育と発達だけでなく、育児不安の解消など総合的な母子保健施策につながることから、全ての対象児が受診することを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>未受診者への対応についてはできる限りタイムリーに、どの担当者が行っても確実に受診勧奨や実態把握を行うためにスケジュールを設定し、マニュアル化。フロー図に沿って対応している。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>健診当月から2か月経過しても健診未受診または保護者からアンケートの返送や電話連絡等がなかった者に対しては、地区担当が当月から3か月目までに電話、その後も把握できなければ4か月目までに訪問を行うなど、確実に未受診者の実態をとらえるための具体的なルールを定め、実践する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|------------------|----------------|----------------|----------------|
| 1 安心して子どもを産み、育てられる環境づくり | | ②乳幼児保健・育児支援施策の充実 | | 担当課 | 福祉保健部 健康対策課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 乳児家庭全戸訪問事業の実施率 | 96.5% | 97.3% | 97.7% | 100% | C |
| 指 標 の 説 明 | 生後4か月以内に助産師・保健師などが訪問し、発育状況などの確認や育児相談などを行うことが大切であることから、全ての対象家庭を訪問することを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| 母子保健推進員（助産師、保健師）14名と、市保健師で訪問を行っている。平成29年度生まれの赤ちゃん訪問対象者1253人に対して訪問を実施したのは1224人で、97.7%の実施率であった。対象者から赤ちゃん健康カードが提出されると、速やかに担当者へ配布しケースに応じて対応するようにしている。未訪問者については、各担当保健師が状況を把握するようにしている。未訪問者29名の内訳は、転出7名、拒否4名、入院中3名、就労1名、乳児院入所5名、連絡つかず3名、その他6名（長期里帰り・海外滞在など）であった。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 出産後間もない対象者の育児不安等の把握を早期に行い、希望に応じて訪問を速やかに行う。未訪問者については各地区担当保健師による迅速な電話、訪問につとめ、発育状況などの確認や育児相談などを行う。 | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 1 安心して子どもを産み、育てられる環境づくり | | ③子育て支援施策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 子育て支援課 |
|--|---|-----------------|-----------------|--------------------|-----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 認定こども園・保育所などの受入れ人数 | 2,017 人 | 2,168 人 | 2,210 人 | 2,233 人 | B |
| 指 標 の 説 明 | <p>米子市子ども・子育て支援事業計画に基づき、教育・保育施設および地域型保育事業（家庭的保育事業）において、3号認定（子どもが満3歳未満で保育を希望する場合）の子どもの受入れ人数を216人増やし、2,233人にすることを目標とします。</p> <p>※目標値は実情に応じて、見直しを行います。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子市子ども・子育て支援事業計画に基づき、小規模保育事業所の整備を支援し、受け皿の拡大を図った。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、米子市子ども・子育て支援事業計画に基づき、待機児童解消のため受け皿の確保に努める。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 1 安心して子どもを産み、育てられる環境づくり | | ③子育て支援施策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 子育て支援課 |
|---|---|-----------------|-----------------|--------------------|-----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 放課後児童クラブの受入れ人数 | 1,430 人 | 1,577 人 | 1,696 人 | 2,260 人 | C |
| 指 標 の 説 明 | 米子市子ども・子育て支援事業計画に基づき、放課後児童クラブの子どもの受入れ人数を 830 人増やし、2,260 人にすることを目標とします。 ※目標値は実情に応じて、見直しを行います。 | | | | |
| 【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 米子市子ども・子育て支援事業計画に基づき、放課後児童健全育成事業の実施施設の整備や運営を支援し、受け皿の拡大を図った。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 引き続き、米子市子ども・子育て支援事業計画に基づき、待機児童解消のため受け皿の確保に努める。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 2 市民一人ひとりの健康づくり | | ①生活習慣病予防対策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 健康対策課 |
|---|--|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 妊娠届時の妊婦の喫煙割合 | 2.5% | 2.6% | 2.3% | 0% | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>たばこによる健康被害は、がん、循環器疾患、呼吸器疾患、歯周病疾患、流産、乳幼児突然死症候群などさまざまな分野に及びます。禁煙の大きな動機になる妊娠時の妊婦および同居人に対する禁煙支援を充実させることで、将来にわたる生活習慣の改善を図ることが可能になるため、市へ妊娠の届出をされる妊婦の喫煙者の割合を0%、同居人の喫煙者の割合を20%まで減少させることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>母子手帳交付時に全妊婦に対して、タバコの害や禁煙治療ができる医療機関について情報提供を行った。</p> <p>また、一般市民を対象に毎年「世界禁煙デー」に併せて禁煙啓発イベントが開催され、禁煙相談・指導を行った。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、母子手帳交付時に全妊婦に対して、禁煙に向けた情報提供をする。また妊婦本人だけでなく、同居者の喫煙習慣についても禁煙に向けて働きかける。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 2 市民一人ひとりの健康づくり | | ①生活習慣病予防対策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 健康対策課 |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 妊娠届時の妊婦の同居人の喫煙割合 | 36.7% | 37.8% | 41.7% | 20% | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>たばこによる健康被害は、がん、循環器疾患、呼吸器疾患、歯周病疾患、流産、乳幼児突然死症候群などさまざまな分野に及びます。禁煙の大きな動機になる妊娠時の妊婦および同居人に対する禁煙支援を充実させることで、将来にわたる生活習慣の改善を図ることが可能になるため、市へ妊娠の届出をされる妊婦の喫煙者の割合を0%、同居人の喫煙者の割合を20%まで減少させることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>母子手帳交付時に全妊婦に対して、タバコの害や禁煙治療ができる医療機関について情報提供を行った。</p> <p>また、一般市民を対象に毎年「世界禁煙デー」に併せて禁煙啓発イベントが開催され、禁煙相談・指導を行った。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き母子手帳交付時に、妊婦と同伴家族に対してタバコの害や禁煙治療ができる医療機関について情報提供する。</p> <p>啓発イベントを通じて子どもから大人まで、多くの人に禁煙に関心をもってもらう。</p> <p>また、新たにがん検診受診者に対し、タバコの害について情報提供チラシを配布し禁煙への啓発を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|----------------|----------------|----------------|--------------|
| 2 市民一人ひとりの健康づくり | | ①生活習慣病予防対策の推進 | | 担当課 | 市民生活部 保険課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 特定健康診査の 受診率 | 29.9% | 28.8% | 30.9 | 60% | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>日々の生活習慣を改善することが、健康の維持・増進や病気予防、また重症化を防ぐことにつながるため、メタボリックシンドロームに着目し、保健指導を必要とする方を的確に抽出し、生活改善につながる特定健康診査の受診率を60%まで引き上げることがを目標とする。(目標値である受診率60%は国の示した第3期特定健康診査等実施計画期間における数値)</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>6月末の健診受診券の一齐発送後、早い時期(8月頃)に初めて対象となる年度末年齢40歳で未受診の方に受診勧奨のためのお知らせを発送し、若い時期からの健診受診の意識定着を図った。また、協会けんぽ、保険者協議会とタイアップしてパンフレット作成やメディアの活用をし、受診啓発を図った。</p> <p>市だけではなく、あらゆる方面からの啓発が功をなし受診率向上につながった。</p> <p>※特定健康診査の受診券発行対象者：40歳～74歳</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>協会けんぽや保険者協議会との連携を継続し、より充実した啓発方法で受診率アップを図る。</p> <p>受診形態が「個別」という強みを生かし、委託医療機関からも定期的通院者に対して受診勧奨の協力をいただく。早い時期の受診勧奨のため、8月に医師の講演会を実施し、意識の高揚を図る。実績値と目標値にかい離があるが、引き続き、実施率の向上に向けて取組を進めていく。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)
- C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------|--------------|--------------------|----------------|
| 2 市民一人ひとりの健康づくり | | ②がん予防対策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 健康対策課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| ① 大腸がん検診の受診率 | 28.9% | 27.3% | 27.5% | 50% | D |
| 指 標 の 説 明 | 本市における死因の第1位はがんで3割を占めていることから、鳥取県において罹患(りかん)率が増加傾向にある大腸がん乳がん検診の受診率を、国の第2期がん対策推進基本計画に掲げる目標値(目標年度:平成34年度)と同じ50%まで引き上げることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| 受診率の向上を目指し、協会けんぽと協力して企業訪問、新聞折込チラシの配布を行いがん検診の受診勧奨に努めた。また、各地区の健康講座などの機会を通じて保健師のミニ講和を行いがん検診のPR、受診勧奨に努めた。昨年度と比較し80名増加し受診率は0.2%増加した。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 引き続き、協会けんぽと協力して、企業訪問、新聞折込チラシの配布を行い、がん検診のPR、受診勧奨を行う。また、夏場の検診受診者が少ないため、各地区の健康講座等の機会を通じて早めの受診勧奨を行う。9月の健康増進月間では、保健推進員と協力して受診勧奨の取り組みを行っていく。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 2 市民一人ひとりの健康づくり | | ②がん予防対策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 健康対策課 |
|---|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| ② 乳がん検診の受診率 | 30.9% | 32.2% | 30.6% | 50% | D |
| 指 標 の 説 明 | 本市における死因の第1位はがんで3割を占めていることから、鳥取県において罹患(りかん)率が増加傾向にある大腸がん和乳がん検診の受診率を、国の第2期がん対策推進基本計画に掲げる目標値(目標年度:平成34年度)と同じ50%まで引き上げることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| 受診率の向上を目指し、休日に胃がん、乳がん、子宮がんが同時に受けられるセット検診を実施した。また、協会けんぽと協力して、企業訪問、新聞折込チラシ、保育園・幼稚園保護者へ乳がん、子宮がん検診のPR、各地区健康講座などさまざまな機会を通じてがん検診の受診勧奨に努めた。受診者は239名増加したが、受診率は減少し30.6%であった。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 引き続き、休日のセット検診を実施。協会けんぽと協力して、企業訪問、新聞折込チラシを配布。また、特に夏場の受診者が少ないことから、各地区の健康講座を通じて早めの受診案内などに取組んでいく。H30年度からは、中国労働衛生協会が検診機関として加わったため、受診者の増加が期待される。 | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 2 市民一人ひとりの健康づくり | | ③ 感染症予防対策の充実 | | 担当課 | 福祉保健部 健康対策課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 高齢者インフルエンザ予防接種の接種率 | 63.2% | 61.7% | 61.02% | 68% | D |
| 指 標 の 説 明 | インフルエンザは、高齢者や乳幼児が罹患すると死に至ることもある危険な感染症であることから、接種率が低迷している高齢者の予防啓発を強化し、接種率を68%まで引き上げることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| インフルエンザの流行が春先まで伸びる傾向が続いているため、鳥取県西部医師会の助言を基に接種開始時期を11月からに改め、効果が3～4ヶ月と言われるインフルエンザワクチンが有効期間内で効果的に作用するよう改善に努めた。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 当該予防接種はB類に属する種類であり、個別の接種勧奨を行う法律的な義務はなく、自身の意思で希望する者が接種するものであるため、市広報等での啓発を引き続き行い、広報の内容及び回数についてより効果的なものになるよう改善に努める。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 2 市民一人ひとりの健康づくり | | ④ ころの健康対策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 健康対策課 |
|---|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| ゲートキーパー 研修の受講者数 | 545 人 | 549 人 | 826 人 | 1,500 人 | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>ゲートキーパーは特別な資格はいりません。悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて必要な支援につなげ見守る人のことです。ゲートキーパー研修の受講者が増えることで、家族、地域、職域での寄り添う体制が整い、ころの健康への関心も深まり、自死者の減少を図ることができることから、ゲートキーパー研修の年間受講者数を1,500人にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の地区公民館で行う健康講座や、生活習慣病予防調理実習の際に保健師がゲートキーパーについて講話を実施。 ・食生活改善推進員、保健推進員、高校生に対しても講話を実施。 <p>幅広い年齢層にゲートキーパーの必要性や自死予防について啓発した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の推進員さんに対しては、何年間か講話を実施しているが、まだまだゲートキーパーという言葉も浸透していない現実がある。特別に考えるのではなく、日々の生活の中で意識できるよう、何度も働きかけ、講話を続けていくことが必要となる。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 2 市民一人ひとりの健康づくり | | ⑤ 地域における健康づくり施策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 健康対策課 |
|--|---|--------------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 地域組織間連携で地域保健事業に取り組んだ活動者数 | 911 人 | 724 人 | 712 人 | 1,500 人 | D |
| 指 標 の 説 明 | 各地域保健組織の設置目的はそれぞれですが、互いの連携により、地域に根ざした信頼やネットワークを活用した啓発活動の相乗効果を上げることができます。連携事業が増え、地域課題を共有する住民が増えることで、健康づくり活動の効果が高まります。組織間で連携し、地域保健事業に取り組む活動人数を年間1,500人にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>地域の健康づくりを行う保健推進員と食生活改善推進員が、自らの地域の課題に気づき共有できるような研修等を実施。新規に保推セミナーを実施したが、参加者数は横ばい。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>地域の中で仕事を持つ人も増え、役員の確保が困難な状況になってきており、実績値は減少している。目標値の達成は非常に困難であるが、実績値が改善するよう啓発に努める。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|------------------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 3 明るい長寿社会の実現 | | ① 社会参加しやすい 環境づくりの推進 | | 担当課 | 福祉保健部 長寿社会課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 介護支援ボラン ティア登録者数 | 60 人 | 89 人 | 79 人 | 110 人 | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>本市が取組をはじめた平成 26 年度以降の年度ごとの登録者総数。</p> <p>高齢者の社会参加、生きがい対策および介護予防の促進を図ることを目的に、65 歳以上の高齢者を対象として、介護支援ボランティア登録者を毎年 10 人ずつ増やし、110 人にすることを目標とします。</p> <p>※基準値は、米子市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の平成 27 年度計画値です。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>広報よなご 3 月号に記事掲載し、登録意欲のある方からの問い合わせが数件あった。</p> <p>2 月に介護支援ボランティア登録者、当課が養成している地域サポーターを対象に、ボランティア活動研修を行い、活動を継続する意欲の向上につながった。また、対象者の友人、ボランティア活動に関心のある方の参加も積極的に受け入れ、当制度をアピールする機会にもなった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>米子市ボランティアセンターが発行する広報に掲載し、様々なボランティアに取り組んでいる方や 65 歳以下の方にも関心をもってもらうこととする。また、市報掲載や研修会等でのパンフレット配布、米子市ボランティアセンターでの宣伝等を引き続き行い、この制度の周知とボランティア登録者の意欲向上に努めていきたい。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 3 明るい長寿社会の実現 | | ②介護予防施策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 長寿社会課 |
|---|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 健康づくり地域 サポーターの人数 | 360人 | 294人 | 278人 | 410人 | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>「よな GOGO 体操」の普及や地域で健康づくり活動を実践する「健康づくり地域サポーター」を、毎年10人ずつ増やし、410人にすることを目標とします。</p> <p>※現状値は、米子市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の平成27年度計画値です。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>各地域のイベントで「よな GO!GO!体操」の普及を図り、介護予防・健康づくりに取り組んでいる。特に、「いきいきふれあいサロン」、「やって未来や塾」等での地域活動においては継続的に運動を実践している。</p> <p>市が主催したサポーター養成のための基礎研修とスキルアップ研修、また、県主催のご当地体操研修会にサポーターと共に参加した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>一人ひとりの介護予防の意識をより高めていくことで、サポーターからの呼びかけで同じ意識を持って取り組んでいただける人材の広がりにつながる。引き続き、サポーターを対象とした研修の実施やその他講演会等があれば案内していく。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 3 明るい長寿社会の実現 | | ②介護予防施策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 長寿社会課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 通所型運動機能 向上事業の利用 者数 | 700人 | 632人 | 617人 | 1,200人 | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>生活機能の低下を防止し、高齢期を元気に過ごすためにフィットネスクラブなどで実施する「通所型運動機能向上事業（がいなみつく予防トレーニング）」の年間利用者数を毎年100人ずつ増やし、1,200人にすることを目標とします。</p> <p>※現状値は、米子市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の平成27年度計画値です。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>高齢化率の上昇に伴い、介護予防について高齢者の意識が高いが、「何をしていたか分からない」、「一人では運動が続かない」などの現状がある。そこで、日常生活の中での運動習慣づくりの第一歩として、本事業が良い機会となっており、新規が増加しているものと考えられるが、利用実績は近年減っている。これは、毎年度、本事業の継続者もいるが、利用した施設の一般利用につながっている方もいるためと考える。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>介護認定のない高齢者が、引き続き出来る限り自立した生活を送るために、元気なうちから自身の健康づくりに努めるよう啓発していく。また、今後、高齢化が急速に進展していく中、本事業の利用者が増加することが予想され、本事業終了後も運動が継続するよう運動指導を充実していく他にふらっと運動体験と連携しながら実施していく。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）
- C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 3 明るい長寿社会の実現 | | ③在宅福祉施策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 長寿社会課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達成度 |
| 介護保険の居宅 介護サービス利 用率 | 82.2% | 81.8% | 82.7% | 84.0% | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>介護サービス利用者全体に占める居宅介護サービス利用者の割合です。</p> <p>介護が必要になっても、住みなれた地域で、できるだけ自立した生活を継続することができるよう、居宅介護サービスの充実を図ることによって、利用率を84.0%まで引き上げることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>地域密着型サービス事業所の整備として、小規模多機能型居宅介護事業所や認知症対応型生活介護の地域密着型サービス施設を整備したことにより、福祉用具・住宅改修サービスや地域密着型サービスの利用者数は、増加傾向にある。一方、施設利用者は、横ばいで推移しており、居宅介護サービスの割合が増加した要因となっている。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成30年度から32年度の第7期介護保険事業計画の期間中に、在宅型の地域密着型サービスである小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護施設の整備に努め、在宅サービスの充実を図ることにより、地域密着型老人福祉施設を整備することにより、居宅介護サービスの割合を増やすとともに施設サービスについても充実を図っていくことを目標とする。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 3 明るい長寿社会の実現 | | ③在宅福祉施策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 長寿社会課 |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 地域包括ケアシステム構築に係る活動件数 | 6,347 件 | 6,862 件 | 7,082 件 | 6,850 件 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>地域包括支援センターが実施していく日常生活圏域ごとの地域ケア会議やインフォーマルサービスなどとの連携体制づくりに関する会議、個別のケース会議など地域包括ケアシステム構築のために必要な活動件数を表します。</p> <p>関係機関や地域とのネットワークの構築は、高齢者が在宅で安心して生活を継続するために重要な働きかけであることから、年間 100 件ずつ増やし、6,850 件にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>地域の社会資源やニーズの把握、地域における高齢者支援ネットワークの構築、地域住民に対する介護予防・認知症・権利擁護等に関する啓発活動をはじめ、担当圏域及び個別ケースケア会議の実施、医療・介護・福祉関係機関との連携、地域のインフォーマルサービスとの連携により、地域包括ケアシステムの推進を図った。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>地域包括支援センターを地域における地域包括ケアシステム構築の中核機関として位置づけ、超高齢社会に対応すべく、平成 3 2 年度を目途にセンターの機能強化に向け実施体制の再構築を検討する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|---------------|--------------|--------------|----------------|
| 3 明るい長寿社会の実現 | | ④ 認知症高齢者施策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 長寿社会課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 認知症サポーター養成講座の受講者数 | 12,400人 | 14,637人 | 16,059人 | 22,900人 | C |
| 指標の説明 | <p>本市が取組をはじめた平成21年度以降の受講者の総数です。 それぞれの地域で認知症を理解し、自分でできる範囲で支援活動を行う「認知症サポーター」養成講座の受講者の延べ人数です。 認知症高齢者を地域で支えていく身近な環境づくりを進めるため、認知症サポーター養成講座を継続して取り組むことにより、受講者を22,900人にすることを目標とします。 ※ 基準値は、米子市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の平成27年度計画値です。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成29年度中の認知症サポーター養成講座の実施回数は45回、受講者数は1,422人でした。教育機関での実施は、小学校で11回、高校で2回、大学で1回及び専門学校で1回でした。その他、いきいきサロンや老人クラブ等の地区住民やタクシー会社、製薬会社の企業の方等にも実施しました。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>“認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続できる米子市”を目指して、今後も地域・学校・職場での「認知症サポーター養成講座」を継続して実施していく。 なお、「認知症サポーター養成講座」については、市広報やホームページ等での周知を始め、連携を視野に医療機関やコンビニ等企業へも受講について働きかけ、認知症への理解の啓発に努めていく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|---|--|---------------|--------------|--------------|----------------|
| 3 明るい長寿社会の実現 | | ④ 認知症高齢者施策の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 長寿社会課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 認知症早期発見に係るアプローチ数 | 410人 | 442人 | 518人 | 460人 | A |
| 指標の説明 | 認知症の早期発見・早期対応のため、「米子市認知症早期発見システム」などを通じて把握した対象者に対するアプローチ数を毎年10人ずつ増やし、460人にすることを目標とします。 ※基準値は、米子市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の平成27年度計画値です。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 認知症理解の啓発、認知症の早期発見のために、高齢者の集いやサロン、公民館祭や健康フェスティバル等のイベント等の機会を捉え、タッチパネル検査を合計518人に実施した。 検査後に、フォローが必要な方には、地域包括支援センター職員や認知症地域支援推進員が個別相談や家庭訪問等をして継続支援している。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 誰もが住み慣れた地域で生活を継続するため、認知症理解の啓発とともに、早期発見・早期の対応に繋がるよう、薬局、かかりつけ医や専門医など関係機関と連携して継続的に取り組んで行く。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 4 障がい者（児）福祉の充実と共生社会の実現 | | ① 障害者（児）福祉施策の充実 | | 担当課 | 福祉保健部 障がい者支援課 |
|---|---|-----------------|--------------|--------------|------------------|
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| コミュニケーション支援（手話通訳者）利用件数 | 1,199 件 | 1,226 件 | 1,032 件 | 1,400 件 | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>障害者総合支援法の施行により、障がい者の意思を尊重するための意思疎通の障壁の除去が今までも増して重要となりました。</p> <p>聴覚障がい者へのコミュニケーション支援として、今後も手話通訳者や要約筆記者の派遣を促進し、年間利用件数を手話通訳者の派遣については1,400件、要約筆記者の派遣は20件にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>鳥取県西部圏域の9市町村の共同事業として手話通訳派遣等委託事業（委託先鳥取県聴覚障害者協会）を実施し、派遣申請に基づき委託事業者の雇用する手話通訳者を派遣している。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>鳥取県が実施している遠隔手話通訳サービス及び電話リレーサービスの普及、また、多頻度利用者の県外転出や病気改善による通院付き添い減少により、手話通訳者の派遣は前年度実績より減少しているが、各種大会等で手話通訳者が設置されるよう、庁内LAN掲示板を通じて職員へ周知するとともに、ホームページの掲載やパンフレットの配布などを行い、派遣申込の増加につながるよう市民等への情報提供に努め、手話通訳者の派遣を促進する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 4 障がい者（児）福祉の充実と共生社会の実現 | | ①障がい者（児）福祉施策の充実 | | 担当課 | 福祉保健部 障がい者支援課 |
|--|---|-----------------|-----------------|--------------------|------------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 成 度 |
| コミュニケーション支援（要約筆記者）利用件数 | 12 件 | 24 件 | 20 件 | 20 件 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>障害者総合支援法の施行により、障がい者の意思を尊重するための意思疎通の障壁の除去が今までも増して重要となりました。</p> <p>聴覚障がい者へのコミュニケーション支援として、今後も手話通訳者や要約筆記者の派遣を促進し、年間利用件数を手話通訳者の派遣については1,400件、要約筆記者の派遣は20件にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>鳥取県西部圏域の9市町村の共同事業として手話通訳派遣等委託事業（委託先鳥取県聴覚障害者協会）を実施し、派遣申請に基づき委託事業者の雇用する要約筆記者を派遣している。利用件数は、前年度と同件となった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>各種大会等で要約筆記者が設置されるよう、庁内LAN掲示板を通じて職員へ周知するとともに、ホームページの掲載やパンフレットの配布などを行い、派遣申込の増加につながるよう市民等への情報提供に努め、要約筆記者の派遣を促進する。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）
- C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 4 障がい者（児）福祉の充実と共生社会の実現 | | ①障がい者（児）福祉施策の充実 | | 担当課 | 福祉保健部 障がい者支援課 |
|--|---|--------------------|--------------------|--------------------|------------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H 2 8 年 度 実 績 値 | H 2 9 年 度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 達 成 度 |
| 障がい者就労施設等からの物品等の調達実績 | 6,830,217 円 | 10,248,947 円 | 16,570,147 円 | 16,600,000 円 | B |
| 指 標 の 説 明 | 障がい者就労施設で就労する障がい者や在宅で就労する障がい者の経済面の自立を進めるため、市役所における障がい者就労施設などからの物品などの目標調達額を、16,600,000円にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 月に、今年度の調達目標額を含む物品等の調達方針を策定し、庁内 LAN 掲示板等を通じて、市長の事務部局、水道局、教育委員会事務局、監査委員会事務局、農業委員会事務局に取組を依頼し、四半期ごとに調達状況の実績報告を提出してもらった。調達実績は、前年度と比較すると 6,321,200 円の増加となった。 ・ 庁議（1 回）を通じて、全庁的な取組の徹底を図った。 ・ 障がい者就労施設等との情報交換会を開催した。 ・ 当初予算説明会において、経理担当係長及び経理担当者に対し取組を説明した。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 調達方針に新たに部局の目標額を掲げ、全庁的な取組の一層の推進を図る。 ・ 優先調達可能な品目について、庁内への情報提供や新たなニーズの掘り起こしを行い継続的かつ安定的な優先調達に努める。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80% 以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80% 未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| 4 障がい者（児）福祉の充実と共生社会の実現 | | ②障がい児支援施策の充実 | | 担当課 | 福祉保健部 こども相談課 |
|--|---|-----------------|-----------------|--------------------|-----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 成 度 |
| 発達支援事業利用者アンケート結果で「相談してよかった」と回答した人の割合 | 100% | 99.2% | 99.3% | 100% | D |
| 指 標 の 説 明 | 保護者や保育者などに寄り添う支援体制を充実していくことにより、発達支援事業利用者（保護者・保育者）に行っているアンケート調査で「相談して良かった」と回答した人の割合を、引き続き100%にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>発達に気がかりのある未就学児及びその保護者、保育者を対象として、発達支援事業（発達相談、個別相談、巡回相談）を実施した。スタッフは医師（発達相談のみ）、発達支援員、心理士、保健師、保育士、LD等専門員（必要時）等で児の行動観察を行い、保護者や保育者の訴えを聞き、児の成長発達のための助言や支援方法を一緒に考えた。</p> <p>1 発達相談 良かったと回答した割合 97.6%</p> <p>2 巡回相談 良かったと回答した割合 99.6%</p> <p>※ 発達相談及び巡回相談は予約受付、個別相談は随時受付</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>相談・指導体制については、発達支援員、心理士、保健師及び教員の配置により充実・強化しており、平成30年度から実施する5歳児健康診査（5歳児よなごっ子健診）を含めたその後の発達支援について、利用者に寄り添った相談援助を行うことで満足度の向上に努める。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 5地域における福祉活動の推進 | | ①地域福祉活動の推進 | | 担当課 | 福祉保健部 福祉政策課 |
| 指標名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 地区版地域福祉活動計画策定地区数 | 7地区 | 7地区 | 9地区 | 17地区 | C |
| 指標の説明 | <p>本市が取組をはじめた平成20年度以降の計画策定地区の総数です。</p> <p>住民自らが、その地域での生活課題や解決方法を話し合い、実践できる具体的な活動などを示した地区版地域福祉活動計画の策定を支援し、地域の実情に合わせた支え合いの体制づくりを促進するため、地区版地域福祉活動計画の策定地区数を10地区増やし、17地区にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>福生西地区及び福生東地区にて、地域福祉推進委員会の分科会が組織され、計画案を検討。平成30年3月に両地区にて地区版地域福祉活動計画が完成した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成30年度から31年度にかけて、米子市社会福祉協議会と協働で「米子市地域福祉計画・地域福祉活動計画」の策定作業を行うこととしており、この計画策定の動きと連携しながら、地域住民に対し地域における支え合いの体制づくりの必要性を説明し、地区版地域福祉活動計画の策定につなげていく。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|---|--|----------------|----------------|--------------------|----------------|
| 6 消費者の権利尊重と自立支援 | | ①消費者の権利尊重と自立支援 | | 担当課 | 市民生活部 生活年金課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達成度 |
| 消費者教育講座参加者数 | 1,254人 | 869人 | 1,605人 | 1,500人 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>悪質商法や架空請求など、多様化する消費者被害防止のための出前講座や身近な法律問題などの消費生活セミナーなどの開催により消費者教育を行うことで、消費者の自立支援を推進します。</p> <p>消費者教育講座の年間参加者数を約250人増やし、1,500人にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>市民生活に身近な公民館、自治会、老人会等の会合で講座（ふれあい講座）のPRを行った結果、各地区、団体からの申し込みが多数あり、目標値を超える講座参加者数となった。</p> <p>また、消費生活セミナー講演会を3回実施（講師：元NHKディレクター 北折一氏、島根大学教授 野村泰弘氏、(株)大阪総合研究所代表 辛坊治郎氏）し、多数の来場者があり、消費者教育の推進に繋がった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>市民に対し消費者としての自立支援を進めて行くとともに、計画的な講座を実施するため、講座（ふれあい講座）のPRが重要であり、各種団体が翌年の行事計画をされる年明けの会合等で積極的にPR行う。</p> <p>また、地域の消費者団体、関係機関等と連携を図り、将来にわたり継続かつ地道に消費者教育・啓発活動に取り組んで行くことが必要である。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

2 『ひと』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 6 消費者の権利尊重と自立支援 | | ① 消費者の権利尊重と自立支援 | | 担当課 | 市民生活部 生活年金課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 消費生活相談解決率 | 85.8% | 87.5% | 97.6% | 95% | A |
| 指 標 の 説 明 | 消費生活相談室において、消費生活相談の対応や消費者被害の救済を行い、消費者の安全・安心を確保します。相談員の各種研修受講や他機関との連携により相談体制を充実することで、相談解決率（総相談件数に対する解決件数の割合）の向上をめざし、95.0%まで引き上げることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>消費生活相談が年間約 1,300 件あり、4 人の相談員で対応している。相談内容は、複雑かつ多様化しており、相談員は国民生活センター主催の研修会への参加（9 回）、関係機関主催の研修会に参加（2 回）。また、Dラーニング（遠隔研修）の活用で、国民生活センター主催の研修講座を聴講することで、相談員のスキルアップを図るとともに関係団体、関係機関職員との連携を図り相談解決率が目標値を上回る結果となった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>相談内容が日々複雑かつ多様化しており、消費生活相談員の専門知識、相談処理技法を向上させるため、各種研修への参加を継続して行っていく必要がある。</p> <p>また、今後の方向性としての的確かつ迅速な相談の対応と消費者被害の未然防止を図るため、啓発活動に積極的に取り組んでいく必要がある。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|-----------------|-----------------|-------------------|--------------|
| 1 豊かな心を育む 学校教育の推進 | ②学校施設の整備・充実 | | 担当課 | 教育委員会事務局 教育総務課 | |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 学校施設の耐震化率 | 98.2% | 100% | - | 100% | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>児童生徒の生活の場として安心安全な施設環境を整えるため、非木造で2階建て以上または延べ面積200㎡以上並びに木造で3階建て以上または延べ面積500㎡以上の学校施設のうち、耐震化が不要または完了済みの施設棟数の割合です。</p> <p>基本構造部分の耐震化事業に取り組むことによって、耐震化率を100%にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成28年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】※H28年度耐震化完了のため</p> <p>後藤ヶ丘中学校特別教室棟及び教室棟2棟の耐震補強工事と大規模改修工事を平成28年6月から実施し、平成29年1月末に完了した。これで、全ての小中特別支援学校の構造体の耐震化が完了した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別教室棟 1575㎡ Is値 0.53 → 0.76 ・ 教室棟 437㎡ Is値 0.63 → 0.74 ・ 教室棟 437㎡ Is値 0.61 → 0.76 | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 2 青少年の健全育成 | | ① 青少年の育成支援 | | 担当課 | 福祉保健部 子育て支援課 |
|--|---|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 度 達 成 度 |
| 児童文化センターの年間利用者数 | 168,325人 | 184,854人 | 173,937 | 170,000人 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>クラブ活動やプレーパークなどの体験・交流活動を進める児童文化センターの利用者数です。</p> <p>親子が一緒に参加できる事業や講座内容の充実により利用者数の増加を図り、少子化で子どもの数が減少するなか、過去5年間の平均である17万人まで引き上げることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムについて、毎週日曜13時のみのキッズ投影を土・日・祝日に拡大したほか、臨時投影を増やし利用者の要望に応えた。また、米子市児童文化センター指導員が星取県の解説員としてPR活動を行った。 ・児童図書室でおすすめの本リストの小冊子を作成して利用促進につなげたり、利用案内を作成配布し、より分かりやすい広報の充実に努めた。 ・ホワイエにて家族で一緒にできる木のボードゲームやパズルを増やした。 | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星取県の事業に協力する。鳥根大学放送部とラジオドラマで連携する。 ・電子顕微鏡に関する事業で鳥大医学部と協力する。 ・手作り工作ボランティア講習会を実施する。 | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 2 青少年の健全育成 | | ① 青少年の育成支援 | | 担当課 | 福祉保健部 子育て支援課 |
|--|--|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 国際交流体験事業の参加者数 | 500 人 | 600 人 | - | 600 人 | - |
| 指 標 の 説 明 | <p>外国の文化にふれ、外国青年と交流し国際感覚を養う国際交流体験事業の参加者数です。</p> <p>現在は市内小中学生全員にチラシを配布するなどの広報をしていますが、今後は配布範囲を拡大するなどさらに周知に努めるとともに、より魅力あるものになるよう内容の見直しを行うことによって、現在の参加者数を 20%引き上げ、600 人にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>台風の為、イベント中止となったが、スタンプラリー実施に伴う景品の各団体からの集約や、米子の魅力をイラストや写真入りで紹介した「よなごの魅力発見 MAP」をブースに訪れた子どもに配る準備をしていた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成 27 年以降、民間交流団体や個人の有志で組織する実行委員会と米子市、鳥取県国際交流財団の 3 者主催による形態で国際交流フェスティバルを実施しており、米子市文化ホールにてステージパフォーマンス部門、食べ物・物販部門、パネル展示・体験部門の 3 部門で構成された催しを実施する。9 月下旬の実施に向け、3 度の実行委員会及び企画委員会で運営方法を協議し、参加者数の増加を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 2 青少年の健全育成 | | ① 青少年の育成支援 | | 担当課 | 福祉保健部 子育て支援課 |
|---|---|--------------------|--------------------|--------------------|-----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H 2 8 年 度 実 績 値 | H 2 9 年 度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 子ども会加入者の小学校児童数に対する割合 | 90.2% | 87.9% | 87.5% | 91% | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>子ども会ではさまざまな体験、交流活動や集団活動など、子どもが自主的に行動し、たくましく生きていく力を身につける活動を行っています。近年、団体への加入を避ける風潮も一部に見られることなどから子ども会に加入しないケースも増え、小学校児童数に対する子ども会加入者の割合は徐々に低下してきていますが、広報などを通じて加入促進に努め、加入割合の現状値を維持・向上することを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>子ども会連合会の事務局を担い、運営委員会（年 6 回）、地区会長会（年 4 回）、育成者研修会（年 2 回）の開催を初めとして、各地区子ども会との連絡調整、助言などを行い、子ども会活動の活発化に努めた。</p> <p>年度当初、新規加入者確保のため、子ども会連合会のブロック別研修会（4 月に 5 回開催）において、子ども会の活動について PR した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>事務局として、子ども会連合会の活動を支援し、子ども会活動の一層の活発化を図るとともに、子ども会の PR を行って新規加入の促進に努めます。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80% 以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80% 未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|-----------------|
| 2 青少年の健全育成 | | ② 青少年の非行・被害防止 | | 担当課 | 福祉保健部 子育て支援課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 街頭指導、巡回パトロールの回数 | 79 回 | 93 回 | 89 回 | 100 回 | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>近年、学校間での生徒同士のトラブルが目立つようになってきている状況に鑑み、少年育成センターで行っている街頭指導・巡回パトロールをこれまでの米子駅前中心の実施範囲に加え、多数の児童・生徒が集まる体育行事や地域の祭礼、ゲームセンターなどにおいても実施するなど、街頭指導・巡回パトロールの範囲を拡大するとともに、回数についても年間 100 回にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>毎週 2 回の街頭指導には、市内の小・中・高校の教員に参加してもらっている。あわせて、月に 2 回の合同指導日を設けて、米子警察署、西部少年サポートセンター、スクールサポーターに参加していただき、より効果的な街頭指導を実施している。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>今後はパトロールの回数よりも子ども達の実態把握や環境の是正、そして機関連携に取り組むことが必要と考えている。特に、H30 年度からは同一中学校区の教員に参加してもらう計画をつくり、米子市教育委員会が推進している小中学校及び高校の連携の中で健全な育成を図ることとした。また、少年育成センターが小、中、高の生徒指導の会合に出席し、子ども達の実態の共通理解と機関連携の強化を図ることとしている。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| | | | | | |
|---|--|---------------|--------------|--------------|-----------------|
| 2 青少年の健全育成 | | ② 青少年の非行・被害防止 | | 担当課 | 福祉保健部 子育て支援課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 「こどもかけこみ110番」の設置箇所数 | 2,055箇所 | 2,208箇所 | 2,208箇所 | 2,265箇所 | C |
| 指標の説明 | <p>本市が取組をはじめた平成9年度以降の設置箇所の総数です。全国で子どもたちの安全を脅かす事件が頻発している状況に鑑み、登下校時など、外出中の子どもたちを犯罪や不審者から守るために設置している「こどもかけこみ110番」を、昼の時間帯に常時人がいる事業所などを中心に新たに210箇所増やし、2,265箇所設置することを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子警察署からの依頼で、少年育成センターが市内の小学校に「こどもかけこみ110番」の設置についてお願いしている。小学校からの情報を米子警察署に届け、ステッカーを小学校に配布している。社会の状況変化をみながら、「こどもかけこみ110番」の選定の仕方について見直しを図っていく必要がある。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>近年の社会の状況変化を踏まえて、「こどもかけこみ110番」については、より信頼度の高い選定の仕方が求められている。警察と地区の防犯協議会等との連携の中で選定の精度を上げるとともに、決して2次被害のおきない安心で安全な「こどもかけこみ110番」にしていく必要がある。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|-----------------|-----------------|--------------------|-----------------|
| 2 青少年の健全育成 | | ② 青少年の非行・被害防止 | | 担当課 | 福祉保健部 子育て支援課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 少年指導委員人数 | 214 人 | 216 人 | 214 人 | 268 人 | C |
| 指 標 の 説 明 | 青少年の非行、犯罪を抑制するため、きめ細かい巡回を行うなど地域でのさらなる取組が必要であることから、子どもにかかわる団体に対し呼びかけるなどして、巡回パトロールや街頭指導などを行う少年指導委員を各地区2名ずつ増やし、268人にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>少年指導委員の情報交換及び研修の場として毎月1回少年指導委員代表者会を開催している。この会には警察関係、学校関係、教育委員会の各関係機関が参加しており、より強力な機関連携を行うことで、少年指導委員の活動をサポートしながら、青少年の健全育成を図っている。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>少年指導委員の増員もさることながら、活動しやすい環境づくりや地域住民や保護者に対する啓発活動がより重要になると考える。また、青少年の健全育成については関係機関との連携が重要なファクターになる。少年育成センターは少年指導委員の研修の企画実施や機関連携の促進、市民に対する啓発活動を行い、少年指導委員の活動をサポートする。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 3 市民文化の振興と歴史的遺産の保存・活用 | | ①芸術文化活動の推進 | | 担当課 | 経済部 文化振興課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 美術館・ホール各館で行う鑑賞事業の年間入館者数 | 51,700人 | 36,455人 | 48,191人 | 53,000人 | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>芸術文化を鑑賞できる機会の充実を図ることによって、美術館や公会堂、文化ホール、淀江文化センターで行う鑑賞事業の入館者数を2.5%引き上げ、平成28年度～平成32年度の5年間の平均値を53,000人にすることを目標とします。</p> <p>※基準値は、過去5年間（平成22年度～平成26年度）の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>美術館においては毎年、特別共催展をはじめ各種展覧会の開催等により市民に多様な芸術鑑賞機会を提供しており、平成29年度は、米子市出身者から寄贈されたアール・ヌーヴォー期のガラス工芸品の受贈記念展覧会や、米子美術協家協会 - 70年のあゆみ - など、郷土ゆかりの各種展覧会を開催した。ホールにおいては、利用者が安全かつ快適に利用できるよう施設の適切な維持管理に努めるとともに、各館の特色をいかした様々な自主事業を実施した。</p> <p>美術館、ホールとも、地域に根ざした幅広い分野の芸術文化に触れることのできる内容の事業を実施したが、必ずしも集客増にはつながらなかった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>各館で実施する鑑賞事業について、様々なメディアを介して積極的なPRを図るとともに、ターゲットを絞って重点的にPRを行うなど誘客対策のさらなる強化を図る。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 3 市民文化の振興と歴史的遺産の保存・活用 | | ①芸術文化活動の推進 | | 担当課 | 経済部 文化振興課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 市民等による芸術文化の発表の場となる主な事業への出品数 | 305点 | 300点 | 277点 | 320点 | D |
| 指標の説明 | <p>市民の芸術文化活動の発表の機会となる「米子市美術展覧会（米子市美術館で開催）」の出品数を5%引き上げ、平成28年度～平成32年度の5年間の平均値を320点にすることを目標とします。</p> <p>※基準値は、過去5年間（平成23年度～平成27年度）の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成28年度から、優秀作品には副賞を授与するなど出品意欲を高める運営に努めた結果、平成28年度は出品作品数が増加し、平成29年度も、出品者が出品しやすくなるよう、共同制作による作品も出品できることとするなど出品規定の見直しを行うとともに、優秀作品に授与する市展賞、奨励賞のうち、洋画、書道、写真部門の奨励賞の数を増やし、制作意欲を高める取組を行ったものの出品作品数は減少し、目標値には到達しなかった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引続き、出品者が出品しやすく、制作意欲を高め、多様な制作形態に対応する運営に努めるよう、運営委員会等での協議を行うことにより出品数の増加を図る。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|---------------|---------------|--------------------|--------------|
| 3 市民文化の振興と歴史的遺産の保存・活用 | | ① 芸術文化活動の推進 | | 担当課 | 経済部 文化振興課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28 年度 実績値 | H29 年度 実績値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達成度 |
| 市民等による芸術文化の発表の場となる主な事業への参加団体数 | 116 団体 | 133 団体 | 132 団体 | 122 団体 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>市民の芸術文化活動の発表の機会となる、公会堂、文化ホール、淀江文化センターで実施される「米子市音楽祭」の出演団体数および「米子市秋の文化祭」への参加団体数の合計を5%引き上げ、平成28年度～平成32年度の5年間の平均値を122団体にすることを目標とします。</p> <p>※基準値は、過去5年間（平成22年度～平成26年度）の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子市音楽祭については、市民が主体となって行う実行委員会において、音楽祭活性化を図るための企画・運営の検討を行い、秋の文化祭については、共催者である米子市文化協議会と連携し市のホームページやチラシ、ポスター等による周知に努めた結果、参加団体数の増加につながった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>米子市文化協議会を通じての案内及び活動団体への個別の案内などを行い、引き続き周知を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|---------------|---------------|--------------------|----------------|
| 3 市民文化の振興と歴史的遺産の保存・活用 | | ①芸術文化活動の推進 | | 担当課 | 経済部 文化振興課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28 年度 実績値 | H29 年度 実績値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 度 達 成 度 |
| 米子市ホームページ「文化の窓」に掲載する団体数 | 8 団体 | 9 団体 | 44 団体 | 33 団体 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>本市が取組をはじめた平成 25 年度以降の掲載件数の総数です。</p> <p>文化、芸術の振興などに寄与すると認められる公共性のある団体などの PR や活動内容などを紹介するため、米子市ホームページ上のコンテンツ「文化の窓」に掲載する団体数を毎年 5 団体ずつ増やし、33 団体にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>「文化の窓」掲載の申請方法を、より申請しやすい様式に改め、また、文化協議会を通して周知を行ったところ、掲載団体の増加につながった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引続き、米子市文化協議会等を通じての案内、周知に努める。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| | | | | | |
|---|--|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 3 市民文化の振興と歴史的遺産の保存・活用 | | ②文化財の保護と活用 | | 担当課 | 経済部 文化振興課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 指定文化財および登録文化財件数 | 64件 | 69件 | 70件 | 74件 | C |
| 指標の説明 | <p>市内の国、県、市の指定文化財および登録文化財の件数です。貴重な文化財を保護、保存、活用することは、郷土の歴史や文化などを正しく理解し、豊かな未来を創造するために必要なことです。</p> <p>未指定文化財について調査・研究を行い、毎年2件程度の指定および登録を行い、74件にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>1件が国登録有形文化財（建造物）となった。</p> <p>今後の指定候補物件（えん体壕、セントロマントロ、狛犬など）について、調査・研究を進めている。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>市指定候補物件については、市文化財保護審議会への諮問を行う。</p> <p>県指定候補物件については、県教委が行う県文化財保護審議会への諮問に資するため、地元関係者との協議を進める。</p> <p>国指定等候補物件については、関係者との協議を進め、文化庁への意見具申を行う。</p> <p>その他、指定候補物件の調査・研究を進め、指定への準備を行う。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 3 市民文化の振興と歴史的遺産の保存・活用 | | ②文化財の保護と活用 | | 担当課 | 経済部 文化振興課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 歴史関係施設の 年間利用者数 | 20,429人 | 25,826人 | 27,717人 | 25,000人 | A |
| 指 標 の 説 明 | 山陰歴史館、福市考古資料館、埋蔵文化財センター、上淀白鳳の丘展示館の常設展、企画展などの観覧者数、講座、講演会などへの参加者数および資料照会件数の合算です。各施設での展示の充実、出前講座、史跡めぐりなどの普及活動の実施、情報提供の促進などにより、年間利用者数を約5,000人増やし、25,000人にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| <p>歴史関係施設においては、各施設の特色をいかし引き続き関係機関や他施設、民間団体等との連携を図り各種事業の充実に努めた。山陰歴史館では、教育普及事業において講座・講演会への参加者が減少したものの、一般に興味を引く内容の企画展が多かったこともあり来館者（延べ人数）が増加するなど施設利用者数は増加した。福市考古資料館・埋蔵文化財センターでは、他施設との連携を図り講座、講演会への参加者が増加した。上淀白鳳の丘展示館では、随時実施している史跡案内による利用者は増加しているが、常設展の来館者、各種イベントによる利用者とも減少したため、全体としては利用者減となった。</p> | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| <p>山陰歴史館、福市考古資料館・埋蔵文化財センターについては、今後も関係機関や他施設、民間団体等と連携し協力を得ながら、各種事業の幅を広げるとともに、収集資料や収蔵品、各種事業に関連した調査研究を継続的に実施し、それらの成果をいかした企画展や講座・講演などのソフト事業の充実に努めていく。上淀白鳳の丘展示館については周辺の文化財を活かしたイベントの開催、史跡案内などのきめ細かな対応を行い、ソフト事業の更なる展開を図り、さらに観光施設との連携を深め、伯耆古代の丘一帯の活用を図っていく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）
- C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 4 生涯学びあい、スポーツを楽しめる社会の実現 | | ①生涯学習活動の推進 | | 担当課 | 教育委員会 事務局 生涯学習課 |
|---|--|-----------------|-----------------|--------------------|-----------------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 公民館の年間利用者数 | 360,968 人 | 331,012 人 | 322,917 人 | 370,000 人 | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>人口の減少や余暇の過ごし方の多様化などにより公民館の利用者の減が予想されるなか、公民館の利用についてさまざまな利用形態を想定した広報、PR の実施や、公民館祭など地域の多くの人が集う主催事業の充実、地域が中心となって活動する自主的、主体的事業のサポートなどにより、公民館を拠点に行われる各種事業への継続的な参加を図ることによって、公民館の年間利用者数を 370,000 人にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>公民館職員の継続的なスキルアップのため、県主催の研修や職務に関係する各種大会への参加、社会教育主事が同行して講座を体験する機会の提供を行った。</p> <p>米子市公民館運営審議会が出た意見・要望を、全館から職員が参加する事務連絡会で伝えた。</p> <p>また、自主的な活動として全館を 4 つの地区ブロックに分け、情報交換を行っている。(ブロック会議)</p> <p>しかし、前年度に比べて減少幅は縮小したものの、利用者増にはならなかった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>1 生涯学習課職員も情報のアンテナを高くし、講座の企画立案に資する情報の提供に心がける。</p> <p>2 引き続き、住民のニーズを意識した事業内容を検討するよう公民館職員研修等で指導する。</p> <p>3 ブロック会議を活性化させ、情報交換の活発化を目指す。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 4 生涯学びあい、スポーツを楽しめる社会の実現 | | ①生涯学習活動の推進 | | 担当課 | 教育委員会 事務局 生涯学習課 |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|-----------------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 図書館の年間個人貸出冊数 | 621,000 冊 | 640,544 冊 | 654,178 冊 | 640,000 冊 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>リニューアルオープンにより個人貸出冊数は以前の約 1.46 倍となりましたが、生涯学習や情報提供、さらには子どもの読書活動を支える拠点としての役割を担う図書館において、多種多様な市民ニーズに応えた図書・資料を充実させ、新規の利用者の拡大を図ることによって、年間貸出冊数を現状の 3% 以上引き上げ、640,000 冊にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の生涯学習を支援する資料（郷土資料、行政資料を含む）の収集、保存、提供 ・インターネット予約サービスの利用促進と PR ・図書館ホームページの充実、図書館だより、新刊案内の作成と配布 ・テーマ展示による情報提供 ・「ハートフルコーナー」の新設など障がい者及び活字弱者に対する適切な資料の収集と提供 ・移動図書館による遠隔地への出張貸出及び老健施設訪問 ・乳幼児、児童・生徒等、各年齢層に応じた推薦図書リストの作成・設置及び図書館ホームページに掲載 ・市内全小学校・全学級へ長期貸出及び市内全小・中・養護学校へのリクエスト貸出 ・児童、生徒のための郷土資料（ふるさと米子探検隊）の作成と頒布 ・中・高校生へ向けてのヤングアダルトコーナー（YA）の充実 ・「鳥取県図書館横断検索」システムの利用促進 | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、現状の取組を継続しつつ、更なる図書の充実を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80% 以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80% 未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 4 生涯学びあい、スポーツを楽しめる社会の実現 | | ②スポーツ活動の推進 | | 担当課 | 経済部 スポーツ振興課 |
|---|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 小学生大会の年間参加者数 | 1,006 人 | 1,015 人 | 1,028 人 | 1,400 人 | C |
| 指 標 の 説 明 | 小学生を対象とするスポーツ大会（3大会）の年間の参加者数を1,400人にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>少年野球、ミニバスケットボール、バレーボール大会の3大会を計画通り実施したが、参加者数は前年度より微増となっているものの目標には届かなかった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>チーム単位での参加となっていることから、小学校を通じ児童及び保護者へ各種スポーツチームの一覧や連絡先等を掲載したチラシの配布やホームページで紹介し、チームへの加入促進を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 4 生涯学びあい、スポーツを楽しめる社会の実現 | | ②スポーツ活動の推進 | | 担当課 | 経済部 スポーツ振興課 |
|---|---|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 各種スポーツ大会の年間参加者数 | 1,108 人 | 1,579 人 | 1,597 人 | 1,200 人 | A |
| 指 標 の 説 明 | 市が主催するスポーツ大会（5大会）の年間の参加者数を1,200人にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>市民レガッタ、ドッチビー、正月マラソン、インディアカ、スキーの5大会を計画通り開催し、概ね参加者数も目標値を達成できた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>更なる参加者数の増加のために、市報、ホームページ等により周知を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 4 生涯学びあい、スポーツを楽しめる社会の実現 | | ②スポーツ活動の推進 | | 担当課 | 経済部 スポーツ振興課 |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 成 度 |
| 体育表彰受賞者数 | 169 件 | 173 件 | 199 件 | 180 件 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>米子市体育協会表彰の特別賞、スポーツ賞およびスポーツ奨励賞の受賞について、受賞者数を 180 件に、受賞団体数を 43 団体にすることを目標とします。</p> <p>※現状値は、過去 5 年間（平成 22 年度～平成 26 年度）の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>H30.3.10 に計画通り米子市体育協会スポーツ表彰式を実施し、目標を超える 199 名の方々を表彰した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>米子市体育協会及び各学校からの推薦漏れがないよう周知徹底を図る。また、快適にスポーツ施設を使用していただくために、計画的な修繕に努めると共に、米子市体育協会と連携し、少年スポーツ教室、小学生大会、各種スポーツ大会を開催することにより、スポーツ振興に努め競技力の向上を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 4 生涯学びあい、スポーツを楽しめる社会の実現 | | ②スポーツ活動の推進 | | 担当課 | 経済部 スポーツ振興課 |
|--|--|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 体育表彰受賞団体数 | 39 団体 | 51 団体 | 58 団体 | 43 団体 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>米子市体育協会表彰の特別賞、スポーツ賞およびスポーツ奨励賞の受賞について、受賞者数を 180 件に、受賞団体数を 43 団体にすることを目標とします。</p> <p>※現状値は、過去 5 年間（平成 22 年度～平成 26 年度）の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>H30.3.10 に計画通り米子市体育協会スポーツ表彰式を実施し、目標を超える 58 団体を表彰した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>米子市体育協会及び各学校からの推薦漏れがないよう周知徹底を図る。また、快適にスポーツ施設を使用していただくために、計画的な修繕に努めると共に、米子市体育協会と連携し、少年スポーツ教室、小学生大会、各種スポーツ大会を開催することにより、スポーツ振興に努め競技力の向上を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 5 互いの人権を尊重しあう社会の実現 | | ① 社会における人権啓発の推進 | | 担当課 | 総合政策部 人権政策課 |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 人権問題に関する講演会、研究集会、懇談会等の参加者数 | 4,000 人 | 4,041 人 | 4,223 人 | 4,200 人 | A |
| 指 標 の 説 明 | 米子市人権・同和教育研究集会、人権教育地域懇談会、よなご人権フォーラム、誰でも人権アカデミー、企業・職域研修会への市民の参加者数を200人増やし、4,200人にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米子市人権・同和教育研究集会 705 人 ・人権教育地域懇談会 2,081 人 ・よなごの人権フォーラム 277 人 ・企業・職域研修会 960 人 ・誰でも人権アカデミー 200 人 <p>人権問題に関する講演会等について、開催内容の充実を図るとともに、市報やホームページ、啓発誌等での周知及び関係機関への参加依頼を積極的に行い、参加者等の増加を目指したところ、目標値を達成した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>人権問題に関する講演会等(よなごの人権フォーラム、米子市人権・同和教育研究集会、誰でも人権アカデミー、企業・職域研修会)について、参加者のニーズや社会状況に則した人権課題を勘案して講師を招請する。</p> <p>人権教育地域懇談会については、地域と周到な事前打合せを行い、地域の実情にあったテーマ選定やワークショップなど参加し易い開催形態を検討し、参加者の増加を目指す。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 6 男女がともに輝く社会の実現 | | ①男女共同参画の推進 | | 担当課 | 総合政策部 男女共同参画推進課 |
|--|---|-----------------|-----------------|--------------------|--------------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 審議会等委員に占める女性の割合 | 32.0% | 30.1% | 29.9% | 40% | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>「米子市男女共同参画推進条例」、「米子市審議会等委員選任基準」において、審議会などを構成する委員の男女いずれか一方が 40% 未満とならないよう定めています。</p> <p>女性人材バンクの活用などにより、女性委員の登用率を 40% まで引き上げることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米子市女性人材バンク登録者研修会の実施 ・米子市女性人材バンク登録者を審議会等委員に推薦 (審議会における女性人材バンク登録者数 14 名) | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>米子市女性人材バンクは市の事業や審議会などで女性人材を積極的に登用するための制度であるため、ホームページ、市報及びチラシ配布などを通じて募集広報に取り組み、登録者数の増加を図るとともに、登録者に対する研修会を実施し、資質の向上を図る</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 6 男女がともに輝く社会の実現 | | ①男女共同参画の推進 | | 担当課 | 総合政策部 男女共同参画推進課 |
|--|---|-----------------|-----------------|--------------------|--------------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 啓発講座参加率 | 76.9% | 114.6% | 83.3% | 100% | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>男女共同参画啓発講座（年8回開催）を市民ニーズの把握や講師選択の適正化などで魅力のある講座内容にすることによって、定員に対する参加率を100%にすることを目標とします。</p> <p>※1講座あたりの定員 30名</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>男女共同参画啓発講座参加者人数</p> <p>しゃべって未来や（5回） 延べ 89人（男17人 女72人）</p> <p>女性のパワーアップ講座（3回） 延べ 111人（女111人）</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>講座内容の充実した男女共同参画啓発講座を開催（しゃべって未来や5回・女性のパワーアップ講座3回）することにより、男女共同参画に対する市民意識の向上を図る。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

3 『こころ』がいきいき

| 6 男女がともに輝く社会の実現 | | ①男女共同参画の推進 | | 担当課 | 総合政策部 男女共同参画推進課 |
|---|---|-----------------|-----------------|--------------------|--------------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| かぶりあ祭参加人数 | 450 人 | 500 人 | 400 人 | 500 人 | D |
| 指 標 の 説 明 | 男女共同参画を推進するための市民の集う拠点施設である男女共同参画センターの充実を図るため、センター登録団体間や市民との交流や、団体の活動を発表する場である交流祭り（かぶりあ祭）の参加人数を500人にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>かぶりあ祭を男女共同参画センター利用登録団体を中心に開催した。</p> <p>開催日 平成30年3月11日</p> <p>場 所 米子市文化ホール（イベントホール、オープンスペース、研修室等）</p> <p>主な催し 合唱、気功太極拳、ミュージカル、登録団体パネル展示、お茶席等</p> <p>参加人数 延べ400人</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>男女共同参画の啓発を目的として引き続き、平成30年度もかぶりあ祭を開催する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 1 機能的で持続可能な都市環境づくり | | ①効率的で計画的な土地利用の推進 | | 担当課 | 総合政策部 都市創造課 |
|---|---|------------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 市街化区域内の都市的土地利用率 | 84.9% | - | 88.7% | 87% | A |
| 指 標 の 説 明 | 市街化区域内の都市的土地利用を促進し、都市的土地利用率を87%まで引き上げること为目标とします。 ※基準値は、平成24年度都市計画基礎調査結果に基づく都市的土地利用率です。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 都市計画マスタープランの案の作成を進めた。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 平成31年度の策定に向けて都市計画マスタープランのとりまとめを進める。 | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 1 機能的で持続可能な都市環境づくり | | ②機能的な市街地の形成 | | 担当課 | 都市整備部 都市整備課 |
|--|---|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 米子駅南北自由通路等整備事業の進捗率 | 1.9% | 4.0% | 6.4% | 65.9% | C |
| 指標の説明 | 平成27年度に事業着手した米子駅南北自由通路と駅南広場の整備について、平成34年度の完成にむけた進捗率（事業費換算）を指標とし、円滑な事業の進捗を図ることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>以下の業務等を実施し、事業の進捗を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅南広場の詳細設計を実施した。 ・ JR西日本及び現JR米子駅ビルに入居するテナントへの移転補償の一部を実施した。 ・ 米子駅南北自由通路等整備事業協議会を実施した。 <p>【第9回協議会】 平成29年8月2日 (構成：鳥取県統轄監、JR米子支社山陰地域振興本部副本部長、米子市副市長)</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、関係者と連携を図りながら平成34年度の事業完成を目指す。</p> <p>平成30年度 自由通路詳細設計の実施、JR西日本等に対する補償の実施 (～H34年度)</p> <p>平成32年度 自由通路工事着手 平成33年度 駅南広場工事着手 平成34年度 事業完了予定</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|---|--|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 1 機能的で持続可能な都市環境づくり | | ②機能的な市街地の形成 | | 担当課 | 下水道部 下水道営業課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 公共下水道水洗化戸数率 | 87.3% | 88.5% | 88.9% | 88.8% | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>本市の人口のうち、公共下水道を使えるようになった市民の割合です。</p> <p>公共下水道の計画的な整備を進めることにより、5年間で1.5ポイント増やし、88.8%にすることを目標とします。</p> <p>※公共下水道水洗化戸数率＝公共下水道接続済み戸数÷公共下水道供用開始済み区域内公共下水道接続可能戸数</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>1 戸別訪問：課題別に計画を立て、水洗化普及促進員による戸別訪問を実施した。</p> <p>2 市外在住者への文書依頼とアンケート調査を実施した。</p> <p>3 広報啓発：融資あっせん制度を戸別訪問時や市報及び市ホームページ等を活用してPRし、下水道への接続工事を促した。また、市内の小学生を対象に内浜処理場施設見学会及び下水道出前授業を実施した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>課題別に計画した戸別訪問を効率的に実施し、家主との面談の機会を増やすことで、未接続理由等の聴取や接続指導に繋げる。</p> <p>融資あっせん制度を戸別訪問時、市報、市ホームページ等で積極的にPRしていく。</p> <p>小学生対象の夏休みイベント等、関係機関と連携したイベントを充実させる。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|-----------------|-----------------|----------------|--------------|
| 2 快適でうるおいのある住環境づくり | | ① 良質な水の安定供給 | | 担当課 | 水道局 計画課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 水道管の耐震化率 | 13.38% | 15.45% | 16.13% | 16.75% | B |
| 指 標 の 説 明 | <p>地震災害時などの非常時において、その影響を最小限に抑え、水の安定供給を確保するため、耐震性を有する水道管の整備延長を進めることによって、耐震化率を3.37ポイント引き上げることを目標とします。</p> <p>※耐震化率＝耐震管路延長÷管路総延長</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成29年度の耐震管への布設替事業は、口径50mmから500mmまでの配水管を9967m更新し、年次的に耐震化を進めている。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>長期的な視点で効率的な資産管理を図ることが可能なアセットマネジメント計画を採用し、漏水の発生状況等の分析を行ったうえで、重要度・老朽度に応じた更新計画を立て、耐震管への更新を実施する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 2 快適でうるおいのある住環境づくり | | ② 道路網の整備 | | 担当課 | 都市整備部 都市整備課 |
|---|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 幹線市道安倍三柳線の整備延長 | 1,380m | 1,380m | 1,380m | 1,800m | C |
| 指 標 の 説 明 | 市道外浜街道線から県道両三柳西福原線（外浜産業道路）までの工事完成をめざします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>液状化対策としての、地盤改良工事を実施した。 また、JR 境線を跨ぐ橋梁に係る橋台を 1 基施工した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成 30 年度 橋台工 1 基（JR 委託工事）、函渠工、排水構造物工 平成 31 年度 橋梁上部工（JR 委託工事）、擁壁工、用地補償（県道部） 平成 32 年度 県道取付部改良工事（外浜産業道路）、舗装工 引続き、社会資本整備総合交付金の確保に努める。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80% 以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80% 未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|---------------|---------------|--------------------|----------------|
| 2 快適でうるおいのある住環境づくり | | ③都市公園・緑地の整備 | | 担当課 | 都市整備部 都市整備課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28 年度 実績値 | H29 年度 実績値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達成度 |
| 米子市公園施設 オーナー認定制度 (樹木のオーナー募集)による植樹数 | 67 件 | 97 本 | 127 本 | 142 本 | B |
| 指 標 の 説 明 | 本市が取組をはじめた平成 21 年度以降の植樹の総数です。公園施設の充実を図るとともに、公園への愛着をもっていただくことを目的に、樹木のオーナー募集を引き続き実施し、新たに 75 本植樹し、142 本にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 市報等で樹木のオーナーを募集し、湊山公園の緑の充実を図る。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 平成 29 年度で湊山公園での桜の植樹場所が確保できないため、樹種及び植樹場所の変更を検討し、本制度を継続に努める。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 2 快適でうるおいのある住環境づくり | | ③都市公園・緑地の整備 | | 担当課 | 都市整備部 都市整備課 |
|--|---|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 度 達 成 度 |
| 緑化活動団体への活動支援件数 | 127 件 | 146 件 | 154 件 | 187 件 | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>本市が取組をはじめた平成 17 年度以降の支援団体の総数です。 緑と花にあふれるまちづくりを推進するため、緑化活動に取り組む住民団体などが行う緑化活動の支援を行っています。 今後も市民との協働による緑化を進めるため、計画期間内にさらに 60 団体の活動を支援し、187 団体にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>市報等で募集し、8 件の緑化活動団体、まちづくり活動団体に公共施設の緑化を支援・推進したが、募集数の 10 件に到達できなかった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き緑化活動のため、緑化活動団体への支援を行う。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 2 快適でうるおいのある住環境づくり | | ④ 河川・海岸等の整備 | | 担当課 | 都市整備部 都市整備課 |
|---|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 準用河川堀川の整備延長 | 1,179m | 1,260m | 1,281m | 1,370m | C |
| 指 標 の 説 明 | 大沢川から市街化区域を流下し日本海に流れる準用河川堀川の整備を図り、計画期間内に事業完了することを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成 29 年度当初予算にて、堰（河川構造物）1基を施工中。（平成 30 年 12 月完工予定）</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、完成に向け整備を実施。</p> <p>平成 30 年度 法覆護岸工 L = 178m（事業完了）</p> <p>（平成 29 年度追加補正予算及び平成 30 年度当初予算にて実施）</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 2 快適でうるおいのある住環境づくり | | ⑤ 良好な市営住宅の提供 | | 担当課 | 都市整備部 住宅政策課 |
|---|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 長寿命化改善事業の実施棟数 | 0 棟 | 1 棟 | 1.6 棟 | 8 棟 | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>本市が取組をはじめた平成 24 年度以降に長寿命化を実施した総数です。</p> <p>老朽化の進む市営住宅の改善を図るため、平成 24 年に策定した「米子市営住宅長寿命化計画」に基づき長寿命化改善事業を実施し、計画期間内に 8 棟の改善を図ることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>市営河崎住宅の長寿命化改善工事（給湯設備改修・バリアフリー改修等）として 1 棟目の事業に着手した。事業着手は 10 月からであり事業は 2 年度にわたる予定であるが、29 年度予定の工事については完了している。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>市営河崎住宅の長寿命化改善については、市営住宅長寿命化計画の見直しを行ったうえで実施して行きたい。その他の住宅については、国の交付金の配分状況にもよるが、事業実施が可能となるよう国に要望していく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 3 環境共生・資源循環型の地域社会づくり | | ①低炭素社会づくりの推進 | | 担当課 | 市民生活部 環境政策課 |
|--|--|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 市内の太陽光発電設備 (10kw未満) 導入容量 | 11,469kw | 12,305kw | 12,981kw | 16,200kw | C |
| 指 標 の 説 明 | 住宅用太陽光発電の設置に対する支援を行うことによって、主に住宅に設置される10kw未満の太陽光発電設備の市内の導入容量を4,700kw増やし、16,200kwにすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 H29年度 補助実績 132件 計676KW | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 平成30年度も平成29年度と同等の申請数(約130件)の見込みで、今後も一定の需要があると推測されるため、引き続き事業を継続する。一方で太陽光発電に対する状況は、目標設定時と変わってきているが、低炭素社会づくり推進のため、導入容量拡大の補助を行う。 | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)
- C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 3 環境共生・資源循環型の地域社会づくり | | ③環境美化の推進 | | 担当課 | 市民生活部 クリーン推進課 |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|------------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 1 人 1 日あたりのごみ排出量 | 996g/人・日 | 965g/ 人・日 | 946 g / 人・日 | 980g/人・ 日 | A |
| 指 標 の 説 明 | 1 人 1 日あたりのごみ排出量は平成 21 年度以降微減傾向にありますが、類似団体などと比較して、依然として多い状況が続いていることから、1 人 1 日あたりのごみ排出量を 16 g 削減し、980 g にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>ごみ情報誌「よなごみ通信」や「広報よなご」内の環境掲示板などを通してレジ袋の削減など、ごみ減量の啓発に努めた。また、ダンボール堆肥作り入門セットの配布などを通じ、生ごみ削減に取り組んだ。結果として、特に家庭系ごみについて、削減目標を大きく達成することができた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>目標は達成しているが、内訳を見ると、家庭系ごみについては削減目標を大きく達成しているものの、事業系ごみについてはほぼ目標値どおりとなっている。</p> <p>事業系ごみについてはさらなる削減が必要となることから、事業者に対してごみを減量するよう働きかけていく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 3 環境共生・資源循環型の地域社会づくり | | ②循環型社会作りの推進 | | 担当課 | 市民生活部 クリーン推進課 |
|--|---|--------------|--------------|--------------|------------------|
| 指標名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| ごみのリサイクル率 | 17.7% | 18.1% | 17.6% | 17.7% | D |
| 指標の説明 | 古紙類などの資源物の排出量の減少などによりリサイクル率は減少から横ばいの傾向となっておりますが、引き続きごみの分別の徹底を図るとともに、有用資源の再生利用を推進することによって、平成26年度の水準を保つことを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>ごみの分別収集、資源ごみ回収運動推進事業（集団回収）や米子市クリーンセンターから排出される焼却灰のセメント原料化等を実施するとともに、平成29年10月から米子市クリーンセンターから排出される飛灰のセメント原料化を開始した。その結果、古紙類の収集量が大幅に減少する中、ほぼ目標を達成することができた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>古紙類の収集量の大幅減、集団回収量の減などにより、今後リサイクル率が低下していくことが予想される。缶・ビン類やペットボトルの不燃ごみへの混入防止啓発や、小型家電リサイクルの活用啓発などにより、リサイクル率の低下を最小限にとどめるよう努めていく。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 3 環境共生・資源循環型の地域社会づくり | | ②循環型社会づくりの推進 | | 担当課 | 市民生活部 クリーン推進課 |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|------------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| ごみの最終処分率 | 6.4% | 6.9% | 5.5% | 5.7% | A |
| 指 標 の 説 明 | ごみの最終処分量は溶融スラグの利用量により増減がありますが、ごみの減量化および再生利用を推進することにより、現状から0.7ポイント削減し、5.7%にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子市クリーンセンターから排出される焼却灰のセメント原料化を実施するとともに、平成 29 年 10 月から新たに米子市クリーンセンターから排出される飛灰のセメント原料化を開始し、リサイクルの推進に取り組んだ。その結果、最終処分量が減少し、最終処分率も目標値を上回ることができた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、ごみの減量及びリサイクルの推進に努める。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 4 豊かな自然環境の保全と共生 | | ①自然環境の保全 | | 担当課 | 市民生活部 環境政策課 |
|---|---|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 環境学習で米子水鳥公園を利用した市内小学生の人数 | 544 人 | 795 人 | 1023 人 | 1,300 人 | C |
| 指 標 の 説 明 | 「なかうみ環境学習事業」を活用して、米子水鳥公園ネイチャーセンターで環境学習を行った市内小学校の児童数を、1,300 人にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>○市内の小学校 15 校（1023 人）が実施（全 24 校）</p> <p>○本市の環境学習の拠点と位置づける水鳥公園を活用して、子どもたちに中海をはじめとする自然環境に触れる機会を提供することができ、利用された学校からも好評価をいただいた。</p> <p>○「中海」という本市の重要な環境資源について、実際に見て、触れて、肌で感じるにより自然について興味、関心、理解を深め環境配慮の意識の育成に寄与することができた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>○年度当初に、小学校の環境学習指導教員への周知徹底・啓発を行う。</p> <p>○年度途中に、未利用の小学校に連絡し制度を再度周知するとともに活用状況について確認を行う。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80% 以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80% 未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 4 豊かな自然環境の保全と共生 | | ①自然環境の保全 | | 担当課 | 市民生活部 環境政策課 |
|---|---|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| よなご環境フェスタの入場者数 | 1,200 人 | 2,200 人 | 430 人 | 1,600 人 | D |
| 指 標 の 説 明 | <p>米子市主催で環境保護団体などとの連携で行う市民向け環境啓発イベント「よなご環境フェスタ」の入場者数です。</p> <p>これまでの倍以上の入場者数を記録した平成 26 年度の入場者数を維持することを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>NPO 法人主催で開催される同様の環境啓発イベントである「中海環境フェア」との統合を視野に、テストケースとして、当該イベントと同一日同一場所にて開催した。会場でのアンケート結果では、同一日同一場所での開催について肯定的な意見が 91%、総合満足度も満足 77%、やや満足 16%と、概ね好評であった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成 30 年度からは、NPO 法人及び鳥取県との共催事業として行うこととし、実行委員会形式により、具体的な内容等の検討を行う。事業の実施形態を変更したことにより、数値の見直しが必要。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|--------------------|--------------|--------------|----------------|
| 4 豊かな自然環境の保全と共生 | | ② 中海の湿地環境の保護と賢明な利用 | | 担当課 | 市民生活部 環境政策課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 米子水鳥公園ネイチャーセンター入館者 | 19,831人 | 18,167人 | 19,409人 | 23,000人 | D |
| 指標の説明 | 小学生の環境学習の誘致やとっとり自然環境館などの近隣環境学習施設との連携などを図ることによって、米子水鳥公園ネイチャーセンターへの入館者数を、年間23,000人にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 前年度に数値を減少させた原因と思われる鳥インフルエンザは発生せず、ほぼ例年の入館者数に落ち着いた。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 自然環境を保全することを目的とした施設であることから、天候や鳥インフルエンザ等の影響をうけることは否めない。施設のあるべき姿を見直し、入館者数を成果指標とせず、研究発表や新聞報道などの情報発信を指標とすることも検討。 ※平成30年度については、入館者数を目標値とする。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 4 豊かな自然環境の保全と共生 | | ② 中海の湿地環境の保護と賢明な利用 | | 担当課 | 市民生活部 環境政策課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 度 達 成 度 |
| 中海・宍道湖一 斉清掃（米子会 場）の参加者数 | 1,029 人 | 1,184 人 | 1264 人 | 1,050 人 | A |
| 指 標 の 説 明 | 毎年 6 月に国、鳥取・島根両県および沿岸 5 市で一体となって実施している「中海・宍道湖一斉清掃」米子会場の参加者数を 1,050 人にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成 28 年度は、米子会場がメイン会場であったことから、式典等もあり参加者が目標を上回ったと考えられたが、平成 29 年度は米子市単独開催であったが目標の 1050 人を上回る 1264 人であった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>継続的に実施している事業であり、定着しつつある取り組みである。引き続き、参加人数を維持していくため、個人や企業に周知していく。一方で、会場周辺の駐車スペースに限りがあり、これ以上の人数増加を目指すことは難しい一面がある。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|-----------------|--------------|--------------|----------------|
| 4 豊かな自然環境の保全と共生 | | ③ 公共用水域の水質浄化の推進 | | 担当課 | 市民生活部 環境政策課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 第6期中海水質 保全計画水質目 標値 COD(75% 値) | 5.0mg/L | 4.9mg/L | 4.9mg/L | 5.1mg/L | A |
| 指 標 の 説 明 | 中海の水質浄化対策については、国、県及び関係市などが連携し、第六期中海水質保全計画（平成26～30年度）に基づき、各種水質保全施を総合的に推進しており、本市総合計画における目標を、水質保全計画の水質目標とする。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公共下水道などの整備・接続の普及啓発、合併処理浄化槽の普及促進 ○ 浄化槽の適正管理指導 ○ 環境にやさしい農業の普及啓発、農業用排水路の泥上げ(新山、奥谷、石井) ○ 側溝、管渠、道路などの清掃(市内一斉清掃、街角清掃の奨励、市道側溝暗渠清掃業務) ○ 河川(北・南崎津川、四反田川など)の浚渫、清掃、除草 ○ 生活排水対策啓発(生活排水対策講習会の実施) ○ 環境学習の推進(米子水鳥公園の利活用、なかうみ環境学習事業) ○ 公共用水域の水質等調査(崎津承水路、中海、加茂川) ○ 油類流出事故応急対応 | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度までは、水質保全計画の目標値に変更は無く、上記事業を継続する。 ○ 平成31年度からは、再設定される水質保全計画目標値を新たな数値目標とし、次期水質保全計画に盛り込まれた事業を推進する。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|--------------------|------------------|--------------------|----------------|
| 4 豊かな自然環境の保全と共生 | | ③ 公共用水域の水質浄化の推進 | | 担当課 | 市民生活部 環境政策課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H 2 8 年 度 実 績 値 | H29 年 度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 第 6 期 中 海 水 質 保 全 計 画 水 質 目 標 値 全 窒 素 (平 均 値) | 0.58mg/L | 0.59mg/L | 0.51mg/L | 0.46mg/L | C |
| 指 標 の 説 明 | 中海の水質浄化対策については、国、県及び関係市などが連携し、第六期中海水質保全計画（平成26～30年度）に基づき、各種水質保全施を総合的に推進しており、本市総合計画における目標を、水質保全計画の水質目標とする。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 ○公共下水道などの整備・接続の普及啓発、合併処理浄化槽の普及促進 ○浄化槽の適正管理指導 ○環境にやさしい農業の普及啓発、農業用排水路の泥上げ(新山、奥谷、石井) ○側溝、管渠、道路などの清掃(市内一斉清掃、街角清掃の奨励、市道側溝暗渠清掃業務) ○河川(北・南崎津川、四反田川など)の浚渫、清掃、除草 ○生活排水対策啓発(生活排水対策講習会の実施) ○環境学習の推進(米子水鳥公園の利活用、なかうみ環境学習事業) ○公共用水域の水質等調査(崎津承水路、中海、加茂川) ○油類流出事故応急対応 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 ○平成30年度までは、水質保全計画の目標値に変更は無く、上記事業を継続する。 ○平成31年度からは、再設定される水質保全計画目標値を新たな数値目標とし、次期水質保全計画に盛り込まれた事業を推進する。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|--|---|-----------------|----------------|----------------|----------------|
| 4 豊かな自然環境の保全と共生 | | ③ 公共用水域の水質浄化の推進 | | 担当課 | 市民生活部 環境政策課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 第6期中海水質 保全計画水質目 標値全りん(平 均値) | 0.052mg/L | 0.064mg/L | 0.054 mg/L | 0.046mg/L | D |
| 指 標 の 説 明 | 中海の水質浄化対策については、国、県及び関係市などが連携し、第六期中海水質保全計画（平成26～30年度）に基づき、各種水質保全施を総合的に推進しており、本市総合計画における目標を、水質保全計画の水質目標とする。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 ○公共下水道などの整備・接続の普及啓発、合併処理浄化槽の普及促進 ○浄化槽の適正管理指導 ○環境にやさしい農業の普及啓発、農業用排水路の泥上げ(新山、奥谷、石井) ○側溝、管渠、道路などの清掃(市内一斉清掃、街角清掃の奨励、市道側溝暗渠清掃業務) ○河川(北・南崎津川、四反田川など)の浚渫、清掃、除草 ○生活排水対策啓発(生活排水対策講習会の実施) ○環境学習の推進(米子水鳥公園の利活用、なかうみ環境学習事業) ○公共用水域の水質等調査(崎津承水路、中海、加茂川) ○油類流出事故応急対応 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 ○平成30年度までは、水質保全計画の目標値に変更は無く、上記事業を継続する。 ○平成31年度からは、再設定される水質保全計画目標値を新たな数値目標とし、次期水質保全計画に盛り込まれた事業を推進する。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|-------------|
| 4 豊かな自然環境の保全と共生 | | ③ 公共用水域の水質浄化の推進 | | 担当課 | 下水道部 施設課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 浄化槽の法定検査受検率 | 47.64% | 49.21% | 52.74% | 55% | C |
| 指 標 の 説 明 | 浄化槽法第 11 条により年 1 回の実施が義務付けられている県の指定検査機関による浄化槽の定期検査の受検率を、毎年 1.5 ポイント引き上げ、55%にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>浄化槽法において、浄化槽管理者には、年 3～4 回の保守点検、年 1 回以上の浄化槽汚泥の清掃、及び年 1 回の法定検査が義務付けられている。</p> <p>このうち、法定検査は放流水の水質検査にあたるもので、指定検査機関（鳥取県保健事業団）から受検申込書が管理者へ送付されますが、受検を申し込まない者に対し、受検を促すよう市から通知を行った。（平成 29 年度通知件数 3, 910 件）</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>今後も法定検査の未受検者に対しては、鳥取県保健事業団と情報共有し指導を行っていく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 4 豊かな自然環境の保全と共生 | | ④森林資源の保全と育成 | | 担当課 | 経済部 農林課 |
|---|--|-----------------|-----------------|--------------------|------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 市域面積における総林野面積の占有率 | 21.6% | 21.6% | 21.6% | 21% | A |
| 指 標 の 説 明 | 市有林地の保育・維持管理や適切な松くい虫・ナラ枯れ被害対策を行うことによって、市域面積に占める総林野面積（鳥取県林業統計）の占有率の現状値を維持することを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成 29 年度実施事業</p> <p>市有林地の保育・維持管理</p> <p>淀江町西原海岸保安林の下草刈り 1 ha</p> <p>松くい虫等防除事業</p> <p>空中防除 1 7 9 ha（防除面積）</p> <p>伐倒駆除 4 0 . 8 6 7 m³（被害材積処理）</p> <p>特別伐倒駆除 8 0 . 3 0 6 m³（被害材積処理）</p> <p>ナラ枯れ被害対策（被害木の立木くん蒸処理）</p> <p>※ 米子市の総土地面積 13,242 ha 総林野面積 2,855 ha 割合 2 1 . 6 %</p> <p>※ 平成 29 年度の林業統計面積の数値が出ていないため、平成 28 年度の統計面積を表記しています。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成 32 年度を目標とし引続き、森林の荒廃を防ぐため、市有林地の保育・維持管理を計画的に行うとともに、森林病虫害による被害蔓延防止のため、予防措置と駆除措置を組み合わせ、適切な被害対策を実施していく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している（達成率 80% 以上）
- C = 進捗はしているが（達成率 80% 未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|--------------|
| 5 災害に強い地域づくり | | ① 消防・防災体制の充実 | | 担当課 | 総務部 防災安全課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 消防団員数 | 518 人 | 518 人 | 519 人 | 530 人 | C |
| 指 標 の 説 明 | <p>毎年1月1日時点における米子市消防団の団員数です。 消防体制の充実・強化を図るため、条例で定めた定員数を充足させる必要があることから、消防団員を12人増やし、530人にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>防災フェスタ、地区のイベント等で消防団募集のチラシを配り、広報活動に努めた。</p> <p>米子高専専門学校において、学生を対象に防災講義を行い、消防団の理解を深めることで加入促進を努めた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、防災講習やイベント活動において広報を行い、入団促進に努める。より多くの若い世代に消防団について知ってもらうため、米子高等専門学校での防災講義のような学校でのPRを進めていく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|-----------------|-----------------|--------------------|--------------|
| 5 災害に強い地域づくり | | ① 消防・防災体制の充実 | | 担当課 | 総務部 防災安全課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 自主防災組織の 結成率 | 54% | 57% | 64% | 64% | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>地域住民による「自主防災組織」の結成状況（自治会加入世帯数に対する自主防災組織の構成世帯数の割合）です。</p> <p>広範囲にわたる災害が発生した場合、救急、救助、消火などの活動については、地域住民による「自助・共助」が重要であることから、自主防災組織の結成率を 10 ポイント引き上げ、64%にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>自主防災組織未結成自治会を訪問し、結成についての説明や今後の防災活動をどのようにしていけばよいか等の個別啓発を実施した。</p> <p>その結果、例年と比較し著しく結成団体数が増加した。(29年度21団体結成)</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>前年度同様、継続して自主防災組織未結成自治会を訪問し、個別啓発を積極的に行っていく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 5 災害に強い地域づくり | | ②防災対策の強化 | | 担当課 | 総務部 防災安全課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 防災行政無線施設の屋外拡声子局の新設・更新設置箇所数 | - | 42箇所 | 50箇所 | 258箇所 | C |
| 指 標 の 説 明 | 難聴地区の解消、市内全域の一元的な施設運用を図るため、老朽化が進んでいる防災行政無線の改修を進め、平成32年度までに市内全ての屋外拡声子局の新設・更新を完了することを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>防災行政無線更新工事（第2期）により屋外拡声子局50箇所の更新をした。</p> <p>【実施地区】</p> <p>崎津の一部、富益、夜見、巖の一部、春日、大高、県</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>難聴地区の解消、市内全域の一元的な施設運用を図るため、老朽化が進んでいる防災行政無線の改修を進め、平成32年度までに市内全ての屋外拡声子局の新設・更新を完了することを目標とします。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|---|---|---------------|--------------|--------------|----------------|
| 5 災害に強い地域づくり | | ③新たな危機への対応の強化 | | 担当課 | 総務部 防災安全課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 度 達 成 度 |
| 地域防災計画 (原子力災害対策編)および広域住民避難計画の住民説明会年間開催回数 | 18回 | 20回 | 21回 | 25回 | C |
| 指標の説明 | 地域防災計画や広域住民避難計画などを周知するため、UPZ圏内の9地区を中心に開催する住民説明会の年間開催回数を7回増やし、25回にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>主にUPZ(島根原子力発電所から30km以内の区域)圏内の各所において説明を行った。とりわけ、原子力防災訓練を行う夜見地区においては重点的に実施した。</p> <p>UPZ圏外の住民に対しては、有事に広域的な防災対策を行う島根県原子力防災センターや島根原子力発電所を見学できる「原子力防災現地研修会」や、原子力防災に関して必要な知識を身に付けるための「原子力防災講演会」を開催するのに併せて周知を図った。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>昨年度同様、UPZ圏内及び圏外向けにそれぞれ周知する機会を設ける。</p> <p>また、今年度から開始する予定の安定ヨウ素剤の事前配布に併せて説明会を実施するなど、より有効な周知方法を検討していく。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)
- C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| | | | | | |
|--|--|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 6 安全に暮らせる地域環境づくり | | ②交通安全対策の推進 | | 担当課 | 市民生活部 生活年金課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 交通事故年間発生件数 | 389件 | 294件 | 321件 | 350件 | A |
| 指標の説明 | 交通安全施設の整備や、交通安全意識の高揚、交通安全教育の推進など交通安全対策の推進に努め、本市における交通事故の発生件数を10%引き下げ、350件にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>警察、交通安全関係諸団体はもとより、様々な分野の人と連携、協力し、年4回の交通安全運動や交通イベントなど幅広い階層の市民への啓発活動が効果的となった。</p> <p>交通安全の環境づくりに向けた取組については、全体的には概ね計画どおり順調に進捗したといえる。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>交通安全対策は、「くるま社会」の進展、高齢化社会の進行など、道路交通を取り巻く情勢の変化が進む現代において、強力に推進する必要があるため、今後も、啓発活動及び広報活動を継続的に実施し、市民の交通安全に対する意識の高揚を図ることによって、さらなる交通事故の減少につなげていく必要がある。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 7 公共交通の充実・確保 | | ①バス交通網の確保・鉄道輸送の充実 | | 担当課 | 総合政策部 都市創造課 |
|---|---|-------------------|-----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 米子市を通る バス路線数 | 39 路線 | 39 路線 | 39 路線 | 39 路線 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>日常的な公共交通を確保するため、米子市を通るバス路線（路線バス・循環バス「だんだんバス」・巡回バス「どんぐりコロコロ」）の維持に努め、現在のバス路線数を維持することを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>○環境フェスタにおいて、公共交通の啓発活動を行った。</p> <p>○循環バスをゴールデンウィーク及び米子がいな祭期間中に乗車料金無料にて運行した。</p> <p>○巡回バスで地元園児の絵を展示したギャラリーバスを実施した。</p> <p>○鳥取県西部地域公共交通活性化協議会に参加し、「鳥取県西部地域公共交通再編実施計画」の策定のための協議を行った。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>鳥取県西部地域公共交通活性化協議会にて、「鳥取県西部地域公共交通再編実施計画」を平成 30 年度中に策定し、鳥取県及び関係行政機関等との連携を図りながら、広域路線の強化のための取組を進めていく。また、庁内のプロジェクトチームにて市内の公共交通の今後の在り方についての検討を引き続き実施していく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

4 『ふるさと』がいきいき

| 7 公共交通の充実・確保 | | ② 航空輸送の充実 | | 担当課 | 総合政策部 都市創造課 |
|--|---|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 羽田線の搭乗者数 | 463,000 人 | 571,815 人 | 579,899 人 | 513,000 人 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>広域的な交流基盤である航空路の利用促進を図り、米子空港の羽田線の搭乗者数を、過去4年間（平成23年度～平成26年度）の平均値から、5万人増やし、513千人にすることを目標とします。 ※現状値は、平成23年度～平成26年度の平均値</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>1 東京（羽田）線利用客数の増加 東京（羽田）線の週6便運航及び一部機材の大型化（平成29年7月～10月）により利用客数が増加した（利用客数前年比：101.4%）。</p> <p>2 米子空港の利用促進に資する取組の実施 米子空港利用促進懇話会を通じて、以下の利用促進に資する取組を展開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ANA山陰支店及び国内大手旅行会社と連携した首都圏発の旅行商品造成支援 ○WEB系旅行サイトと連携した旅行商品造成支援 ○雑誌・新聞広告等による路線・空港PRの実施 ○観光イベント等での路線・空港PRの実施 ○鳥取県内国内便エアサポート支援事業の実施 ○米子鬼太郎空港レンタカー助成事業の実施 | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、米子空港利用促進懇話会を通じた旅行商品造成支援や路線・空港PR等の空港利用促進に資する取組を展開することにより、東京（羽田）線の利用拡大につなげていく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| | | | | | |
|---|---|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 1 市民が主体となったまちづくり | | ①市民参画と協働の推進 | | 担当課 | 総合政策部 地域振興課 |
| 指標名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| まちづくり活動 支援交付金交付 団体数 | 64 団体 | 71 団体 | 75 団体 | 104 団体 | C |
| 指標の説明 | <p>本市が取組をはじめた平成 18 年度以降の支援団体の総数です。</p> <p>まちづくり活動を行う市民活動団体を支援するため、まちづくり活動支援交付金を交付する団体数を、40 団体増やし、104 団体にすることを目標とします。</p> <p>※現状値は平成 18 年度（開設時）～平成 29 年度の累計値</p> | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年 4 月 3 日から 4 月 28 日まで申請受付し、3 団体から申請があった。 ・6 月 2 日外部委員による審査会を開催し、申請団体のプレゼンによる審査を実施。 ・交付決定団体は 3 団体（がいな活動コース 2 団体、継続活動コース 1 団体）で申請したすべての団体に交付金を交付した。 ・平成 29 年 8 月 1 日から 8 月 16 日まで申請受付し、2 団体から申請があった。 ・10 月 10 日外部委員による審査会を開催し、申請団体のプレゼンによる審査を実施。 ・交付決定団体は 1 団体（ちょっこし活動コース）で交付金を交付した。 | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、平成 29 年度中の取組を継続する。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80% 以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80% 未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 1 市民が主体となったまちづくりの推進 | | ①市民参画と協働の推進 | | 担当課 | 総合政策部 地域振興課 |
|---|--|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| ボランティア センター登録 団体数 | 91 団体 | 98 団体 | 110 団体 | 106 団体 | A |
| 指 標 の 説 明 | 平成 26 年のボランティア登録更新手続き後の登録団体数です。 米子市ボランティアセンターに登録している団体数を、15 団体 増やし、106 団体にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| 米子市社会福祉協議会に業務委託し、ボランティアセンターを開設して、ボランティア活動に関する市民啓発及び相談調整として、講座や研修会の開催、月間ボランティア情報誌の発行や、ボランティア登録を行うことにより団体からの相談や団体間の連絡調整、研修室や各種機材の貸し出しなど、ボランティア団体がさらに活動しやすくなるように努めたことにより、登録団体数が増加した。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 引き続き、平成 29 年度中の取組を継続する。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 1 市民が主体となったまちづくりの推進 | | ①市民参画と協働の推進 | | 担当課 | 総合政策部 地域振興課 |
|---|---|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| ボランティアセンター登録人数 | 3,330 人 | 3,898 人 | 4,201 人 | 3,630 人 | A |
| 指 標 の 説 明 | 平成 26 年のボランティア登録更新手続き後の登録人数です。 米子市ボランティアセンターの登録人数を、300 人増やし、 3,630 人にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| 米子市社会福祉協議会に業務委託し、ボランティアセンターを開設して、ボランティア活動に関する市民啓発及び相談調整として、講座や研修会の開催、月間ボランティア情報誌の発行や、ボランティア登録を行うことにより団体からの相談や団体間の連絡調整、研修室や各種機材の貸し出しなど、ボランティア団体がさらに活動しやすくなるように努めたことにより登録人数が増加した。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 引き続き、平成 29 年度中の取組を継続する。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80% 以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80% 未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| | | | | | |
|--|---|--------------|--------------|--------------|----------------|
| 1 市民が主体となったまちづくりの推進 | | ② 市民自治活動の推進 | | 担当課 | 総合政策部 地域振興課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 「地域づくりマニュアル」を活用して地域づくりに取り組む地区数 | 2地区 | 2地区 | 2地区 | 12地区 | D |
| 指標の説明 | 本市が取組をはじめた平成27年度以降の地区の総数です。 平成27年度に車尾、永江の2地区の取組を参考にした事例をもとに、地域づくりに取り組む地区を、毎年2地区ずつ増やし、12地区にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成28年度から他の2地区（福生東・福生西）において地域の自主的、自立的なまちづくりを目指して活動に取り組んだが、他の地区には、まだ広がりを見せていない。地域によって事情が異なるため、「地域づくりマニュアル」の内容について再検討が必要である。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域づくりマニュアル」の内容について再検討する。 ・平成29年度中の取組について引き続き継続する。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）
- C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 1 市民が主体となったまちづくりの推進 | | ②市民自治活動の推進 | | 担当課 | 総合政策部 地域振興課 |
|---|--|-----------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 自治会加入率 | 63.98% | 62.84% | 62.36% | 65%以上 | D |
| 指 標 の 説 明 | 新設の集合住宅などでは自治会に加入しない傾向が見られるなど、全市の自治会加入率は減少傾向にあることから、自治会への加入促進を支援することによって、現状の自治会加入率を維持・向上することを目標とします。 | | | | |
| 【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| 米子市自治連合会と連携して、自治会運営の手引を作成して全自治会長に配布したほか、異動の多い3月に自治会加入促進窓口を開設し、自治会加入促進活動を実施した。また、「自治会への加入の促進に関する協定書」を締結している鳥取県宅地建物取引業協会西部支部での、不動産を取得する方や、賃貸契約者に自治会加入のチラシを配布してもらうことにより自治会加入の促進活動を図った。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 引き続き、平成 29 年度中の取組を継続する。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 2 透明で開かれた市政の推進 | | ② 広報の充実と市政提案制度の推進 | | 担当課 | 総務部 秘書広報課 |
|---|--|-------------------|-----------------|--------------------|--------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 市ホームページ(全体)年間閲覧数 | 4,819,326 件 | 5,059,056 件 | 5,070,296 件 | 5,060,292 件 | A |
| 指 標 の 説 明 | スマートフォンなどの普及により、インターネットを利用した広報の必要性はますます高まっていることから、インターネット広報の一番大きな柱である市のホームページの全体閲覧数を5%引き上げ、5,060,292件以上にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>全庁的に即時性のある情報発信に取り組み、ホームページでの情報提供を行った。また、広報よなごや、Facebook、Twitter や LINE 等のソーシャルメディアの本市アカウントから市ホームページへの誘導を図った。</p> <p>その結果、市ホームページ全体の閲覧数について、上記指標の基準年度とした26年度と比べて5%以上増加した。このことから、市民等の市ホームページの活用は進んでいると考えられる。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、全庁的に、即時性のある情報発信に取り組む。また、本市のソーシャルメディアアカウントについて、広報よなごや名刺等を用いて積極的な周知を図ることでフォロワー(購読者)数を増やすとともに、親しみやすく画像等を多用したコンテンツとするよう努める。これにより、それらアカウントからの誘導先としての、ホームページへのアクセス数増加をめざす。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C = 進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5いきいきとした『まちづくり』

| | | | | | |
|---|--|----------------|----------------|--------------------|--------------|
| 3次世代につなげる行財政基盤の確立 | | ②持続可能な財政基盤の確立 | | 担当課 | 総務部 財政課 |
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 市債未償還残高の低減（臨時財政対策債等特別債を除く普通会計） | 427億円 | 392億円 | 378億円 | 380億円 以 下 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>新たな市債発行の抑制などにより市債未償還残高を、計画期間内に380億円以下まで低減することを目標とします。</p> <p>※市債未償還残高…公共事業などを実施するために借り入れたお金の残高を表します。</p> <p>※目標値は、「平成27年度米子市中期財政見通し」をもとに設定した数値です。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>投資的事業を精査することで、市債の発行を可能な限り抑制し、市債未償還残高の低減に努めた。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、投資的事業の精査に努めつつ計画的な市債の発行により、市債未償還残高の低減を図る。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5いきいきとした『まちづくり』

| | | | | | |
|--|---|---------------|--------------|--------------|------------|
| 3次世代につなげる行財政基盤の確立 | | ②持続可能な財政基盤の確立 | | 担当課 | 総務部 財政課 |
| 指標名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 財政健全化判断比率の健全性の維持 ① 実質赤字比率 | 0%未満 | 0%未満 | 0%未満 | 0%未満 | A |
| 指標の説明 | <p>計画期間内において、財政健全化法に基づく実質赤字比率の0%未満を維持することを目標とします。</p> <p>※財政健全化判断基準…自治体の財政健全度を示す指標として国が法律で定めたものです。</p> <p>※実質赤字比率…一般会計を対象とした実質赤字の標準財政規模（地方公共団体の標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般財源の規模）に対する比率を表します。</p> <p>※目標値は、「平成27年度米子市中期財政見通し」をもとに設定した数値です。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>数値目標の達成に向け、経常的経費のシーリング（△3%）や市税等の収入確保等を実施した結果、平成29年度においても、実質赤字は生じていない。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、歳入においては、遊休地の売却や市有財産の有効活用等、新たな財源確保に努めるとともに、市税等の徴収率の向上等の滞納対策に取り組む。また、歳出においては、経常的経費におけるマイナスシーリング、事務事業の精査、補助金等の見直しのほか、新規事業の実施に当たっては、既存施策の見直しやスクラップ・アンド・ビルドの徹底に取り組む。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| | | | | | |
|--|---|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 3次世代につなげる行財政基盤の確立 | | ②持続可能な財政基盤の確立 | | 担当課 | 総務部 財政課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 財政健全化判断 比率の健全性の 維持 ② 連結実質赤 字比率 | 0%未満 | 0%未満 | 0%未満 | 0%未満 | A |
| 指 標 の 説 明 | <p>計画期間内において、財政健全化法に基づく連結実質赤字比率の0%未満を維持することを目標とします。</p> <p>※連結実質赤字比率…全会計を対象とした実質赤字の標準財政規模(地方公共団体の標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般財源の規模)に対する比率を表します。</p> <p>※目標値は、「平成27年度米子市中期財政見通し」をもとに設定した数値です。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>数値目標の達成に向けて、特別会計の経営健全化への取組を進めた結果、平成29年度においても連結実質赤字は生じていない。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、各特別会計において事業運営方法等を見直し、収入の積極的な確保や徹底した経費の縮減を図ることにより、業務の効率化と収支の改善を図り、連結実質赤字が生じないように努めていく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| | | | | | |
|--|--|---------------|--------------|--------------|------------|
| 3次世代につなげる行財政基盤の確立 | | ②持続可能な財政基盤の確立 | | 担当課 | 総務部 財政課 |
| 指標名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標達成度 |
| 財政健全化判断比率の健全性の維持 ③ 実質公債費比率 | 16.8% | 13.6% | 11.9% | 14%未満 | A |
| 指標の説明 | <p>計画期間内において、財政健全化法に基づく実質公債費比率を14%未満に低減することを目標とします。</p> <p>※実質公債費比率…地方債の元利償還金などのうち、一般会計などが負担した額の標準財政規模（地方公共団体の標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般財源の規模）に対する比率を表します。</p> <p>※目標値は、「平成27年度米子市中期財政見通し」をもとに設定した数値です。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>新規の投資的事業の精査に継続して取り組んできた結果、対前年度で1.7ポイントの良化となった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>継続的に新規の投資的事業の精査に努めたことにより、実質公債費比率は徐々に良化しているものの、他の類似団体との比較においては依然として高い水準であるため、引き続き、投資的事業の適正化を徹底し、公債費負担の抑制に努めていく。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）
- C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| | | | | | |
|---|--|---------------|--------------|--------------|------------|
| 3次世代につなげる行財政基盤の確立 | | ②持続可能な財政基盤の確立 | | 担当課 | 総務部 財政課 |
| 指標名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 財政健全化判断 比率の健全性の 維持 ④ 将来負担比 率 | 153.5% | 124.8% | 117.2% | 135%未満 | A |
| 指標の説明 | <p>計画期間内において、財政健全化法に基づく将来負担比率を135%未満に低減することを目標とします。</p> <p>※将来負担比率…地方債の残高などのように一般会計などが将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模(地方公共団体の標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般財源の規模)に対する比率を表します。</p> <p>※目標値は、「平成27年度米子市中期財政見通し」をもとに設定した数値です。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>数値目標の達成に向けて、市債発行の抑制や、特別会計の健全化に取り組んだ結果、平成29年度の将来負担比率は、平成28年度の124.8%から7.6ポイント良化した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成25年度に第三セクター等改革推進債の発行があったものの、これまで継続的に新発債を抑制してきたこと等により、将来負担比率を良化させてきている。しかしながら、他の類似団体と比べて依然として高い水準のため、引き続き、事務事業の精査に努め、新発債を計画的に発行するとともに、特別会計の健全化等に取り組んでいく。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 3次世代につなげる行財政基盤の確立 | | ②持続可能な財政基盤の確立 | | 担当課 | 市民生活部 収税課 |
|--|--|----------------|----------------|----------------|--------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達成度 |
| 市税の徴収率 (現年分) | 98.94% | 99.06% | 99.35% | 99.00% | A |
| 指 標 の 説 明 | 滞納整理事務の進行管理を徹底し、市税の収入未済金の縮減を図るとともに、債権整理の促進や口座振替の加入促進に取り組み、市税の現年分の徴収率を99.00%以上にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>滞納者へ、文書での早期催告や電話による早期折衝を実施し、納付意識を高めるとともに、滞納整理事務の進行管理を徹底することにより、すみやかな財産調査の実施、厳正な滞納処分の執行で、目標徴収率を達成することができた。</p> <p>また、納税者へ多様な納付方法の提供（コンビニ収納、クレジット払い）により、納税意識の醸成へ繋がった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>高額未納者から段階的な財産調査、県税事務所と協調した困難案件の解消 年金月、ボーナス月：徴収強化 1月～3月：出張徴収（県外）、 4月～5月：決算に向けて徴収窓口体制の強化 7月、9月を除く、年10回の休日納付相談窓口開設</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 3次世代につなげる行財政基盤の確立 | | ②持続可能な財政基盤の確立 | | 担当課 | 市民生活部 保険課 |
|--|---|----------------|----------------|----------------|--------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 国民健康保険料 (後期高齢者医療保険料含む) の徴収率(現年分) | 91.96% | 92.75% | 94.04% | 95.56%以上 | C |
| 指 標 の 説 明 | 徴収事務などの抜本的な見直しを行うこと、積極的な口座振替の加入促進を図ることなどにより、国民健康保険料(後期高齢者医療保険料含む)の徴収率の現年分の徴収率を95.56%以上にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き現年担当班と滞納繰越班の体制とし、現年担当班においては新たな滞納者への早期対応を行い、滞納繰越班においては徹底した財産調査と滞納処分を行った。 ・職員の徴収スキルの向上を図るため前年度に引き続き、収納アドバイザーを設置した。 ・口座振替の原則化、ペイジー口座振替サービス、窓口での口座振替勧奨を継続して実施した。 ・コンビニ収納、クレジット収納(国保のみ)により収納機会が拡大した。 ・確定申告時に使用する保険料納付額確認書を、前年度に交付実績のある者等に事前郵送することで、確定申告時の窓口、電話対応の緩和を図った。 | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>H29年度において、国民健康保険料収納率は前年度より約1.6%上昇したが目標値には到達しなかった。H30年度においては、引き続きの財産調査の徹底や現年度滞納者への接触時期を早める等、H29年度の取り組みを一層推し進め、収納率の向上に努める。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A=目標値を達成している

B=概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C=進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D=基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 3次世代につなげる行財政基盤の確立 | | ②持続可能な財政基盤の確立 | | 担当課 | 福祉保健部 長寿社会課 |
|---|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| 介護保険料の徴収率（現年分） | 98.56% | 98.90% | 98.95% | 98.95% | A |
| 指 標 の 説 明 | 納付勧奨の強化のほか、厳正な滞納処分や給付制限の実施など総合的・継続的な取組により、介護保険料の現年分の徴収率を98.95%以上にすることを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・未納者に対する早期からの文書・電話・戸別訪問による納付勧奨の強化 ・再三の督促、催告に応じなかった者に対する財産調査、差押など滞納処分の実施 ・長期未納者の滞納原因の究明に努め、納付困難と判断した者に対して滞納処分の執行停止を適用 ・給付制限の対象となる者に不納欠損処理予告通知を早期に発出し、納付困難な者による納付相談の機会を増やし分割納付に繋げた。 ・コンビニ収納開始に伴う収納環境の向上 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・現年分の徴収強化として、未納者に対する早期からの文書・電話・訪問等による納付勧奨の実施。 ・長期未納者の資産把握に努め、特に理由もなく滞納を継続する者に対し、厳正な滞納処分の実施。 ・滞繰滞納者に対しては、生活状況の把握に努め、納付困難と判断された者には滞納処分の執行停止を実施。 | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 3次世代につなげる行財政基盤の確立 | | ③次代を担う人材の育成と職員の資質向上 | | 担当課 | 総務部 職員課 |
|---|---|---------------------|-----------------|--------------------|------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| 特定研修機関における研修受講率 | 33.0% | 33.6% | 34.6% | 43.0%以上 | C |
| 指 標 の 説 明 | 全国市町村研修財団の研修施設、自治大学校、国土交通大学校、地方共同法人日本下水道事業団の研修施設などの高度な専門知識・技能の習得、実践的な応用力の養成を目的とする特定研修機関における研修を受講した職員の割合を、43.0%以上にするを目標とします。 | | | | |
| 【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 | | | | | |
| 全国市町村研修財団の研修施設派遣・・・20名 自治大学校派遣・・・1名 国土交通大学校派遣・・・2名 日本下水道事業団の研修施設派遣・・・1名 中国地方整備局の研修施設派遣・・・3名 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 | | | | | |
| 所属長推薦及び公募により、より多くの職員を研修に派遣する。 | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)

C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| | | | | | |
|---|---|---------------------|--------------|--------------|------------|
| 3次世代につなげる行財政基盤の確立 | | ③時代を担う人材の育成と職員の資質向上 | | 担当課 | 総務部 職員課 |
| 指標名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 中堅職員の能力開発・向上 研修受講率 | 9.7% | 29.2% | 33.3% | 100% | C |
| 指標の説明 | <p>40歳の職員のうち、40歳到達年度に能力向上研修を3科目以上受講している職員の割合です。</p> <p>管理監督者としてのスキルを早い段階で習得させるため、30歳から40歳までの間に、企画立案、政策形成、業務マネジメント、人材育成などに関する能力開発・向上研修を3科目以上受講した職員の割合を、100%にすることを目標とします。</p> | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>職員人材開発センターへの働きかけにより、県西部地区開催の講座を例年より増やすことが出来た。</p> <p>年度当初に、対象者(30歳代職員)と所属長あてに、文書にて受講履歴と必修選択について通知した。加えて、全庁LAN掲示板による研修公募を年間3回に分けて行うことで、参加者が日程を組みやすいようにした。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示板を活用し、受講研修のフィードバックを行う。(随時) ・ 受講実績を基に、直接本人に受講を促す。 | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している (達成率 80%以上)
- C = 進捗はしているが (達成率 80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 4 電子自治体の推進 | | ①情報誌システムの適切な管理 | | 担当課 | 総合政策部 情報政策課 |
|---|---|----------------|--------------|--------------|----------------|
| 指標名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標達成度 |
| 基幹業務システムの運用経費の削減 | 1億5,292万円 | 1億2,487万円 | 1億2,760万円 | 10%以上削減 | A |
| 指標の説明 | 基幹業務システム（住民基本台帳、税、国民健康保険など）の運用経費（機器のリース料含む）を、平成26年度の実績から10%以上削減することを目標とします。 | | | | |
| 【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】 基幹業務システムを刷新したことにより、トータルコストを削減した。 | | | | | |
| 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 引続き運用経費の削減に努める。 | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）

C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 4 電子自治体の推進 | | ②情報通信技術を活用した市民サービスの向上 | | 担当課 | 総合政策部 情報政策課 |
|--|--|-----------------------|-----------------|--------------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28 年度 実 績 値 | H29 年度 実 績 値 | 目 標 値 (H 3 2) | 目 標 達 成 度 |
| オンライン行政手続の利用件数 | 24,464 件 | 51,300 件 | 65,707 件 | 80,000 件 | C |
| 指 標 の 説 明 | 市民などがオンラインで行政手続（電子申告、電子申請、図書予約、施設予約、ふるさと納税、コンビニ証明交付、イベント参加申込など）を行った件数を、80,000 件にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成 29 年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>マイナンバーカードを利用した子育てワンストップサービスによる保育所等入所申込の電子申請受付を開始した。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>子育てワンストップサービスによる電子申請の対象事務を増やす。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

A = 目標値を達成している

B = 概ね目標を達成している（達成率 80% 以上）

C = 進捗はしているが（達成率 80% 未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D = 基準値を下回っている

5 いきいきとした『まちづくり』

| 4 電子自治体の推進 | | ②情報通信技術を活用した市民サービスの向上 | | 担当課 | 総合政策部 情報政策課 |
|---|--------------------------------------|-----------------------|----------------|----------------|----------------|
| 指 標 名 | 基 準 値 (H26orH27) | H28年度 実 績 値 | H29年度 実 績 値 | 目 標 値 (H32) | 目 標 達 成 度 |
| オープンデータ、地理空間情報の公開数 | 0項目 | 2項目 | 2項目 | 20項目 | C |
| 指 標 の 説 明 | オープンデータ、地理空間情報の公開数を20項目にすることを目標とします。 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成29年度の統合型GIS更新に合わせ、一般市民にもデータを公開する予定とされていたが、公開については30年度中の運用開始になった。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>GISデータの一般市民公開を開始する。 公開しているオープンデータを定期的に更新する。</p> | | | | | |

<目標達成度の区分> ※目標(最終)年度(H32)との比較

A=目標値を達成している

B=概ね目標を達成している(達成率80%以上)

C=進捗はしているが(達成率80%未満)、目標を達成するために引き続き取組が必要である

D=基準値を下回っている

5いきいきとした『まちづくり』

| | | | | | |
|--|---|---------------------|--------------|--------------|----------------|
| 7まち・ひと・しごと創生（地方創生）の推進 | | ①まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進 | | 担当課 | 総合政策部 総合政策課 |
| 指 標 名 | 基準値 (H26orH27) | H28年度 実績値 | H29年度 実績値 | 目標値 (H32) | 目標 達成度 |
| 米子がいな創生総合戦略に掲げた取組（施策）を実施または着手した割合 | - | 94.1% | 87.9% | 100% | B |
| 指 標 の 説 明 | 平成27(2015)年10月に策定した「米子がいな創生総合戦略」に掲げた取組（施策）を、その計画期間の終期（平成31年度末）までに全て実施または着手することを目標とします。 (参考) 策定時の取組（施策数）：91施策 | | | | |
| <p>【平成29年度中の取組状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成29年度は、前年度から継続する施策を中心に取組み、また、市長の選挙公約を踏まえ、主に施策の追加に係る改訂作業を実施した（改訂日は平成30年4月10日）。</p> <p>なお、総合戦略はこれまでの改訂により、施策数は117となっているが、このうち平成29年度終了時点で実施または着手した施策数は102施策である。</p> | | | | | |
| <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続きPDCAサイクルによる進行管理を徹底することで、総合戦略に掲げる取組（施策）の実施または着手した割合の100%達成を目指していく。</p> <p>なお、平成30年度は、3年間の取組を総点検し、総合戦略に掲げる施策の抜本的な見直しを検討することとしている。</p> | | | | | |

< 目標達成度の区分 > ※目標(最終)年度(H32)との比較

- A = 目標値を達成している
- B = 概ね目標を達成している（達成率80%以上）
- C = 進捗はしているが（達成率80%未満）、目標を達成するために引き続き取組が必要である
- D = 基準値を下回っている